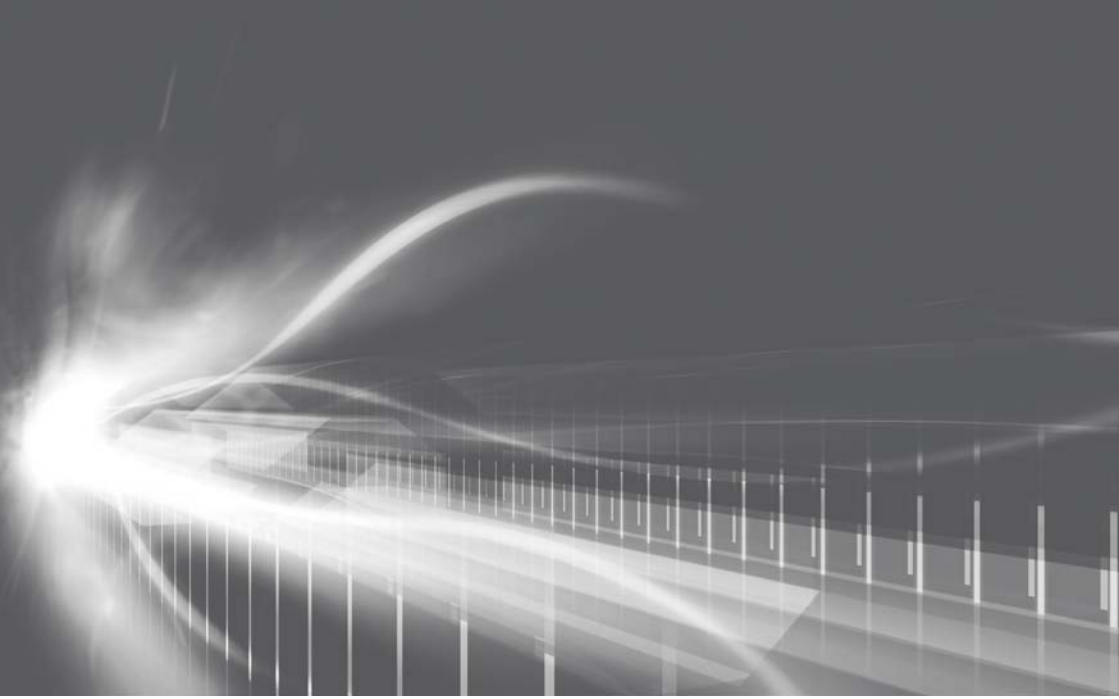


取 扱 書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

AQUA

TOYOTA

	イラスト目次	**イラスト**から検索
1	安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと**
2	メーターの見方	メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など
3	各部の操作	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など
4	運転	運転に必要な操作やアドバイス
5	室内装備・機能	室内装備の使い方など
6	お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法
7	万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処
8	車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など
	さくいん	**症状**から検索
		音から検索
		アルファベットで検索
		五十音で検索

知っておいていただきたいこと 6
本書の見方 10
検索のしかた 11
イラスト目次 12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に 24
安全なドライブのために 26
シートベルト 28
SRS エアバッグ 36
排気ガスに対する注意 46

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは 47
チャイルドシート 48

1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの特徴 68
ハイブリッドシステムの注意 72

1-4. 盗難防止システム
イモビライザーシステム 78
オートアラーム 80

2 メーターの見方

2. 計器の見方
警告灯／表示灯 84
計器類 89
マルチインフォメーションディスプレイ 99
エネルギーモニター／燃費画面 109

3 各部の操作

3-1. キー
キー 114

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア（フロントドア、リヤドア） 119
バックドア 125
スマートエントリー＆スタートシステム 129

3-3. シートの調整
フロントシート 135
リヤシート 136
ヘッドレスト 139

3-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル 142
インナーミラー 145
ドアミラー 146

3-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ 150

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって.....156
荷物を積むときの注意.....166

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）.....168
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）.....172
EV ドライブモード.....178
トランスミッション.....181
方向指示レバー.....185
パーキングブレーキ.....186

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ.....187
フォグランプスイッチ.....191
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）.....194
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）.....198

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方.....200

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense.....205
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....211
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....223
オートマチックハイビーム.....229
先行車発進告知機能.....233

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....236
クリアランスソナー.....240
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....248
パノラミックビューモニター.....260
運転を補助する装置.....290
LED イルミネーションビーム.....297

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....298
寒冷時の運転.....301

5 室内装備・機能

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン.....306
シートヒーター.....316

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....318
・インテリアランプ.....319
・パーソナルランプ.....319

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....321
・グローブボックス.....322
・小物入れ 323
・カップホルダー.....324
・ボトルホルダー.....325
ラゲージルーム内装備 326
・停止表示板収納スペース 326

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....328
・サンバイザー.....328
・バニティミラー.....328
・時計 329
・フロントアームレスト 330
・アクセサリーソケット 331
・ステアリングスイッチ 332
・アシストグリップ.....333
・コートフック.....334
・買い物フック.....335

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ..... 338
内装の手入れ..... 343

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット..... 350
ガレージジャッキ 353
ウォッシャー液の補充 354
タイヤについて 355
タイヤ空気圧について 360
エアコンフィルターの交換..... 362
キーの電池交換 364
ヒューズの点検、交換 367
電球（バルブ）の交換 370

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは.....384
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....385
発炎筒.....386
車両を緊急停止するには.....388
水没したときは.....390

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....391
警告灯がついたときは.....398
警告メッセージが
表示されたときは.....405
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....424
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....439
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....450
電子キーが正常に
働かないときは.....452
補機バッテリーが
あがったときは.....455
オーバーヒート
したときは.....463
スタックしたときは.....469

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（指定燃料、
オイル量など）.....472

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能
一覧.....480
初期設定が必要な項目.....483

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....486
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....490
アルファベット順さくいん.....492
五十音順さくいん.....493

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

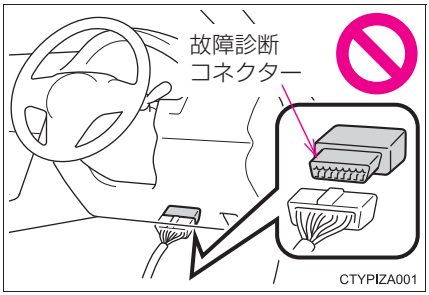
不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機の取り付け・取りはずし
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
    RF 送信機の取り付けについては、P. 9 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

・エンジン回転数／電気モーター回転数
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティ★など）の作動状況
・前方カメラの画像情報★

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。
EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。
・車両の各システムの作動状況
・アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは
・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- ハイブリッドシステム
- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- クルーズコントロール
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

ハイブリッドシステムについて

アクアは電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたハイブリッドシステムを採用しています。

アクアを安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の見方

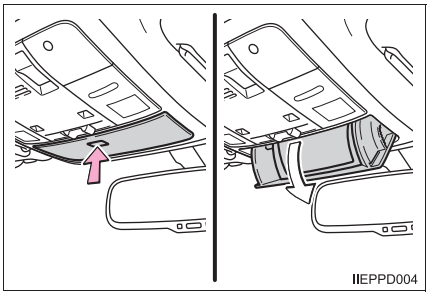
警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

注意 お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

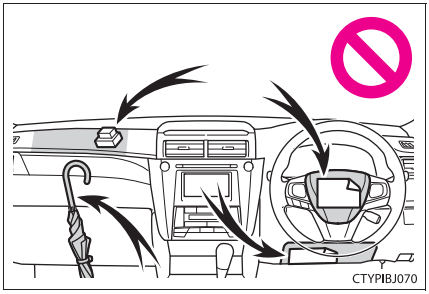
押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。

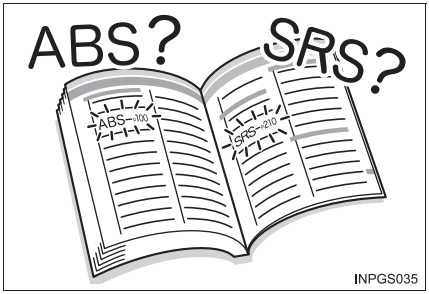


知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

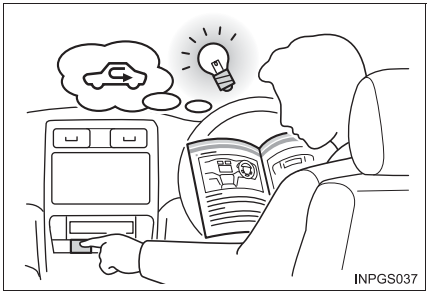
■ 名称から探す

・五十音順さくいん.....493
・アルファベット順
さくいん.....492



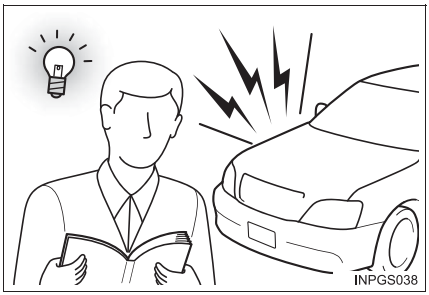
■ 取り付け位置から探す

・イラスト目次.....12



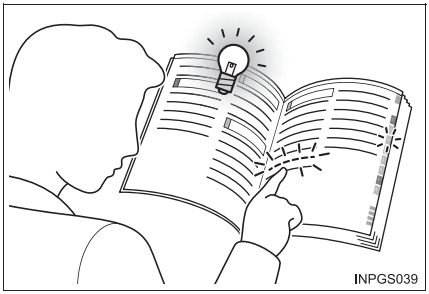
■ 症状や音から探す

・こんなときは
（症状別さくいん）.....486
・車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....490



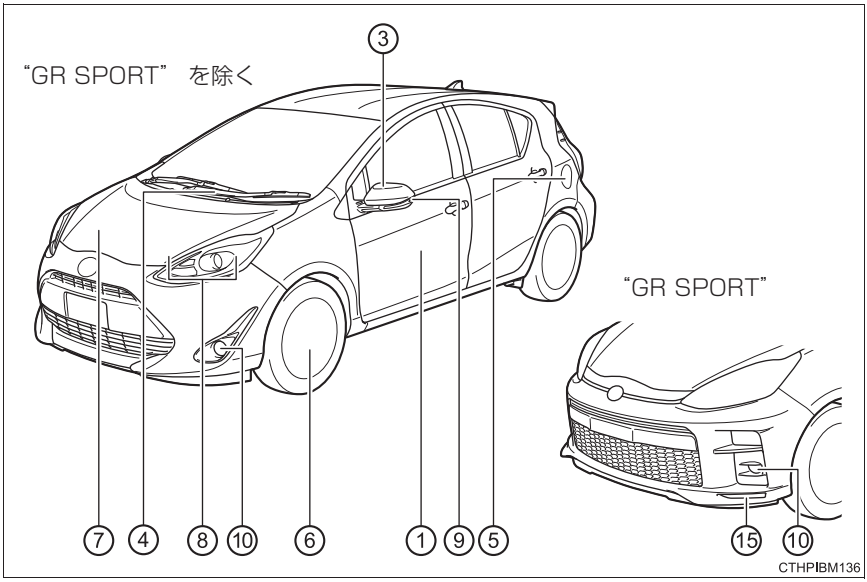
■ タイトルから探す

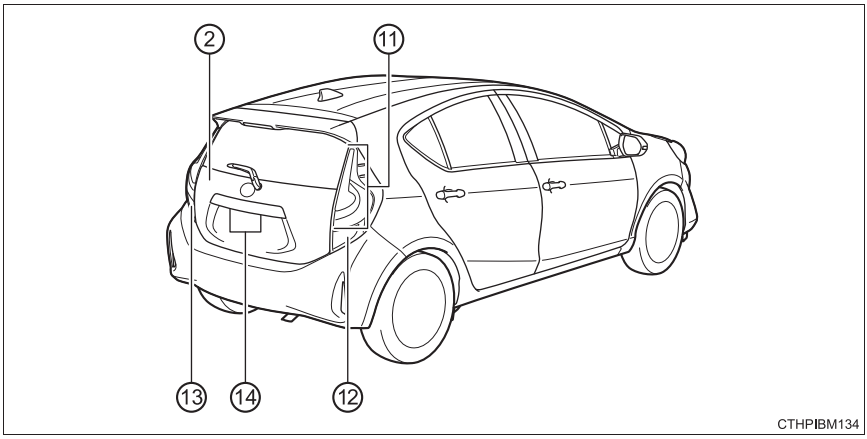
・目次.....2



イラスト目次

■外観


“GR SPORT” を除く
“GR SPORT”
3
7
4
8
10
6
1
9
5
15
10
CTHPIBM136


2
11
13
14
12
CTHPIBM134

① **ドア** ..... **P. 119**
施錠／解錠 ..... P. 119, 122
ドアガラスの開閉 ..... P. 150
メカニカルキーでの施錠／解錠★ ..... P. 452
警告灯※1・警告メッセージ※2 ..... P. 398, 405
② **バックドア** ..... **P. 125**
車外から開ける ..... P. 125
警告灯※1・警告メッセージ※2 ..... P. 398, 405
③ **ドアミラー** ..... **P. 146**
鏡面の角度調整 ..... P. 146
ミラーの格納 ..... P. 146
曇りを取る（ミラーヒーター） ..... P. 309
④ **ワイパー** ..... **P. 194**
冬季の注意 ..... P. 301
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ ..... P. 309
⑤ **給油口** ..... **P. 200**
給油方法 ..... P. 200
燃料の種類・燃料タンク容量 ..... P. 472
⑥ **タイヤ** ..... **P. 355**
サイズ・空気圧 ..... P. 477
冬用タイヤ・タイヤチェーン ..... P. 301
点検・ローテーション ..... P. 355
パンク時の対処 ..... P. 424, 439
⑦ **ボンネット** ..... **P. 350**
開け方 ..... P. 350
エンジンオイル ..... P. 473
オーバーヒート時の対処 ..... P. 463

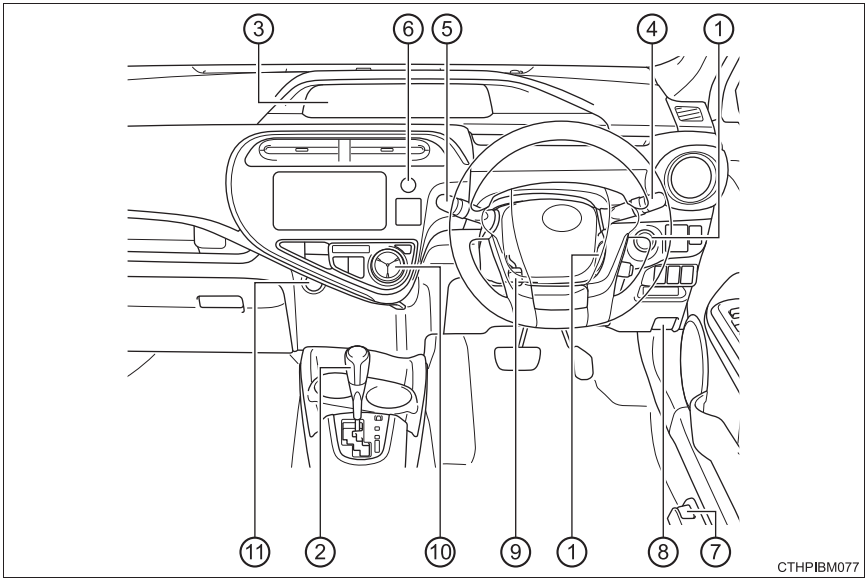
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1：マルチインフォメーションディスプレイ非装着車
※2：マルチインフォメーションディスプレイ装着車

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P. 370, ワット数：P. 478）

⑧ **ヘッドランプ・車幅灯・フロント方向指示灯** . . . . . .P. 185, 187
⑨ **サイド方向指示灯** . . . . . .P. 185
⑩ **フロントフォグランプ★** . . . . . .P. 191
⑪ **制動灯・尾灯・リヤ方向指示灯** . . . . . .P. 185, 187
⑫ **リヤフォグランプ★** . . . . . .P. 191
後退灯★
シフトポジションをＲにする . . . . . .P. 181
⑬ **後退灯**
シフトポジションをＲにする . . . . . .P. 181
⑭ **番号灯** . . . . . .P. 187
⑮ **LED イルミネーションビーム★** . . . . . .P. 297

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■インストルメントパネル



① **パワースイッチ . . . . . P. 168, 172**

ハイブリッドシステムの始動・モード切りかえ . . . . . P. 168, 172

ハイブリッドシステムの緊急停止 . . . . . P. 388

ハイブリッドシステムが始動できないときの対処 . . . . . P. 450

警告灯 ※1・警告メッセージ ※2 . . . . . P. 398, 405

② **シフトレバー . . . . . P. 181**

シフトポジションの切りかえ . . . . . P. 181

けん引時の注意 . . . . . P. 391

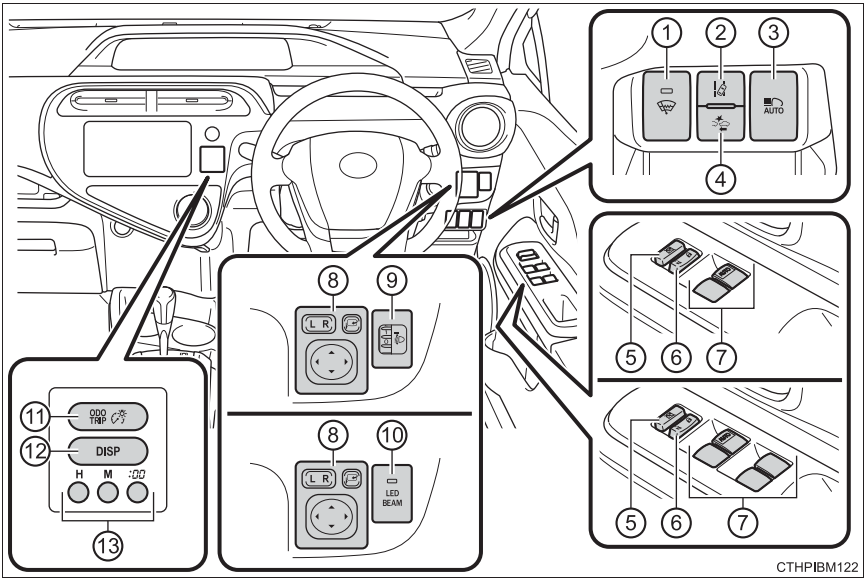
シフトレバーが動かないときの対処 . . . . . P. 183

※1：マルチインフォメーションディスプレイ非装着車
※2：マルチインフォメーションディスプレイ装着車

③ **メーター**.....**P. 89**
見方・明るさの調整 .....P. 89
警告灯／表示灯.....P. 84
警告灯点灯時の対処 .....P. 398
マルチインフォメーションディスプレイ★.....P. 99
表示内容.....P. 99
警告メッセージ表示時の対処.....P. 405
④ **方向指示レバー**.....**P. 185**
ランプスイッチ.....**P. 187**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯.....P. 187
フロントフォグランプ★ / リヤフォグランプ★.....P. 191
⑤ **ワイパー＆ウォッシャースイッチ** .....**P. 194**
使い方.....P. 194
ウォッシャー液の補充.....P. 354
⑥ **非常点滅灯スイッチ** .....**P. 385**
⑦ **給油口オープナー** .....**P. 200**
⑧ **ボンネット解除レバー**.....**P. 350**
⑨ **ハンドル位置調整レバー** .....**P. 142**
⑩ **オートエアコン**.....**P. 306**
操作方法.....P. 306
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）...P. 309
⑪ **アクセサリーソケット**.....**P. 331**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

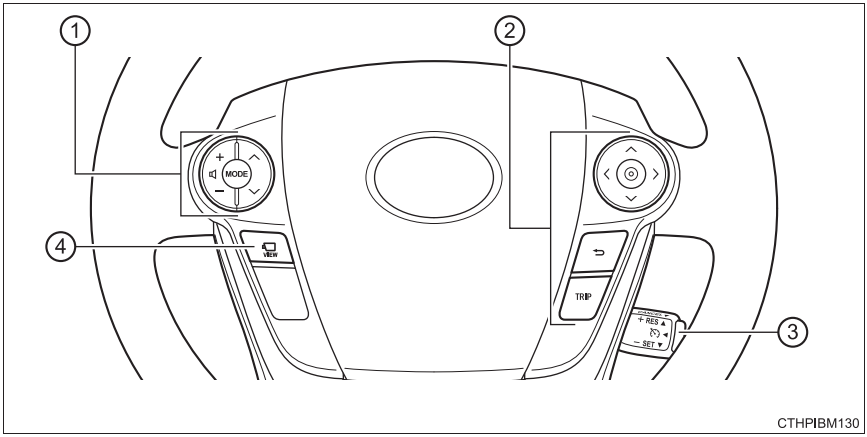
■スイッチ類



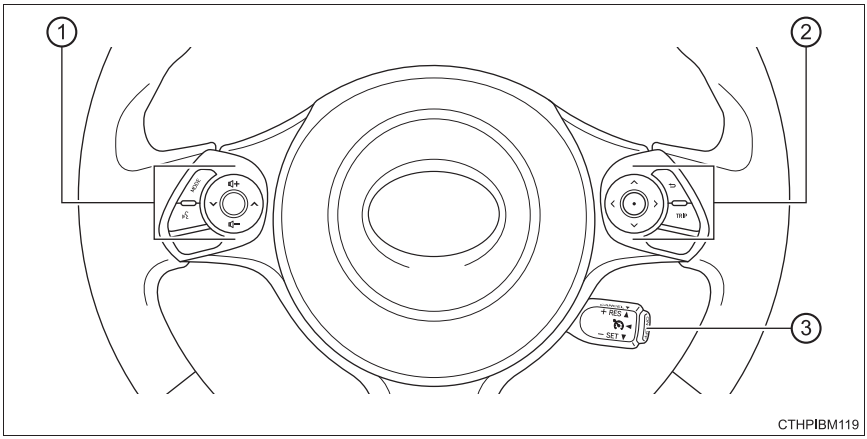
① ウインドシールドデアイサースイッチ★.....P. 309
② LDA(レーンディパーチャーアラート) スイッチ★ .....P. 223
③ オートマチックハイビームスイッチ★ .....P. 229
④ PCS(プリクラッシュセーフティ) スイッチ★.....P. 211
⑤ ウインドウロックスイッチ .....P. 150
⑥ ドアロックスイッチ .....P. 122
⑦ パワーウインドウスイッチ .....P. 150
⑧ ドアミラースイッチ .....P. 146
⑨ 手動光軸調整ダイヤル★ .....P. 188
⑩ LED イルミネーションビームスイッチ★.....P. 297
⑪ TRIP スイッチ★.....P. 93
⑫ DISP スイッチ★ .....P. 91
⑬ 時計調整スイッチ★.....P. 329

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ タイプ A

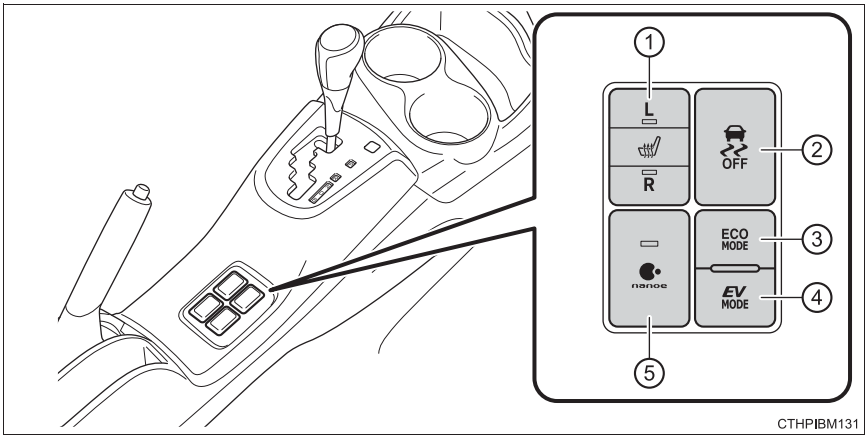


▶ タイプ B



① オーディオ操作スイッチ★. . . . . .P. 332
② メーター操作スイッチ★ . . . . . .P. 100
③ クルーズコントロールスイッチ★. . . . . .P. 236
④ パノラミックビューモニターメインスイッチ★ . . . . . .P. 260

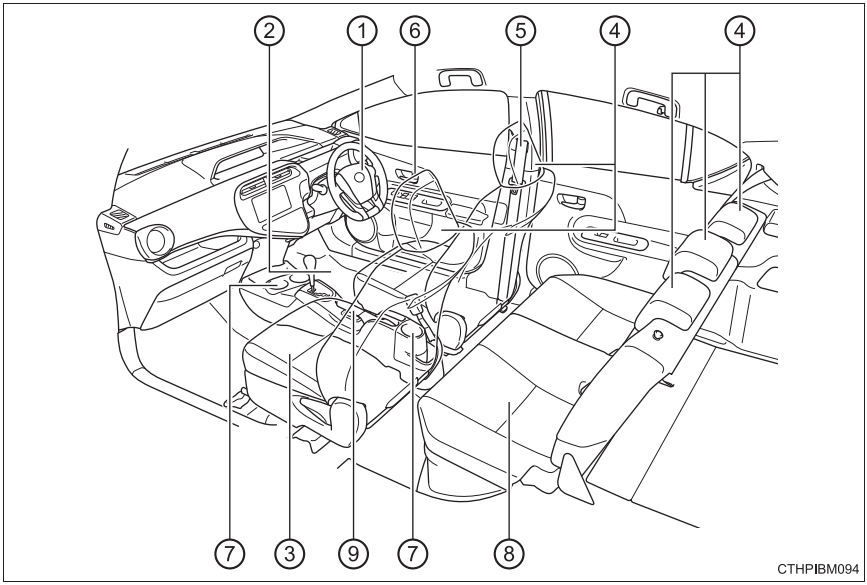
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



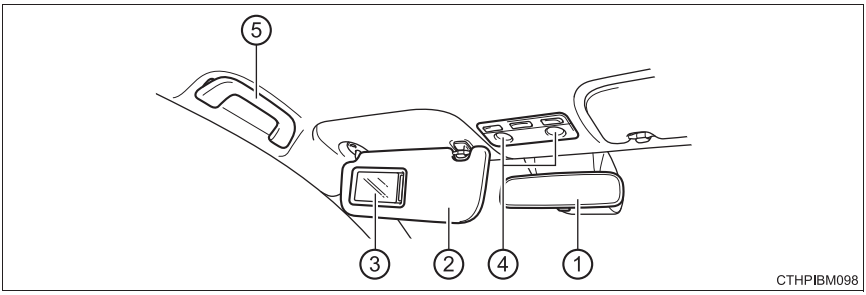
① シートヒータースイッチ★.....P. 316
② VSC OFF スイッチ .....P. 291, 292
③ エコドライブモードスイッチ.....P. 182
④ EV ドライブモードスイッチ .....P. 178
⑤「ナノイー」スイッチ★ .....P. 309

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■室内



① SRS エアバッグ . . . . . P. 36
② フロアマット . . . . . P. 24
③ フロントシート . . . . . P. 135
④ ヘッドレスト . . . . . P. 139
⑤ シートベルト . . . . . P. 28
⑥ ドアロックレバー . . . . . P. 122
⑦ カップホルダー . . . . . P. 324
⑧ リヤシート . . . . . P. 136
⑨ パーキングブレーキ . . . . . P. 186
かける・解除する . . . . . P. 186
冬季の注意 . . . . . P. 302
警告ブザー・警告灯・警告メッセージ ※1 . . . . . P. 398, 405



① インナーミラー.....P. 145
② サンバイザー ※2.....P. 328
③ バニティミラー★ .....P. 328
④ インテリアランプ ※3 ／パーソナルランプ.....P. 319
⑤ アシストグリップ★.....P. 333

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。
※1： マルチインフォメーションディスプレイ装着車

※2： やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→ P. 51）

※3： 図はフロントですが、リヤにも装着されています。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に
お使いいただくために
運転する前に.....24
安全なドライブのために.....26
シートベルト.....28
SRS エアバッグ.....36
排気ガスに対する注意.....46
1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....47
チャイルドシート.....48
1-3. ハイブリッドシステム
ハイブリッドシステムの
特徴.....68
ハイブリッドシステムの
注意.....72
1-4. 盗難防止システム
イモビライザーシステム.....78
オートアラーム.....80

運転する前に

点検整備

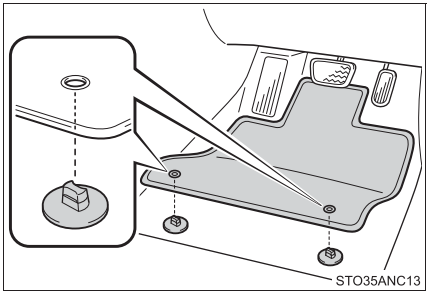
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

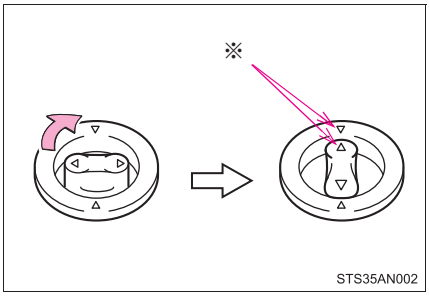
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

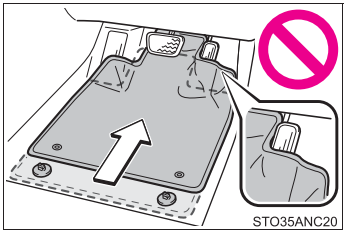
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

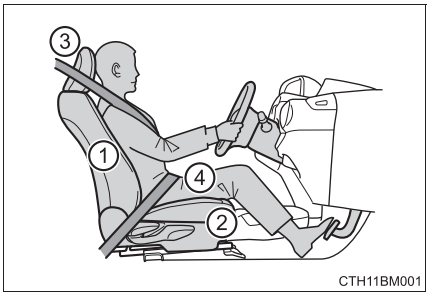
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- ハイブリッドシステム停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する


STO35ANC20

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について



① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 135）

② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 135）

③ 調整式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 139）

④ シートベルトが正しく着用できる（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 28）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 48）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 145, 146）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

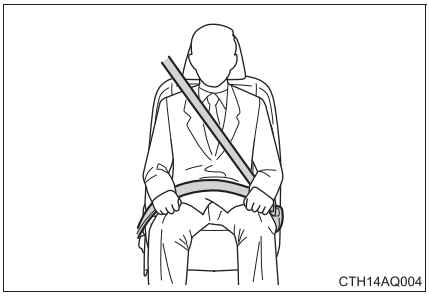
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

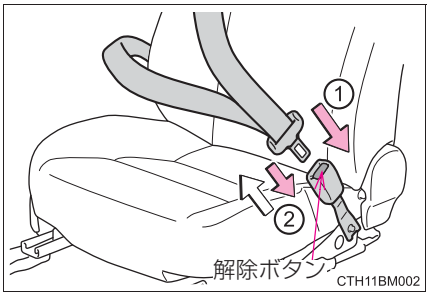
  首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする



着け方、はずし方

① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

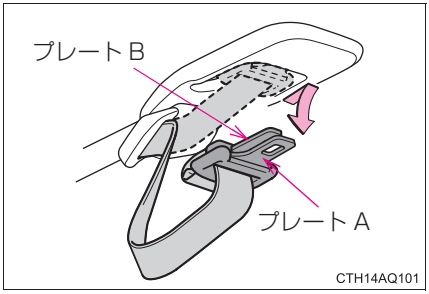


リヤ中央席シートベルト

■ 着用のしかた

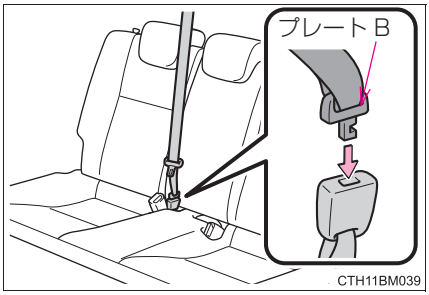
リヤ中央席は、2 つのバックルを用いた 3 点式のシートベルトです。正しく作動させるために、シートベルトバックルを正しい位置へ確実に挿し込んでください。

1 プレートをいったんホルダーの奥へ押し込み取り出す



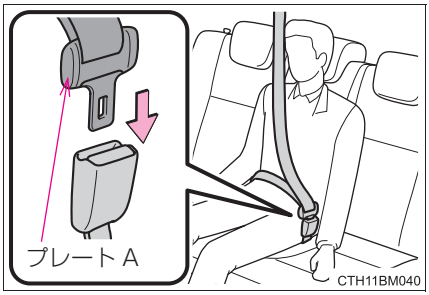
2 プレート B をバックルに挿し込む

“カチッ” と音がするまで挿し込む



3 プレート A をバックルに挿し込む

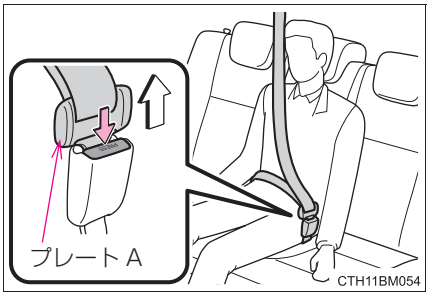
“カチッ” と音がするまで挿し込む



■ 分離・格納のしかた

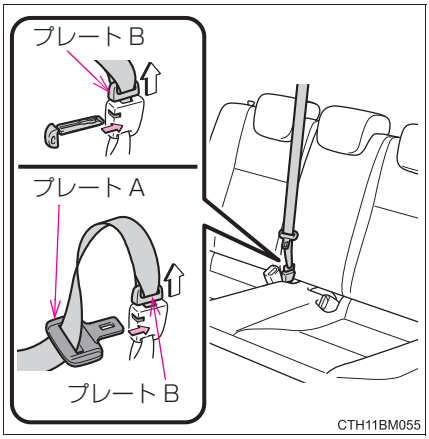
リヤ中央席シートベルトは、リヤシートを折りたたむ場合など必要なときに分離・格納することができます。安全のため、ベルトを分離したときは必ずプレートを所定の場所に格納してください。

1 バックルの解除ボタンを押しプレート A をはずす

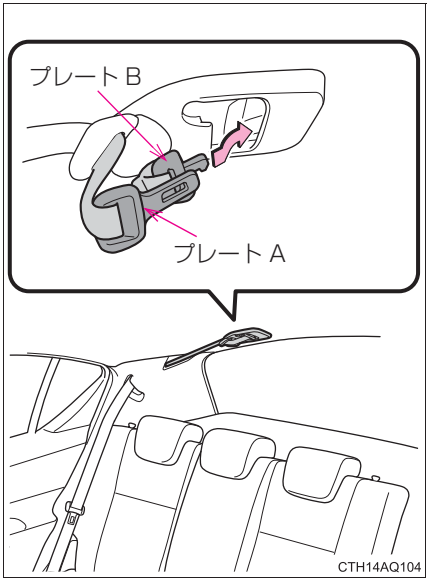


2 キー（→ P. 114）、またはプレート A をバックルの穴に挿し込む

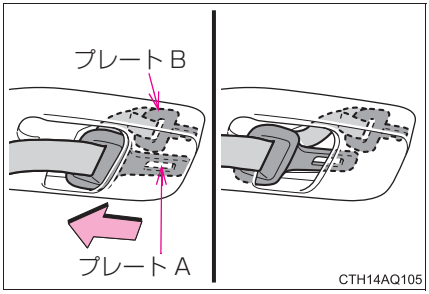
シートベルトを分離・分割するときは、ベルトをもちながらゆっくり巻きもどします。



3 プレート A とプレート B を重ねて天井のホルダーに奥まで挿し込む



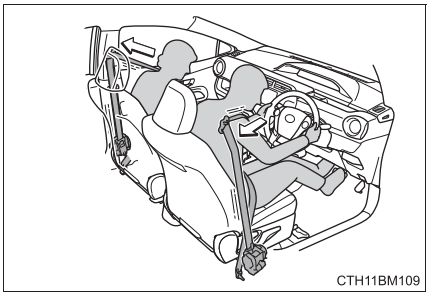
4 プレート B をホルダーの奥に挿し込んだ状態で、プレート A のみホルダーの入口をふさぐ位置まで動かす



シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 48)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 28)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

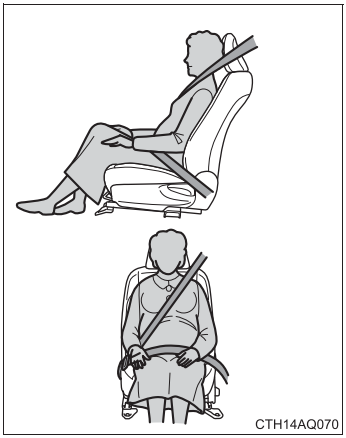
■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組に付き一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→ P. 28）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



警告

■**疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■**お子さまを乗せるときは**

→ P. 63

■**プリテンショナー付きシートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

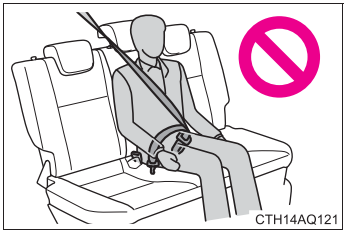
■**シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■分離格納式シートベルトについて

●分離格納式シートベルトを使用するときは、必ずプレート B とバックルを結合してください。結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

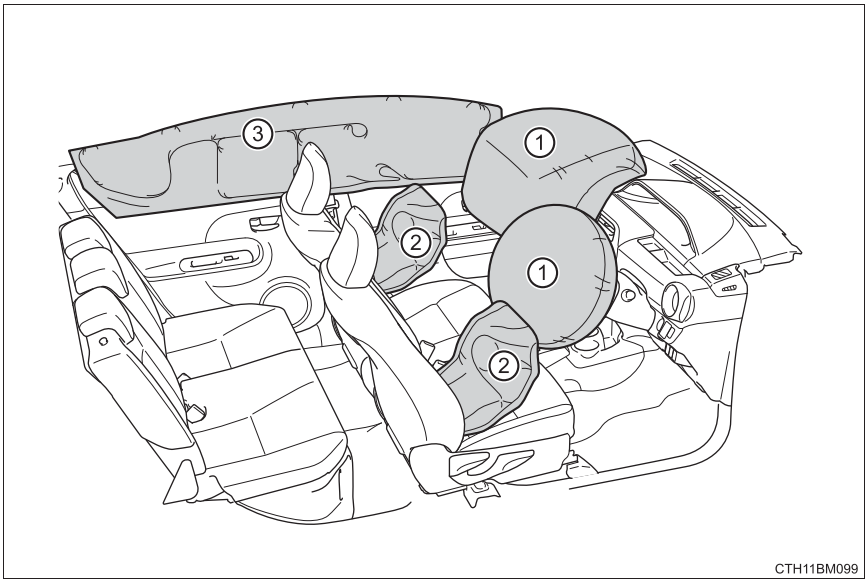


●分割可能シート装着車：右側のリヤシートを前に倒した状態で、リヤ中央席に座らないでください。倒したシートにリヤ中央席のシートベルトバックルが挟まれるため、正しく装着することができません。事故などの場合にシートベルトが十分な効果を発揮できず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●分離格納式シートベルトを格納するときは、プレートを確実に挿し込み、固定してください。正しく格納していないと、走行中にプレートが飛び出し、乗員にあたるなどしてけがをするおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



◆ フロント SRS エアバッグ

① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

◆ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★

② SRS フロントサイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

③ SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

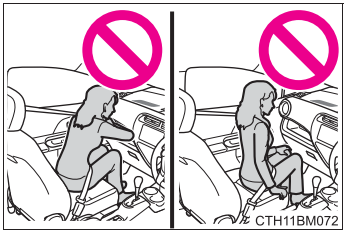
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。（→ P. 48）

警告

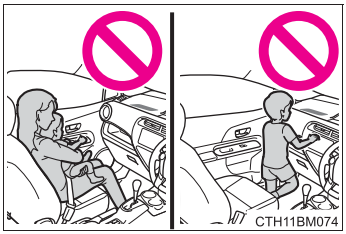
■SRS エアバッグについて

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

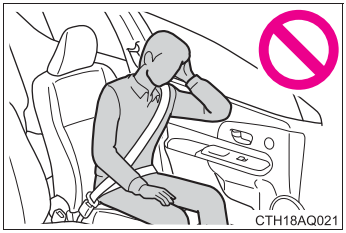


●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

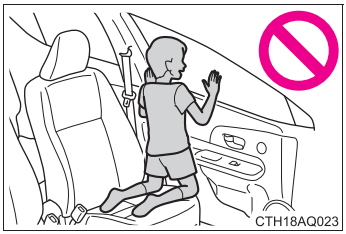
●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



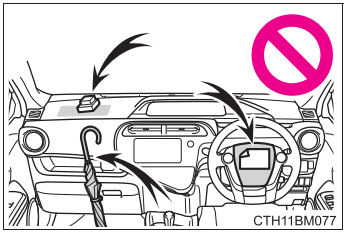
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない



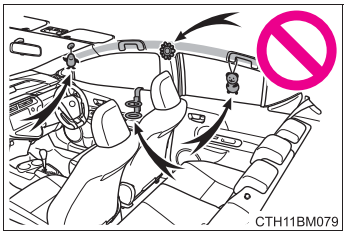
警告

■SRS エアバッグについて

●ダッシュボード･ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール･アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く→ P. 429）



●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車:SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ非装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ装着車：SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理

●ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理・取りはずし・改造

●フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理、改造

●グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け

●サスペンションの改造

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車：フロント席などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：フロント席・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなく、エアバッグ構成部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝撃の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、とくに衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動します。

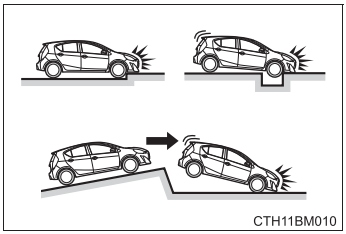
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグ★が作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき


CTH11BM010

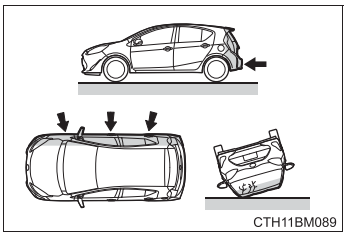
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転


CTH11BM089

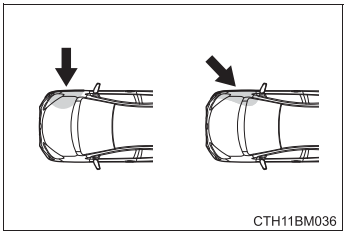
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

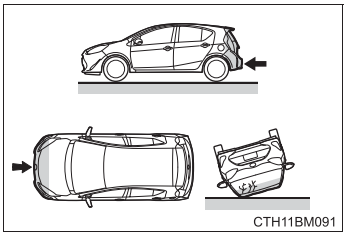


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

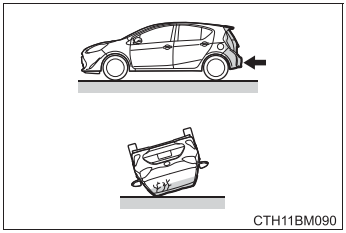
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転



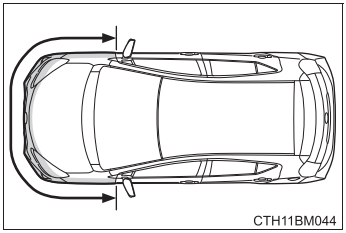
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ **トヨタ販売店に連絡が必要な場合**

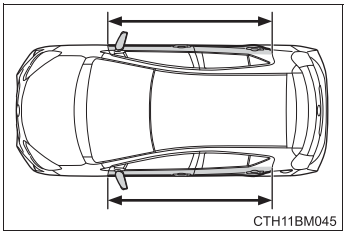
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

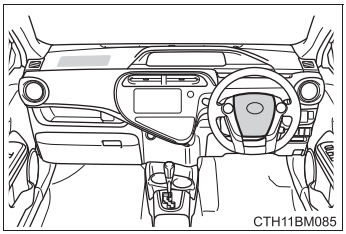
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTH11BM044

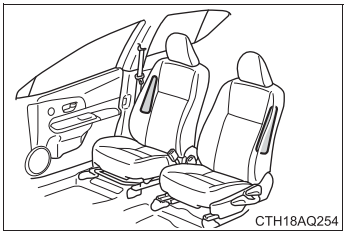
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ★はふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき


CTH11BM045

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

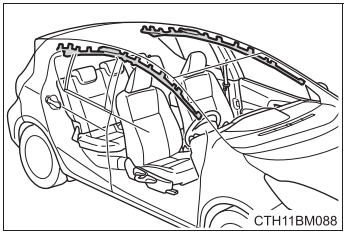

CTH11BM085

●SRS サイドエアバッグ★が内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき


CTH18AQ254

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●SRS　カーテンシールドエアバッグ★が内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。
バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、ハイブリッドシステムを停止してください。
- 長時間ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。
  やむを得ないときは、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、ハイブリッドシステムが作動したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→ P. 48）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→ P. 123）・ウインドウロックスイッチ（→ P. 150）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 48 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 48
チャイルドシートを使用するときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 50
シート位置別チャイルドシートの適合性について・・・・・・・・・P. 53
チャイルドシートの取り付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 61
・シートベルトで固定する・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 62
・ISOFIX ロアアンカレッジで固定する・・・・・・・・・・・・・・P. 64
・トップテザーアンカレッジを使用する・・・・・・・・・・・・・・P. 66

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→ P. 53）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

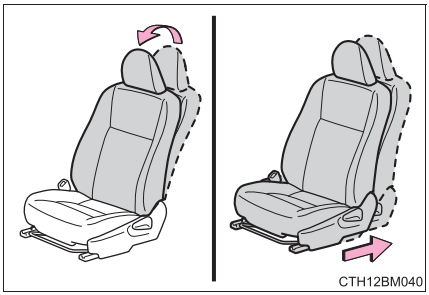
- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認ください。（→ P. 53）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。



- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす

  背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす
  取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げる

警告

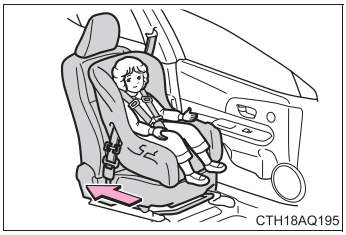
■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

CTH11BM037

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。


CTH18AQ195

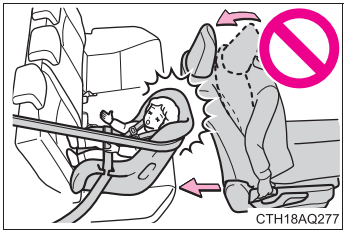
警告

■チャイルドシートを使用するとき

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。



●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 55）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 59）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

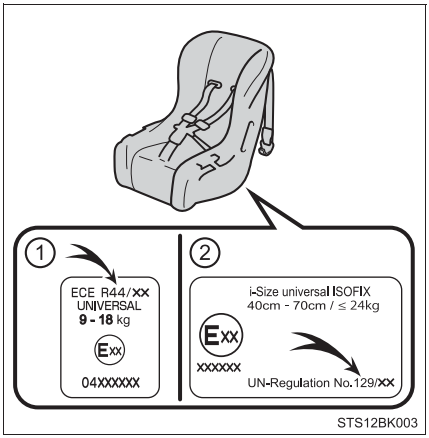
1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

① UN（ECE）R44 認可マーク※2
対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN(ECE) R129認可マーク※2
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。



※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

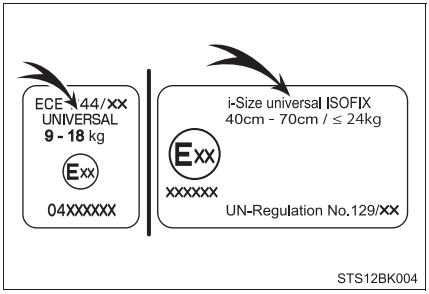
※2 表示されているマークは、商品により異なります。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

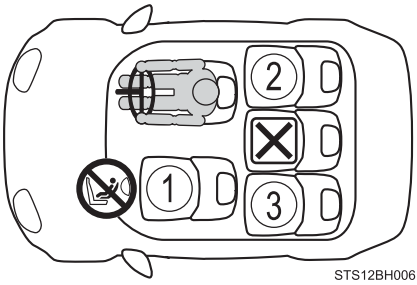
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

・ユニバーサル「universal（汎用）」
・セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・リストリクティッド「restricted（限定）」
・ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性



※1,2,3 ①	L
※3 ②	U L
※3 ③	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 59）に記載されたチャイルドシートに適しています。

ISOFIX チャイルドシートに適しています。

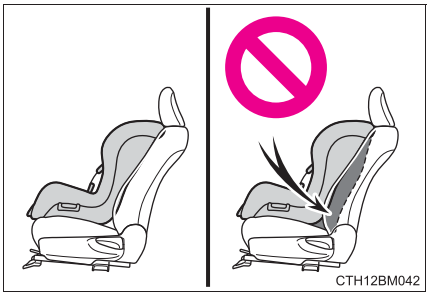
トップテザーアンカレッジが装備されています。

チャイルドシートの取り付けに適していません。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	無	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	無	無
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1 ／ L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1 ／ R2X ／ R2 ／ R3）	×	R1	R1
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X ／ F2 ／ F3）	×	F2X、F2、F3	F2X、F2、F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 ／ B3）	×	×	×

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

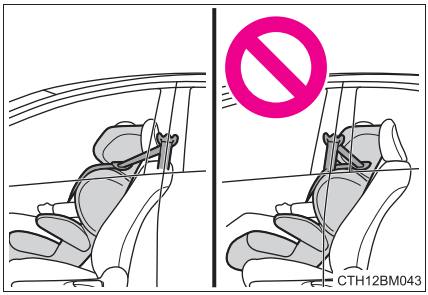
質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0, 0+ （13kg まで）	トヨタ純正NEO G-Child baby	×	○	○
	トヨタ純正NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ （9 ～ 18kg）	トヨタ純正NEO G-Child baby	○ 前向きのみ	○	○
	トヨタ純正NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ，Ⅲ （15 ～ 36kg）	トヨタ純正ジュニアシート	○ ※1 × ※2	○	○

※1 ヘッドレスト調整式

※2 ヘッドレスト非調整式

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

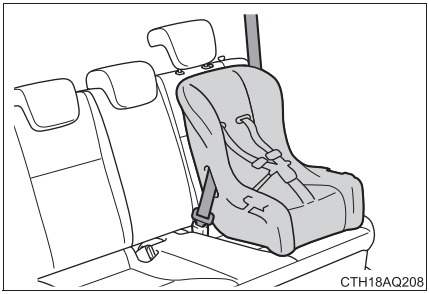
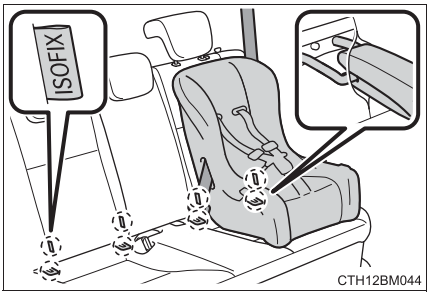
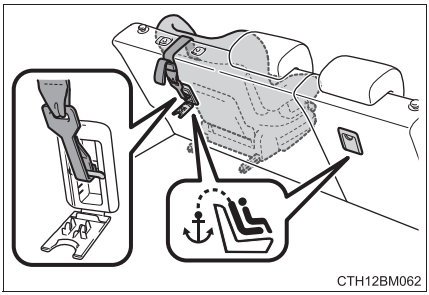
- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する	 CTH18AQ208	P. 62
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する	 CTH12BM044	P. 64
テザーベルトを固定する	 CTH12BM062	P. 66

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 54, 55）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→ P. 50）

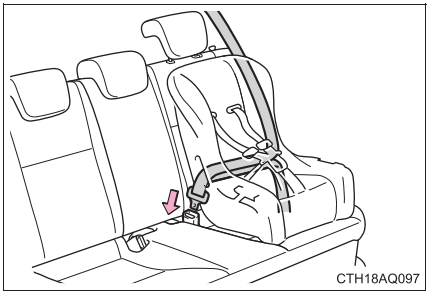
2 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるとき：
背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→ P. 139）

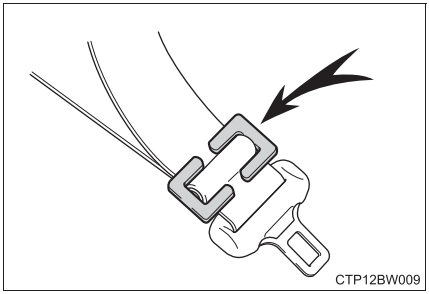
4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→ P. 63）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

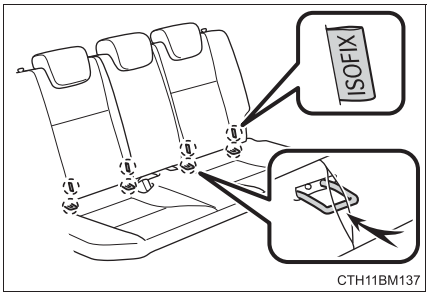
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています）



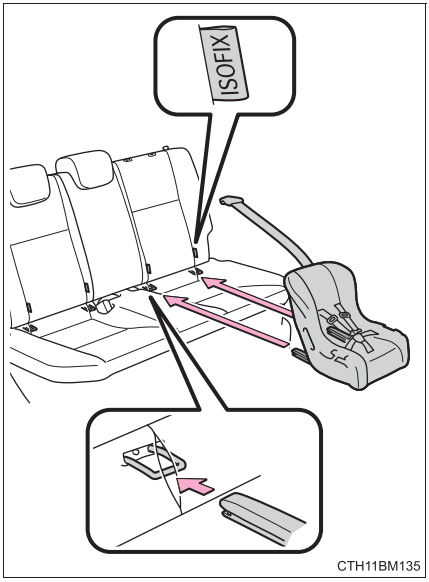
■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 54, 55）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 66)

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→ P. 63）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

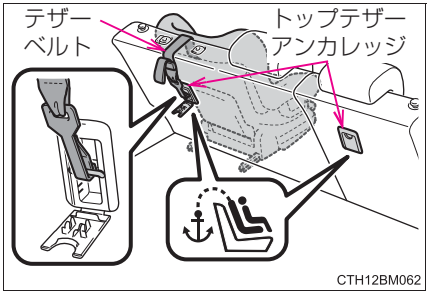
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

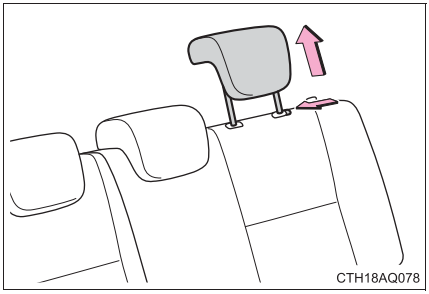


■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストを上げる

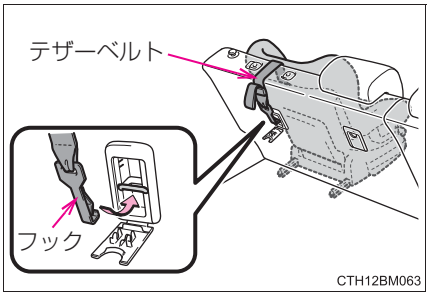
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→ P. 139)



2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→ P. 63)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

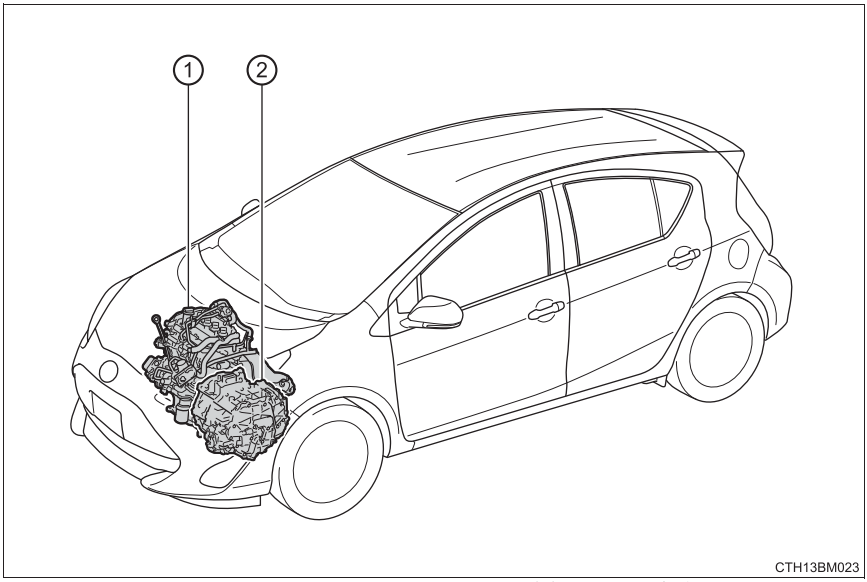
注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

ハイブリッドシステムの特徴

ハイブリッドシステムは、電気モーターとガソリンエンジンという２つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に配慮した技術となっています。



※ イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ガソリンエンジン　② 電気モーター

◆ 停車時・発進時・低速走行時

停車中はガソリンエンジンを停止※します。
発進時は電気モーターを使って発進します。
低速走行時や下り坂走行時もガソリンエンジンを停止※し、電気モーターを使って走行します。
シフトレバーがNにあるときは駆動用電池への充電が行われません。

※ 駆動用電池の充電が必要なときやエンジン暖機中など、ガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。（→P. 70）

◆ 通常走行時

主にガソリンエンジンを使用して走行します。
必要に応じて電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

◆ 急加速時

アクセルペダルを強く踏み込むと、ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

◆ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

車両接近通報装置

ガソリンエンジンが停止した状態での走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25 km/h をこえると消音します。

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

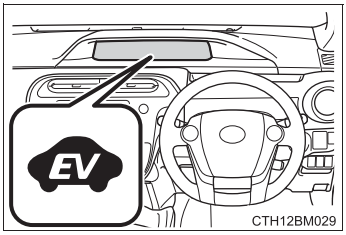
●シフトレバーが D または B で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき

●シフトレバーが D または B で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■EV 走行インジケーターランプについて

ガソリンエンジン停止中や、電気モーターのみで走行しているときに、EV 走行インジケーターランプが点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：エコジャッジ画面もしくはエコウォレット画面を選択したときに表示されます。（→ P. 102）



■ガソリンエンジンの自動停止について

車両状態に応じて、ガソリンエンジンは自動的に始動・停止します。
ただし、次の状態では自動停止しないことがあります。

●ガソリンエンジン暖機中

●駆動用電池充電時

●駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき

●暖房をかけているとき

■駆動用電池の充電について

ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2 ～ 3ヶ月に一度、約 30 分間または 16 km ほど運転してください。
万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→ P. 458

■補機バッテリーあがり発生後や、交換などでターミナルを脱着したとき

ガソリンエンジンの自動停止が行われないことがあります。
自動停止しない状態が２～３日続く場合は、トヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

ハイブリッド車は、READY インジケータが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にシフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ハイブリッドシステム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

●エンジンルームからのモーター音

●ハイブリッドシステム始動時や停止時に聞こえる車両後方および駆動用電池からの音

●ハイブリッドシステム始動時および停止時に車両後方から聞こえる“コトン”、“カチッ”などの高電圧リレーの音

●バックドアを開けたときに聞こえる作動音

●ガソリンエンジンの始動・停止時や低速走行時、およびアイドリング中にトランスミッション付近から聞こえる音

●急加速時のエンジン音

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる回生ブレーキの音

●ガソリンエンジンの始動・停止による振動

●リヤシート下（左側）にある吸入口から聞こえるファンの音

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

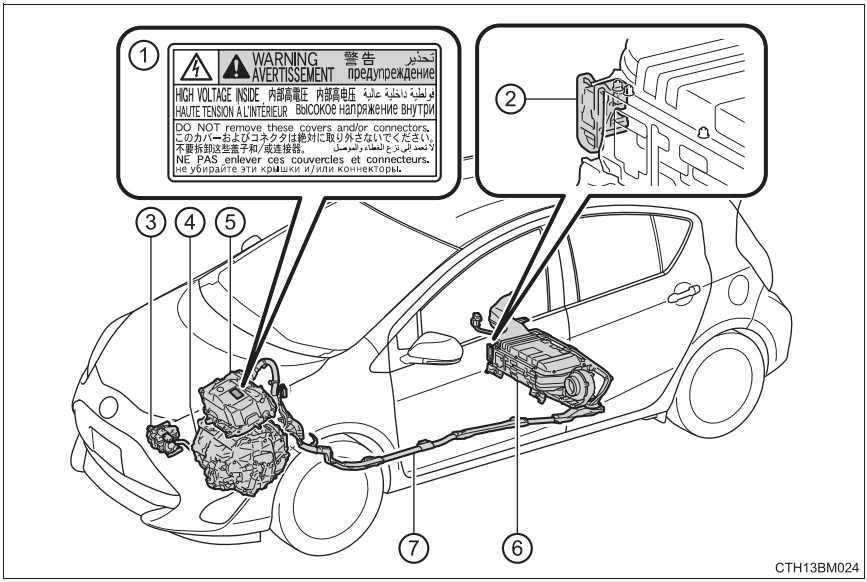
また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

■メンテナンスや修理、廃車について

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

ハイブリッドシステムの注意

ハイブリッドシステムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約520 V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

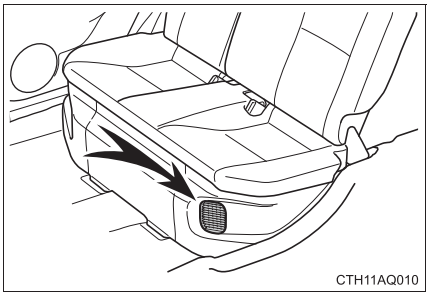


※ イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

① ラベル
② サービスプラグ
③ エアコンコンプレッサー
④ 電気モーター
⑤ パワーコントロールユニット
⑥ 駆動用電池
⑦ 高電圧ケーブル（オレンジ色）

駆動用電池冷却用吸入口

リヤシート下（左側）部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の入出力が制限され、燃費低下の原因になります。



緊急停止システム

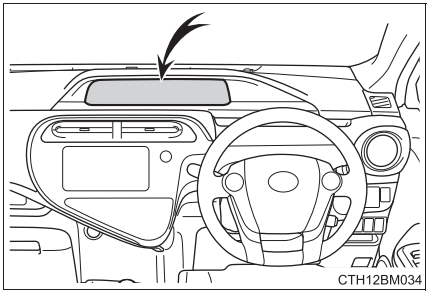
事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。
この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告灯および警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に警告灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）または警告メッセージが表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）されます。

警告灯はメーターで点灯し、警告メッセージはマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

表示された警告灯または画面の指示に従ってください。（→ P. 398，405）



知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。
もう一度始動操作をしてもREADYインジケータが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

■ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→ P. 401）が消灯するまで給油してから再始動してください。少量の給油では始動できない場合があります。（給油量の目安は車両水平状態で約 5L 以上です。車両の傾きによって給油量はかわります。傾いているときは、少し多めに給油してください）

■電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

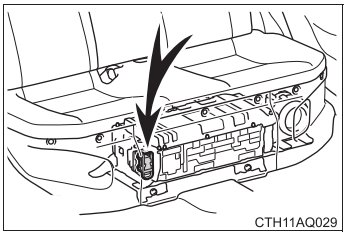
■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。
次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はハイブリッドシステムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



警告

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対さわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→ P. 391）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。
この場合は、トヨタ販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位に触れてしまい、感電事故が発生する
・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

警告

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで、吸入口がふさがれないようにしてください。
吸入口がふさがれると駆動用電池の入出力が制限され、燃費低下の原因になったりします。

●吸入口にほこりなどがたまったときは、目づまりしないよう掃除機などで清掃してください。

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

●駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●吸入口にはフィルターが取り付けられています。吸入口を清掃してもフィルターの汚れが目立つときは、フィルターの清掃・交換をお勧めします。フィルターの清掃・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
メンテナンス・点検警告灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）、または「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）されたときは、フィルターの目づまりが考えられます。フィルターの清掃をしてください。（→ P. 343）フィルターを清掃しても表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

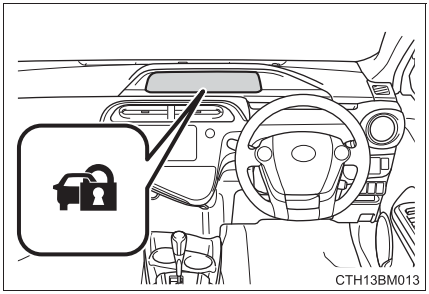
イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではハイブリッドシステムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーをパワースイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。



登録されたマスターキー、またはサブキーをパワースイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に作動せずハイブリッドシステムを始動できないことがあります。(→P. 131)

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは

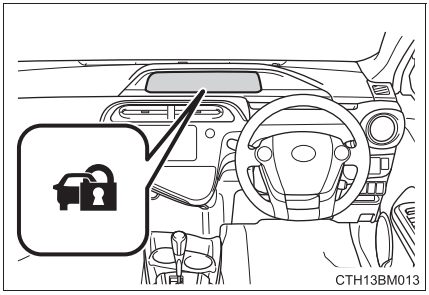
オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアまたはバックドアが、スマートエントリー＆スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

オートアラームを設定する

ドア・バックドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。



オートアラームの設定を解除・作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム★・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはバックドアを解錠する
- ハイブリッドシステムを始動する（数秒後に解除・停止します）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ドアを施錠する前の確認

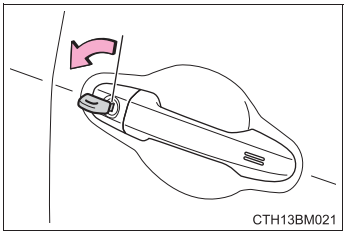
オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

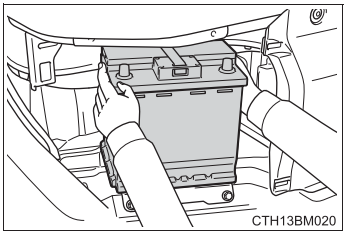
- キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）を使ってドアを解錠したとき


CTH13BM021

- 車内に残った人が、ドア・バックドア・ボンネットを開けたり、解錠したとき

CTH13BM022

- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→ P. 459）


CTH13BM020

■オートアラーム作動によるドアロック機能について

次のような場合、車内への不正な侵入を防止するため自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

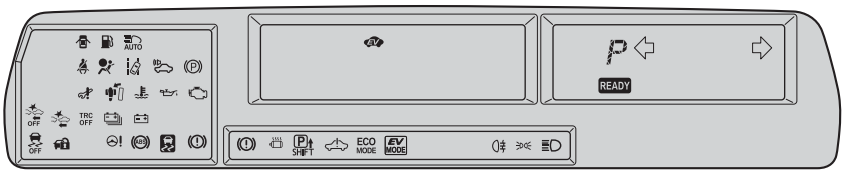
2

2. 計器の見方
警告灯／表示灯.....84
計器類.....89
マルチインフォメーション
ディスプレイ.....99
エネルギーモニター／
燃費画面.....109

警告灯／表示灯

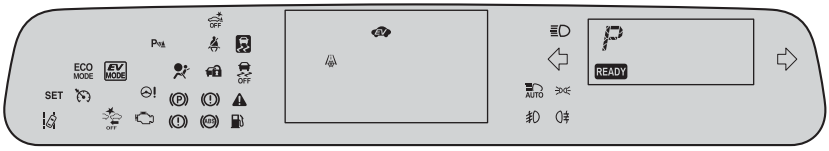
メーター内の警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車



CTH20BM194

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



CTH20BM191

警告灯

システム異常などを警告します。

※
ブレーキ警告灯
（→ P. 398）
（赤色）

※
スリップ表示灯
（→ P. 399）

※
充電警告灯★（→ P. 398）

※
電子制御ブレーキ警告灯
（→ P. 399）
（黄色）

※
油圧警告灯★（→ P. 398）

半ドア警告灯★（→P. 401）

※
エンジン警告灯
（→ P. 399）

燃料残量警告灯
（→ P. 401）

※
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯
（→ P. 399）

シートベルト非着用警告灯
（→ P. 401）

※
ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（→ P. 399）

※
マスターウォーニング★
（→ P. 402）

パーキングブレーキ警告灯
（→ P. 399）

※
高水温警告灯★（→P. 398）

※
パワーステアリング警告灯
（→ P. 399）

※
オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 400）
（黄色）

※
ハイブリッドシステム異常警告灯★（→ P. 399）

LDA（レーンディパーチャーアラート）
表示灯★（→ P. 400）
（黄色）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ P ポジション要求表示灯★（→ P. 400）

※ PKSB OFF 表示灯★（→ P. 400）（点滅）

※ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯★（→ P. 402）

※ 駆動用電池残量低下警告灯★（→ P. 401）

※ ハイブリッドシステム過熱警告灯★（→ P. 401）

メンテナンス・点検警告灯★（→ P. 404）

※ PCS 警告灯★（→ P. 400）（点滅または点灯）

車両接近通報装置異常警告灯（→ P. 400）

※ 作動確認のためにパワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはパワースイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→ P. 185）

ハイビーム表示灯
（→ P. 187）

AUTO
（緑色）
オートマチックハイビーム表示灯★（→ P. 229）

尾灯表示灯（→ P. 187）

フロントフォグランプ表示灯★（→ P. 191）

リヤフォグランプ表示灯★
（→ P. 191）

イモビライザーシステム表示灯（→ P. 78）

READY
READY インジケーター
（→ P. 168, 172）

クルーズコントロール表示灯★（→ P. 236）

SET
クルーズコントロールセット表示灯★（→ P. 236）

※1,2
TRC OFF
TRC OFF 表示灯★
（→ P. 291）

EV MODE
EV ドライブモード表示灯
（→ P. 178）

シフトポジション表示灯
（→ P. 181）

ECO MODE
ECO MODE 表示灯
（→ P. 182）

EV
EV 走行インジケーターランプ（→ P. 70）

※1
（点滅）
スリップ表示灯
（→ P. 291）

※1,2
OFF
VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF 表示灯（→ P. 292）

（緑色）
LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★
（→ P. 223）

（点滅）
PCS 作動表示灯★
（→ P. 211）

※1, 2
OFF
PCS 警告灯★（→ P. 211）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1, 3 PKSB OFF 表示灯★（→ P. 248）

※4 低温表示灯★（→ P. 89）

クリアランスソナー表示灯★（→ P. 240）

※1 作動確認のためにパワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはパワースイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 システムが ＯＦＦ のときに点灯します。

※3 システムが ＯＦＦ のとき、または一時的に作動しないときに点灯します。

※4 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に、点灯します。

警告

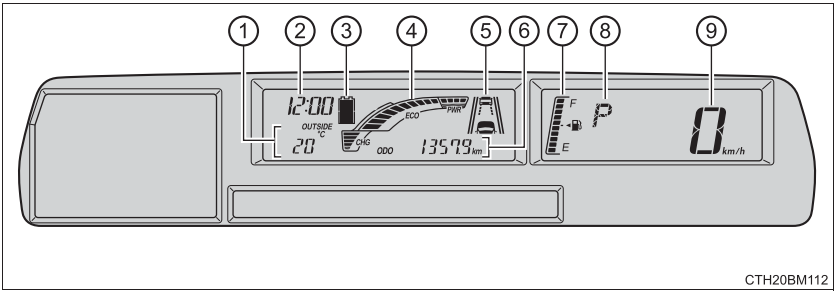
■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、ハイブリッドシステムを始動しても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車



① ドライブモニター

→ P. 91

② 時計

→ P. 329

③ 駆動用電池残量表示

現在の駆動用電池残量を 8 段階で表示します。（→ P. 109, 111）

④ ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。（→ P. 97）

⑤ LDA（レーンディパーチャーアラート）★／先行車発進告知表示★

→ P. 225, 233

⑥ オドメーター／トリップメーター／航続可能距離／メーター照度調整表示／カスタマイズモード

→ P. 93

⑦ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約5 L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

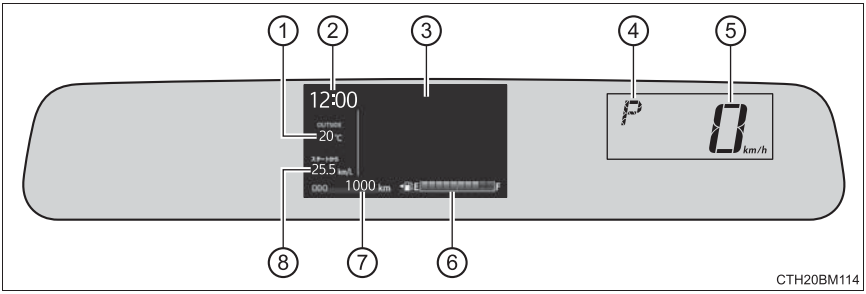
⑧ シフトポジション表示

現在選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 181）

⑨ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



① 外気温

外気温度を－ 40 ℃ ～ 50 ℃ の間で表示します。外気温が約 3 ℃ 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

② 時計

設定画面で時刻を調整します。（→ P. 105）

③ マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。（→ P. 99）

④ シフトポジション表示

現在選択されているシフトポジションを表示します。（→ P. 181）

⑤ スピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

・ 少量給油（約５ L 以下）を行ったとき
・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
・ 坂道やカーブを走行したとき

⑦ オドメーター／トリップメーター

→ P. 96

⑧ 平均燃費

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。表示される平均燃費は、参考として利用してください。

・オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費を表示します。
・トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの平均燃費を表示します。トリップメーター A・B それぞれの平均燃費を表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。
（→ P. 96）

ドライブモニター（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

◆ 表示を切りかえるには

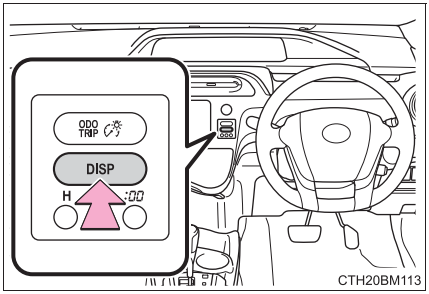
DISP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。

短押し : 表示の切りかえ

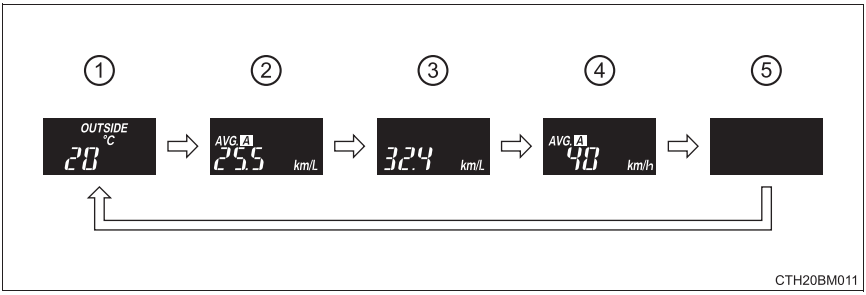
スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し : リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。



◆ 表示される項目



① 外気温度

外気温度を－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

② 平均燃費

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

・オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均燃費を表示します。
・トリップメーター表示時：トリップメーター A・B それぞれの平均燃費を表示します。
・トリップメーターをリセットすると、平均燃費もリセットされます。（→ P. 94）
・表示される平均燃費は、参考として利用してください。

③ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

④ 平均車速

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

・オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの平均車速を表示します。
・トリップメーター表示時：トリップメーター A・B それぞれの平均車速を表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均車速もリセットされます。（→ P. 94）

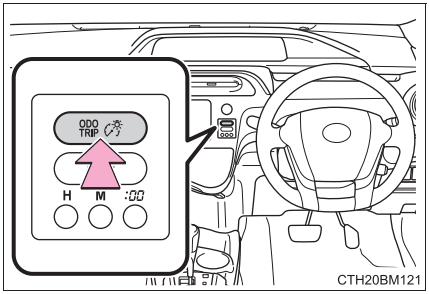
⑤ 画面 OFF

ドライブモニター、ハイブリッドシステムインジケーター、駆動用電池残量表示、EV 走行インジケーターランプの表示を消すことができます。

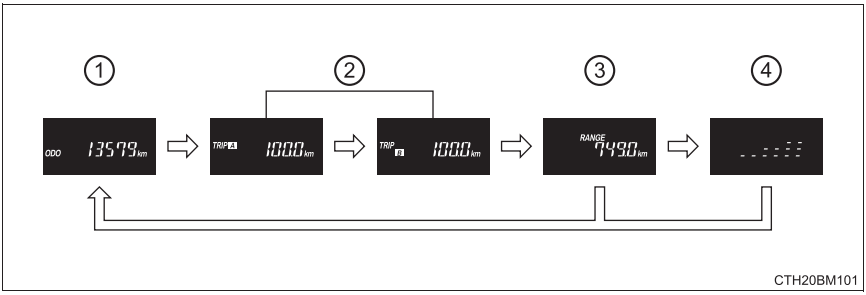
オドメーター／トリップメーター／航続可能距離／メーター照度調整表示／カスタマイズモード（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

◆ 表示を切りかえるには

TRIP スイッチを押すごとに表示が切りかわります。



◆ 表示される項目



① オドメーター

走行した総距離を表示します。

② トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップメーターは、A・B の 2 種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に TRIP スイッチを押し続けると、走行距離はリセットされ 0 にもどります。

③ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。
・ 燃料給油量が少量（約 5 L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

④ メーター照度調整表示

メーターの照度を表示します。（尾灯が点灯時のみ表示されます。）

メーター照度表示中に TRIP スイッチを押し続けると、照度を調整できます。

◆ カスタマイズモード★

LDA(レーンデパーチャーアラート) ★と先行車発進★の設定を変更することができます。

■ 設定変更のしかた

1 オドメーター表示中に TRIP スイッチを長押しし、画面をカスタマイズモードに切りかえる

2 TRIP スイッチを押し、設定を変更したい項目を表示させる

スイッチを押すごとに「01」→「02」→「03」→ End の順番で表示が切りかわります。

3 TRIP スイッチを長押しし、設定を変更する

スイッチを長押しするごとに表示が切りかわります。

設定モードを終了するには、画面に End が表示されるまで TRIP スイッチを押した後、スイッチを長押ししてください。

■ 設定一覧

表示	設定内容	設定結果
	高い 00	LDA（レーンディパーチャーアラート）警報感度を調整できます。
	普通 0_	
	ON	先行車発進の告知設定の ON ／ OFF 切りかえができます。
	OFF	
	遅い 0_ _	先行車発進の告知タイミングを調整できます。
	普通 00_	
	早い 000	

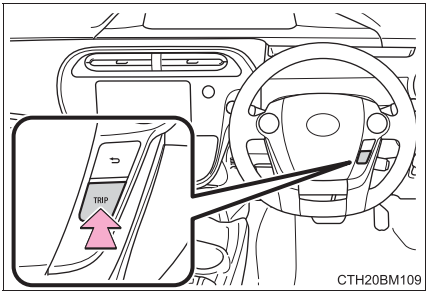
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オドメーター／トリップメーター（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

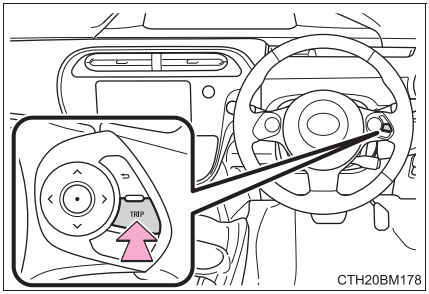
◆ 表示の切り替え

TRIP スイッチを使って次のように操作します。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



短押し : 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示される項目が切りかわります。

長押し : リセット

トリップメーターを表示中にスイッチを長押しすると、走行距離を 0 にもどします。

◆ 表示項目

■ オドメーター

走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップメーターは、A・B の 2 種類で使い分けることができます。

トリップメーター表示中に TRIP スイッチを押し続けると、走行距離はリセットされ 0 にもどります。

知識

■メーター・マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

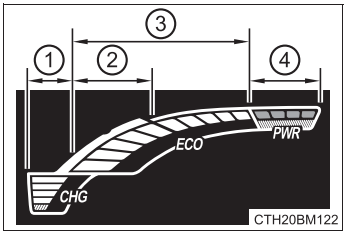
▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステムインジケーター（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）



① チャージエリア

エネルギーが回生 ※ されている状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

インジケーターをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

■表示について

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “– –” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズモード画面の操作について（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

しばらく操作しなかったときはカスタマイズモードが中断され、もとの画面に戻ります。

■メーター照度の減光制御について（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

尾灯が点灯時は、メーター照明が減光されます。ただし、照明をいちばん明るくした状態では、尾灯が点灯してもメーター照明は減光されません。

■エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●時計

●航続可能距離

●平均燃費

●平均車速

また、メーター照度は初期設定の状態にもどります。

⚠注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯 (→ P. 398) が装備されています。高水温警告灯が点滅、点灯したときはオーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 463）

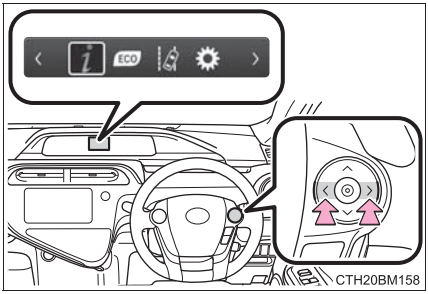
■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

この車両には、水温計は装備されていません。かわりにマルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。マルチインフォメーションディスプレイに が表示されたときはオーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 463）

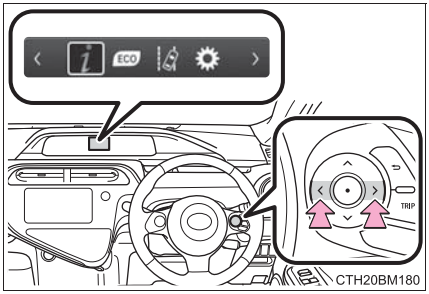
マルチインフォメーションディスプレイ★

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



● 走行に関する情報

ハイブリッドシステムの動作状況や燃費の情報などを表示します。

● 画面の設定

日付・時刻の修正や、画面の設定・変更を行います。

● 警告メッセージ（→ P. 405）

各システムに異常が発生すると、自動で表示されます。

● メニューアイコン

メニューアイコンを選択して、次の項目を表示することができます。

ドライブインフォメーション（→ P. 101）

走行に関するさまざまな情報を表示します。

ECO（→ P. 102）

燃費の情報などを表示します。

LDA（レーンディパーチャーアラート）作動表示★（→ P. 223）

LDA の作動状況を表示します。

設定（→ P. 105）

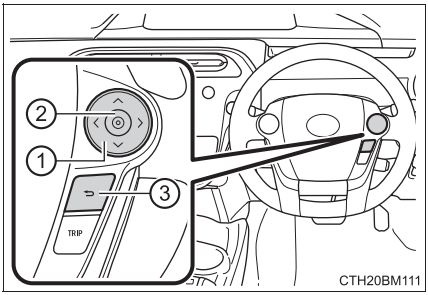
メーターの表示設定などを切りかえることができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

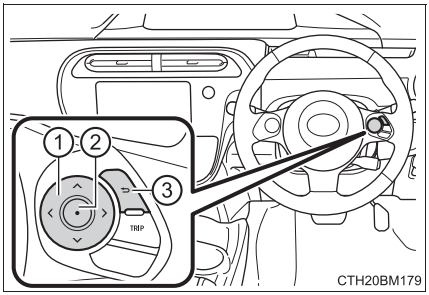
◆ 操作方法

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



① ＜ ＞:メニューの切りかえ

∧ ∨:ページ送り、表示項目の切りかえ、カーソル移動

② 決定スイッチ

短押し : 決定
長押し : リセット

③ ひとつ前の画面にもどる

ドライブインフォメーション

◆ ドライブインフォメーション

平均車速、走行時間、EV 走行比率・EV 走行距離はオドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

トリップメーターをリセットすると、記録もリセットされます。（→ P. 96）

■ AVG（平均車速）

平均車速を表示します。

■ TOTAL（走行時間）

走行時間を表示します。

■ EV（EV 走行比率・EV 走行距離）

EV 走行比率と距離（電気モーターのみで走行している割合と距離）を表示します。

■ （航続可能距離）

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・燃料給油量が少量（約5 L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

◆ エネルギーモニター

→ P. 109

◆ タコメーター★

毎分のエンジン回転数を示します。

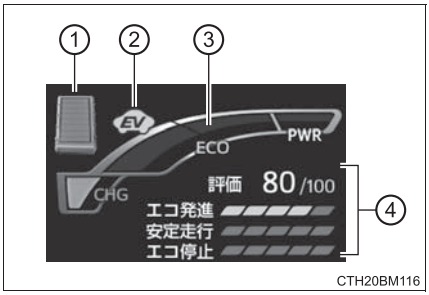
◆ シンプル画面

時計、外気温、燃料計を拡大した画面を表示します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ECO

◆ エコジャッジ



① 駆動用電池残量表示

② EV　走行インジケーターランプ

電気モーターのみで走行しているときに点灯します。

③ ハイブリッドシステムインジケーター

ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを表示します。（→ P. 107）

④ エコ運転状況の表示

運転の状況を、エコ発進・安定走行・エコ停止の 3 パターンに分け、5 段階で表示します。また、車両が停止するたびに点数を表示します。（発進するごとにリセットされ、積算は行いません。）

◆ エコウォレット

消費したガソリン価格の表示や燃費の比較をすることができます。

① お得または消費金額

比較したい任意の燃費数値を入力（→ P. 105）するとお得金額を表示し、入力しなければ消費金額を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

CTH20BM143

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの金額を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの金額を表示します。トリップメーター A・B それぞれの金額を表示します。

トリップメーターをリセットすると、金額もリセットされます。（→ P. 96）

② 比較燃費

設定画面で、比較したい任意の燃費数値を入力します。（→ P. 105）

◆ エコウォレット履歴

エコウォレットで比較燃費を入力するとお得金額の履歴を表示し、入力しなければ消費金額の履歴を表示します。
今月、過去3か月分と1年前の同月を表示し、比較することができます。

グラフに加え数字も表示します。

決定スイッチを長押しして、履歴をリセットすることができます。

◆ 燃費履歴

月ごとの平均燃費を表示します。

今月、過去 3 か月分と 1 年前の同月を表示し、比較することができます。

決定スイッチを長押しして、燃費履歴をリセットすることができます。（→ P. 100）

◆ 燃費ランキング

過去の燃費ベスト3と現在の順位を表示します。

オドメーターとトリップメーターのどちらを表示しているかによって、表示内容が異なります。

- オドメーター表示時：ハイブリッドシステムを始動してからの記録を表示します。
- トリップメーター表示時：トリップメーターをリセットしてからの記録を表示します。トリップメーター A・B それぞれの記録を表示します。

順位は 100 位までを表示し、以降はランク外として表示されます。

走行距離 5 km 未満は記録されません。

◆ 5 分間／ 1 分間燃費

ハイブリッドシステムを始動してからの燃費履歴を5 分または 1 分刻みで表示します。

瞬間燃費を同時に表示し、30 分前（5 分刻み表示の場合）/6 分前（1 分刻み表示の場合）までの燃費と比較することができます。

決定スイッチを長押しして、燃費履歴表示の 5 分 /1 分刻みを切り替えることができます。（→ P. 100）

設定

◆ 設定の仕方

ハンドルのメーター操作スイッチ（→ P. 100）を操作して、設定を変更します。

◆ 設定変更できる項目

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）警報感度★

LDA の警報感度を 2 段階から選択することができます。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）★

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の ON/OFF を選択することができます。

■ クリアランスソナー★

クリアランスソナーの ON/OFF を選択することができます。

■ クリアランスソナーブザー音量★

クリアランスソナーブザー音量を 3 段階から選択することができます。

■ 先行車発進★

次の先行車発進告知機能の設定を変更することができます。

- 告知設定
  先行車発進告知機能の ON/OFF を選択することができます。
- 告知タイミング
  告知するタイミングを 3 段階から選択することができます。

■ メーター照度調整表示

メーターの照度を表示します。（尾灯が点灯時のみ表示されます。）

■ EV インジケーター

EV インジケーターの表示・非表示を選択することができます。

■ エコウォレット設定

ガソリン価格の設定・比較燃費の設定ができます。

■ 日時

日付合わせ・時計合わせ・時計表示の 24 時間／ 12 時間切りかえは ∧ / ∨ スイッチで設定ができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 操作ガイド表示

メニューアイコンの表示の ON/OFF を選択することができます。

■ 走行結果表示

走行表示の ON/OFF を選択することができます。

■ 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■時刻が表示されるとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■メーター照度の減光制御について

尾灯が点灯時はメーター照明が減光されます。ただし、照明をいちばん明るくした状態では、尾灯が点灯してもメーター照明は減光されません。

■エコジャッジについて

走行条件や環境によって評価点は変化します。そのため、燃費とリンクしない場合があります。

■エコウォレットについて

●消費金額・お得金額は目安として利用してください。

●給油のしかた・走行条件・環境などによって、実際に給油したときの金額と画面に表示される金額に差が出る場合があります。

●消費金額・お得金額は、エコジャッジの評価点とはリンクしない場合があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたとき

補機バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

●時計

●燃費履歴 (4 位以下)

●５分間／１分間燃費

●航続可能距離

●平均車速

●走行時間

●EV 走行比率・EV 走行距離

また、一部の表示は初期設定の状態にもどります。

■液晶ディスプレイについて

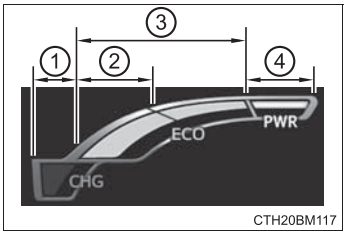
ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象で、異常ではありません。

■ハイブリッドシステムインジケーター

① チャージエリア

エネルギーが回生 ※ されている状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。



② ハイブリッドエコエリア

ガソリンエンジンの動力を使用しない状況を多く含む状態を示します。ガソリンエンジンは、各種の条件により自動的に停止・再始動します。

③ エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

④ パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

インジケーターをエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

■今回の走行結果表示について

ハイブリッドシステムを停止すると、エンディングムービーを表示したあと、ハイブリッドシステム始動時からの走行データを一覧で表示します。

ドアをロックすると画面は消えます。

CTH20BM166

警告

■エコジャッジについて

エコジャッジは目安として利用してください。必ず交通状況に合わせ、周囲の安全に注意して運転してください。

■運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ディスプレイの設定を変更するとき

ハイブリッドシステムが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

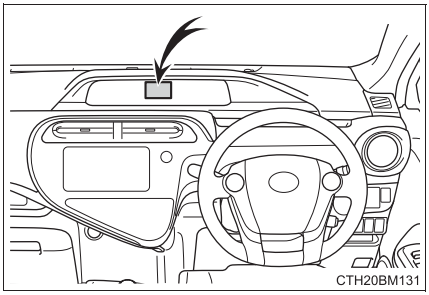
■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にハイブリッドシステムが作動している状態で実施してください。

エネルギーモニター／燃費画面

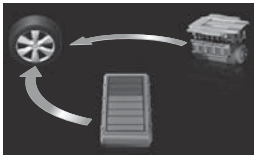
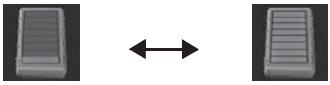
マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：駆動用電池の残量をメーターに表示します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：ハイブリッドシステムの状態をマルチインフォメーションディスプレイに表示します。



エネルギーモニターの見方（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して i を選択し、∧ または ∨ を押してエネルギーモニターを表示させる

電気のエネルギーで走行しているとき	
ガソリンのエネルギーで走行しているとき	
ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき	
駆動用電池に充電しているとき	
エネルギーの流れがないとき	
駆動用電池の残量表示	少ない 多い 

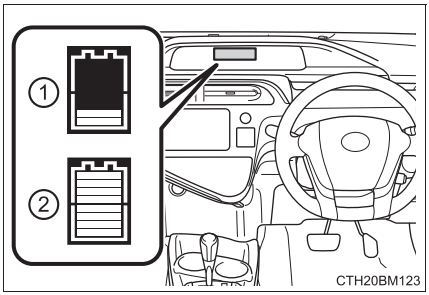
表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

駆動用電池の残量表示について（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

駆動用電池の残量に応じて、表示が8段階に変化します。

① 残量が少ない

② 残量が多い



燃費画面（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

→ P. 102

知識

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の充電量はハイブリッドシステムによって自動制御されています。そのため、回生ブレーキ機能による電気回収・ガソリンエンジンによる発電が行われても、駆動用電池の残量表示が最大（レベル8）まで到達しないことがありますが、異常ではありません。

各部の操作 3

3-1. キー

キー.....114

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア（フロントドア、リヤドア）.....119

バックドア 125

スマートエントリー＆スタートシステム 129

3-3. シートの調整

フロントシート.....135

リヤシート 136

ヘッドレスト.....139

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 142

インナーミラー.....145

ドアミラー 146

3-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ.....150

キー

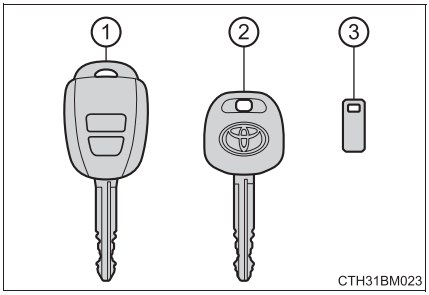
お客様へ次のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① キー（ワイヤレス機能装着）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 115）

② キー（ワイヤレス機能非装着）

③ キーナンバープレート

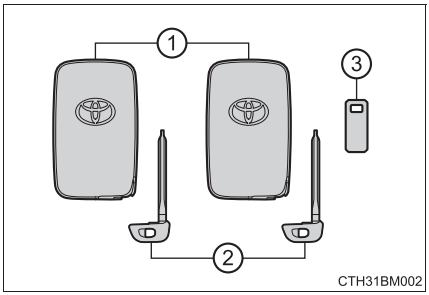


▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

① 電子キー
・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→ P. 129）
・ワイヤレス機能の作動（→ P. 115）

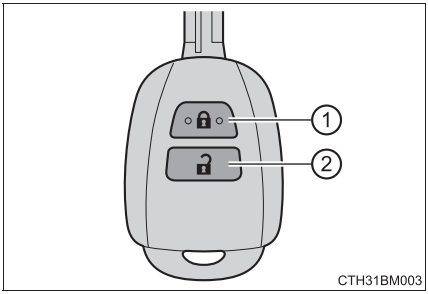
② メカニカルキー

③ キーナンバープレート

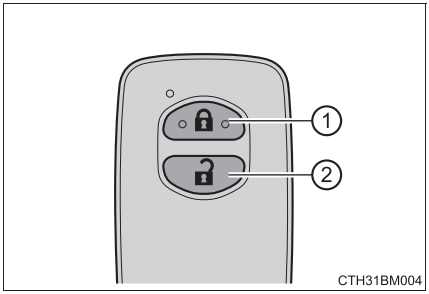


ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



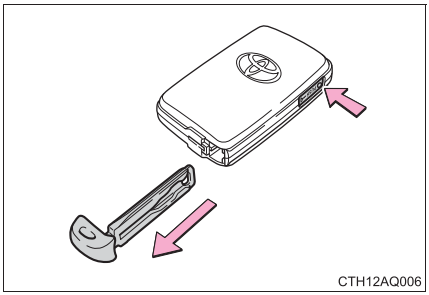
① ドアの施錠（→ P. 119）

② ドアの解錠（→ P. 119）

メカニカルキーを使うには（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります（→ P. 452）



知識

■キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）から、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。
キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレスキーまたは電子キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

●電池の標準的な寿命は１～２年です。

●ワイヤレスキーを使用しなくても電池が消耗します。

●ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が消耗したら新しい電池に交換してください。（→ P. 364）

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

●電池の標準的な寿命は１～２年です。

●電池残量が少なくなると、ハイブリッドシステムを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→ P. 421）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→ P. 364）

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の１ｍ以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→ P. 364

■キー登録本数の確認について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■不正キーの使用について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空回りして解錠できません。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品の近くに置かない

●電気医療機器（マイクロ波治療器や低周波治療器など）の近くに置いたり、身につけたまま治療を受けたりしない

■キーについて（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

電波キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

・電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

・必ず日本国内でご使用ください。

・技適マークと認可番号は電池蓋を取り外した際、確認が可能です。

■電子キーについて（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

注意

■**キーを携帯するときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）**

電源を入れた状態の電化製品とは 10 cm 以上離して携帯してください。10 cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■**スマートエントリー＆スタートシステム★の故障などで販売店に車両を持っていくときは**

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■**キーを紛失したときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）**

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

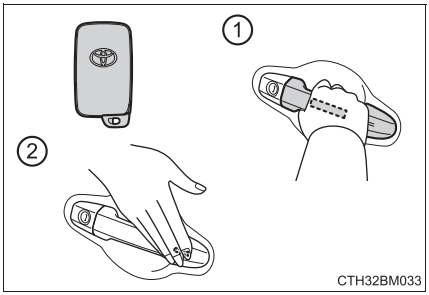
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドア（フロントドア、リヤドア）

車外からの解錠／施錠

◆ スマートエントリー＆スタートシステム★

電子キーを携帯して操作します。



① フロント席のドアハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

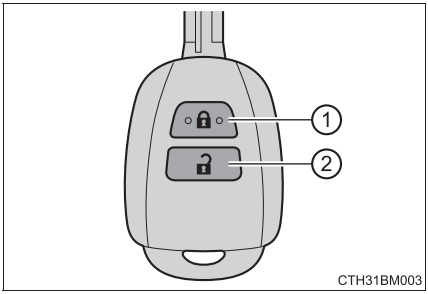
施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

② ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

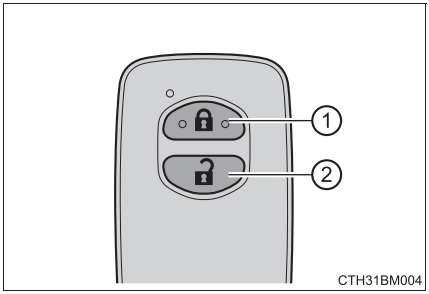
必ず施錠されたことを確認してください。

◆ ワイヤレスリモコン

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車



① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

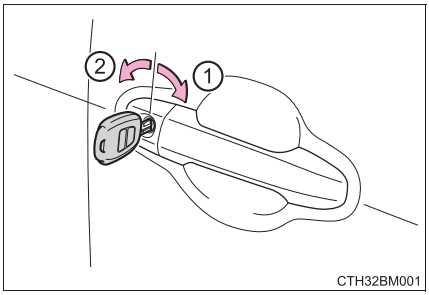
◆ キー

キーを操作すると、ドアが下記のように作動します。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

① 全ドアを施錠する

② 全ドアを解錠する



▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→ P. 452）

知識

■作動の合図

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアの施錠・解錠を、非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は１回、解錠は２回）

■解錠操作のセキュリティ機能

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

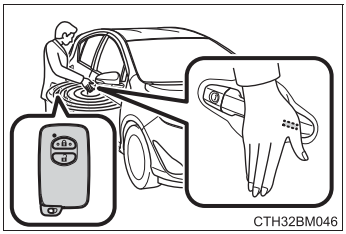
解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。セキュリティ機能で施錠されたとき、電子キーの位置によって室内の作動範囲内に電子キーがあると検知されると、再度解錠されることがあります。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアハンドル表面のロックセンサー部に指でふれても施錠できないときは、てのひらでロックセンサー部にふれてください。



■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

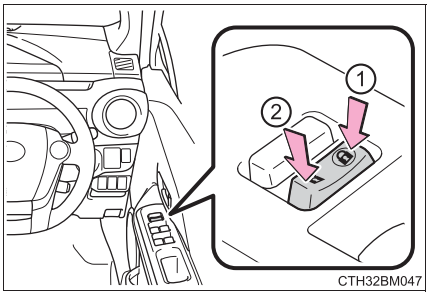
■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→ P. 452）
キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→ P. 364）

車内からの解錠／施錠

◆ ドアロックスイッチ

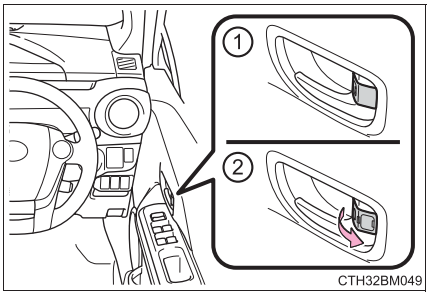
① 全ドアを施錠する
② 全ドアを解錠する



◆ ロックレバー

① ドアを施錠する
② ドアを解錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。



キーを使わずに外側から運転席ドアを施錠するときは

1 ロックレバーを施錠側にする

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

キーがパワースイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

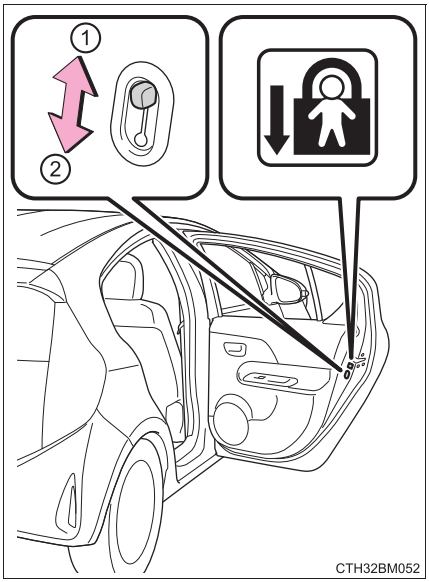
チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

① 解錠

② 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。



知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・放送局・空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器・大型ディスプレイがあるとき

●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき

●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

→P. 131

■カスタマイズ機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 480）

警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
  特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

バックドアの施錠・解錠

■ ドアロックスイッチ

→P. 122

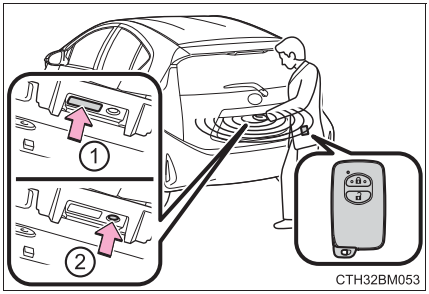
■ スマートエントリー&スタートシステム★

① バックドアオープンスイッチを押して解錠する

施錠操作後約３秒間は解錠できません。

② ロックスイッチを押して施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。



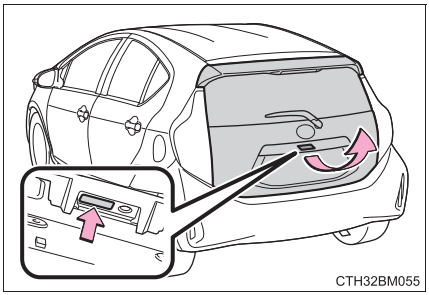
■ ワイヤレスリモコン

→P. 119

車外からバックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

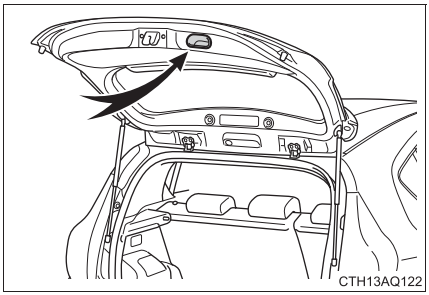
バックドアオープンスイッチを押したあと、約１秒間はバックドアを閉めることができません。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

■ラゲージルームランプ

バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

警告

■走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
  開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■バックドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

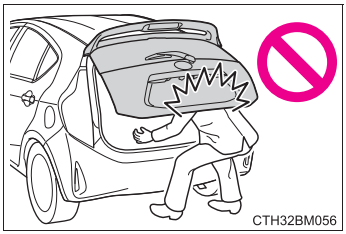
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

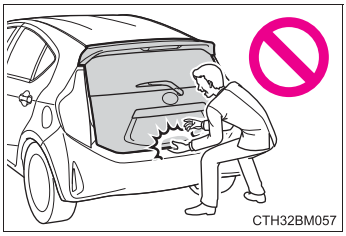
●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。


CTH32BM056

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。


CTH32BM057

警告

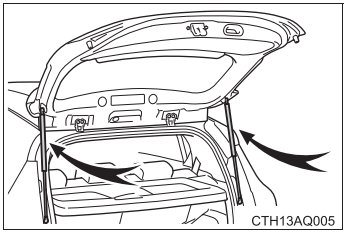
- バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
  手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、トヨタ純正品を使用することをおすすめします。

注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



スマートエントリー&スタートシステム★

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
（必ず運転者が携帯してください）

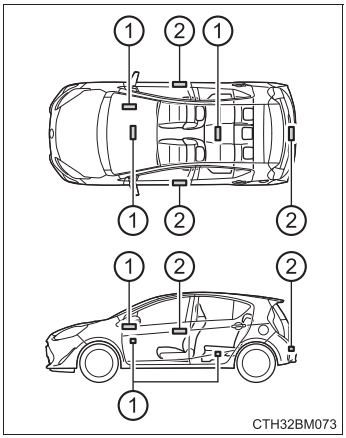
- ドアを施錠・解錠する（→ P. 119）
- バックドアを施錠・解錠する（→ P. 125）
- ハイブリッドシステムを始動する（→ P. 168, 172）

知識

■アンテナの位置

① 車室内アンテナ

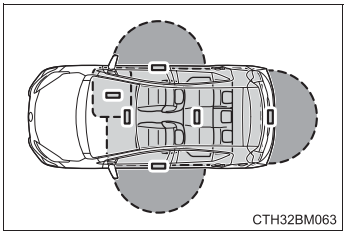
② 車外アンテナ



■作動範囲（電子キーの検知エリア）

●：ドアの施錠・解錠時

フロント席ドアハンドル／バックドアオープン・ロックスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。）



●：ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■警告ブザーと警告灯について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯することがあります。マルチインフォメーションディスプレイ装着車の場合は、メッセージが表示されることがあります。警告灯が点灯したり、メッセージが表示された場合は、状況に応じて適切に対処してください。
(→ P. 419)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から “ピー” と 5 秒間鳴る	いずれかのドアが開いている状態でスマートエントリー&スタートシステム、もしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
車内から “ピー、ピー” と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをアクセサリーモードにした（パワースイッチがアクセサリーモードのとき運転席ドアが開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。

・車の外約 2 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した。
・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。

●14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法→ P. 452）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき

・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠･解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上･リヤシート後方のドアポケット･またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車から出ないでください。電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外では解錠できません。

●電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（解錠された場合でも、ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）

●電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2 m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）

●ロック・アンロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しないことがあります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

■施錠時の留意事項

●手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。

●ロック操作は、連続で２回まで有効で、３回目以降はロック動作しません。

●車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報は表示されなくなります。

■解錠時の留意事項

●急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されないことがあります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサーにふれてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■長期間運転しないときは

●盗難防止のため、電子キーを車から２ｍ以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■スマートエントリー＆スタートシステムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠・解錠：→ P. 452

●ハイブリッドシステムの始動：→ P. 453

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 115, 452)

●ハイブリッドシステムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→ P. 453

●ハイブリッドシステムの停止：→ P. 454

■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→ P. 480）

警告

■電波がおよぼす影響についての警告（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 129）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

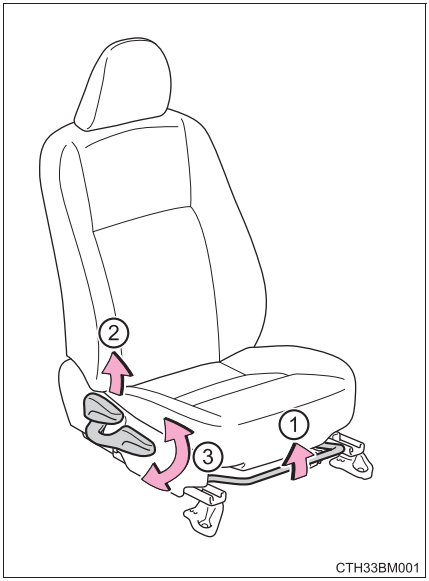
●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

調整のしかた

① 前後位置調整
② リクライニング調整
③ シート全体の上下調整★



警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

●背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

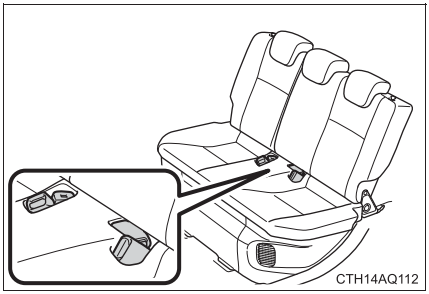
リヤシート

リヤシートは折りたたむことができます。

背もたれを前に倒す

■ 操作する前に

1 リヤシートベルトのバックルを格納する



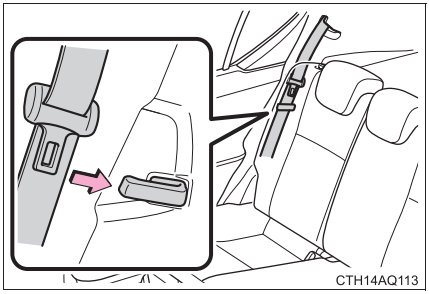
2 シートベルトを格納する

▶ リヤ中央席

→ P. 29

▶ リヤ外側席

シートベルトをベルトハンガーにかける



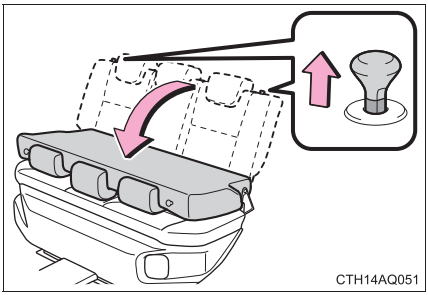
3 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 139）

■ 前に倒すときは

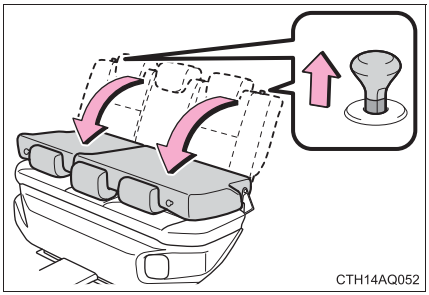
ロック解除ノブを引き、背もたれを前方に倒す

ロックが解除されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えます。

▶ 一体可倒シート装着車



▶ 分割可倒シート装着車

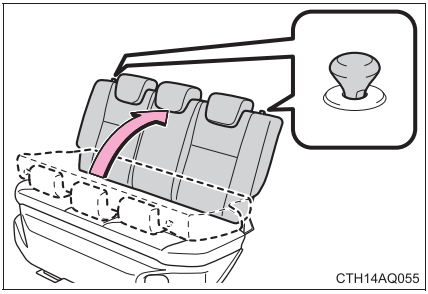


■ もとにもどすときは

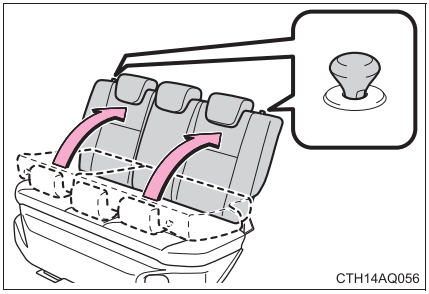
背もたれを起こして固定する

固定されると、ロック解除ノブの赤ラベルが見えなくなります。

▶ 一体可倒シート装着車



▶ 分割可倒シート装着車



警告

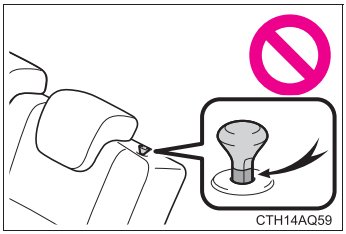
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■リヤシートを操作するときは

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■背もたれをもとにもどしたあとは

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
  シートが確実に固定されていないときは、ノブの下部に赤ラベルが見えます。赤ラベルが見えていないことを確認してください。



- シートベルトを挟み込まないようにする

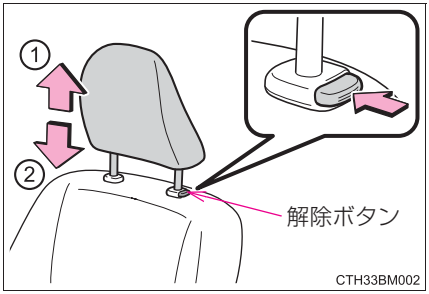
ヘッドレスト

調整のしかた（調整式ヘッドレスト装着車）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

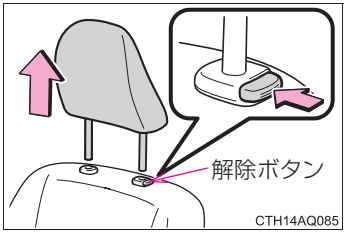


知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

▶フロント席（調整式ヘッドレスト装着車）とリヤ中央席

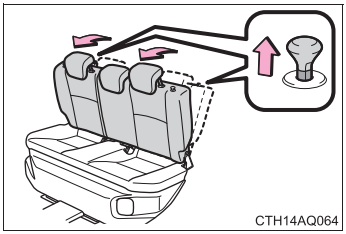
解除ボタンを押しながら取りはずします。



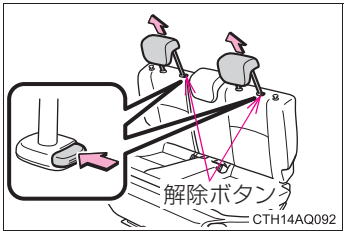
▶リヤ外側席

1 ロック解除ノブを引き、背もたれを前に倒す。

ヘッドレストをはずすことができる位置まで前に倒してください。



2 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストをはずす。

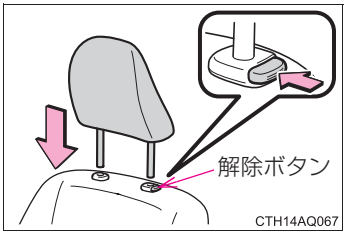


■ヘッドレストを取り付けるとき

▶フロント席（調整式ヘッドレスト装着車）とリヤ中央席

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

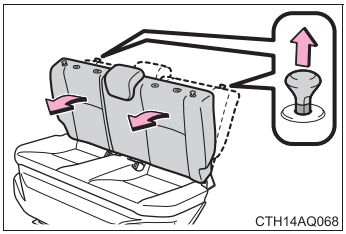
さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



▶リヤ外側席

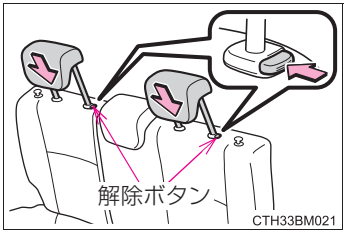
1 ロック解除ノブを引き、背もたれを前に倒す。

ヘッドレストを取り付けることができる位置まで前に倒してください。



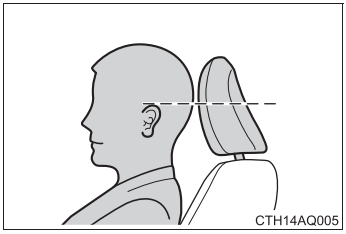
2 ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■フロント席のヘッドレストの高さについて（調整式ヘッドレスト装着車）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



■リヤ席のヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて（調整式ヘッドレスト装着車）

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

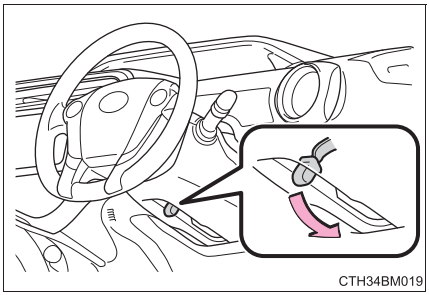
- ●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ●ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

ハンドル

調整のしかた

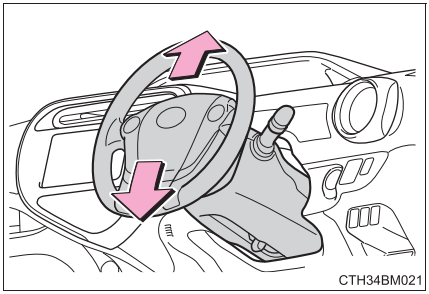
▶ チルトステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる


CTH34BM019

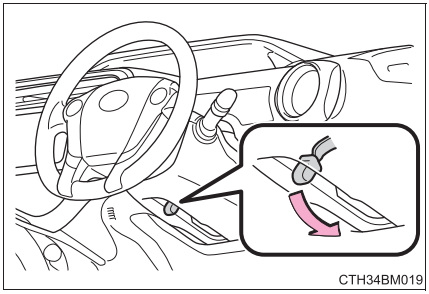
2 ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。


CTH34BM021

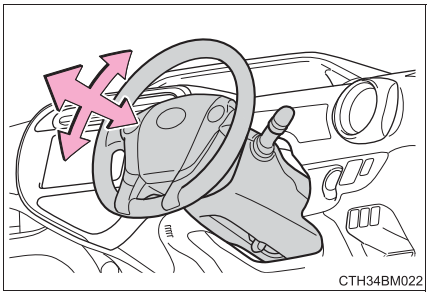
▶ チルト＆テレスコピックステアリング装着車

1 ハンドルを持ち、レバーを下げる


CTH34BM019

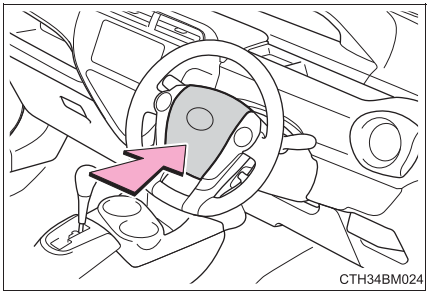
2 ハンドルを上下・前後に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。


CTH34BM022

ホーン（警音器）

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。


CTH34BM024

警告

■**走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ハンドル位置を調整したあとは**

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

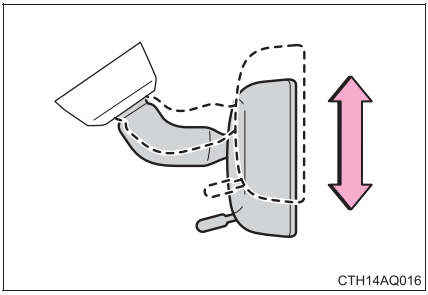
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

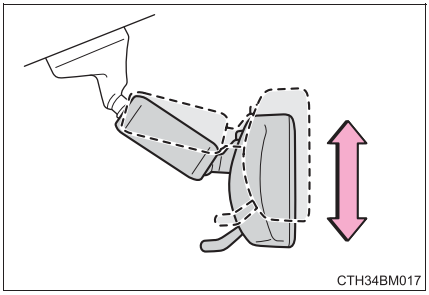
上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



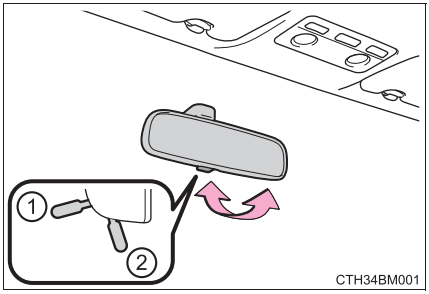
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

防眩機能

レバーを操作することで、後続車のヘッドランプによる反射光を減少させます。

① 通常使用時

② 防眩時



警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

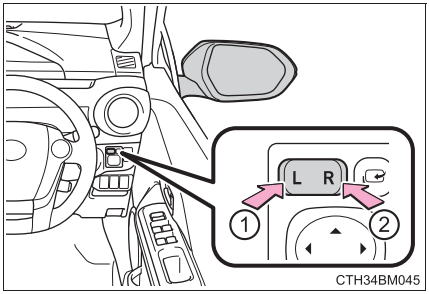
ドアミラー

調整のしかた

1 調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

① 左

② 右



CTH34BM045

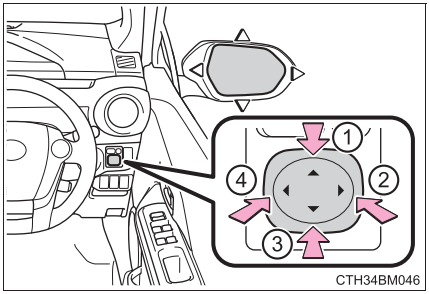
2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

① 上

② 右

③ 下

④ 左



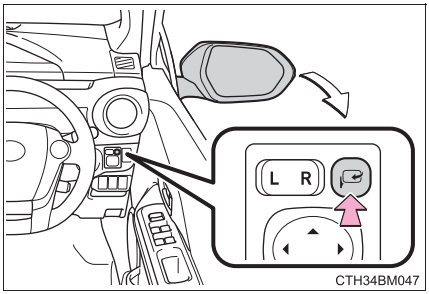
CTH34BM046

ドアミラーを格納するときは

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

スイッチを押してドアミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



CTH34BM047

■ **オート作動での格納･復帰のしかた**

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンなどによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーを自動的に格納･復帰させることができます。また、パワースイッチを “ON” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車)、パワースイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にすることにより、復帰させることができます。

オート電動格納機能の ON・OFF の切りかえかた

次の手順で、オート電動格納機能の ON と OFF が交互に切りかわります。

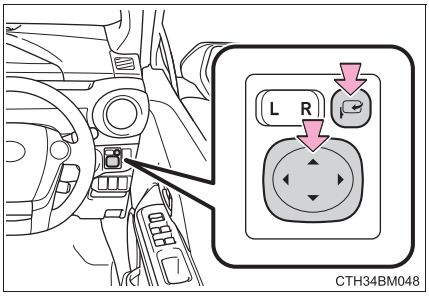
▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 パワースイッチを “LOCK” にする

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 パワースイッチを OFF にする

2 ミラー格納スイッチと鏡面調整スイッチの上側を同時に２秒以上押す



リバース連動機能について★

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に助手席側の鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは

シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。
次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。
通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

オート電動格納機能の設定がリセットされ、ON の状態にもどります。機能を OFF にするときは、再度、オート電動格納機能の ON・OFF 切りかえを行ってください。

■鏡面調整の作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■寒冷時に「オート作動」で使用するときは

寒冷時に「オート作動」で使用していると、ドアミラーが凍結して、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、「マニュアル作動」で作動させるか、手で動かしてください。

■ミラーが曇ったとき

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(→ P. 309)

警告

■走行しているときは

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ミラーの調整をしない
- ●ドアミラーを格納したまま走らない
- ●走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ミラーが動いているときは

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ミラーヒーターが作動しているとき

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

パワーウインドウ★

開閉のしかた

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

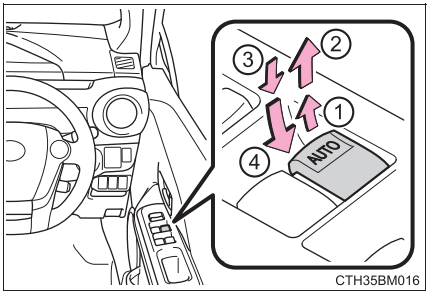
① 閉める

② 自動全閉（運転席のみ）※

③ 開ける

④ 自動全開（運転席のみ）※

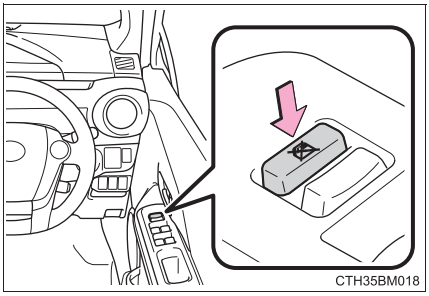
※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ウインドウロックスイッチ

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ハイブリッドシステム停止後の作動（運転席のみ）

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチを “ACC” または “LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないときは（運転席のみ）

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、運転席ドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

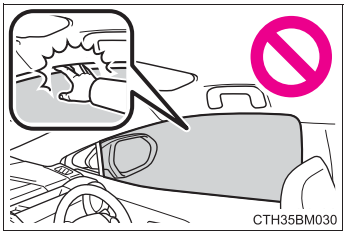
警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P. 150）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●車から離れるときはパワースイッチを“LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはパワースイッチをOFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（運転席のみ）

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能（運転席のみ）

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などが巻き込まれないように注意してください。

運転 4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって 156
荷物を積むときの注意..... 166

4-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）..... 168
パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）..... 172
EV ドライブモード..... 178
トランスミッション..... 181
方向指示レバー 185
パーキングブレーキ..... 186

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 187
フォグランプスイッチ..... 191
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 194
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）..... 198

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 200

4-5. Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense.....205
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....211
LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....223
オートマチックハイビーム.....229
先行車発進告知機能.....233

4-6. 運転支援装置について

クルーズコントロール.....236
クリアランスソナー.....240
パーキングサポートブレーキ（静止物）.....248
パノラミックビューモニター.....260
運転を補助する装置.....290
LED イルミネーションビーム.....297

4-7. 運転のアドバイス

ハイブリッド車運転のアドバイス.....298
寒冷時の運転.....301

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

ハイブリッドシステムを始動する

→ P. 168, 172

発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→ P. 181）

2 パーキングブレーキを解除する（→ P. 186）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P にします。（→ P. 181）

駐車する

1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 186）、シフトレバーを P にする（→ P. 181）

▶ スマートエントリー & スタートシステム非装着車

3 パワースイッチを “LOCK” にしてハイブリッドシステムを停止する

▶ スマートエントリー & スタートシステム装着車

3 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する

4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

上り坂の発進のしかた

1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

2 アクセルペダルをゆっくり踏む

3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。（→ P. 290）

■燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→ P. 298）

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ハイブリッドシステム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

●マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。（→ P. 402）

●マルチインフォメーションディスプレイ装着車：ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 414）

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

●次のような通常と異なる操作が行われた場合、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。

・マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は B ポジションを含む）この場合、警告灯が点灯します。（→ P. 402）
・マルチインフォメーションディスプレイ装着車：アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（R から D、D から R、N から R、P から D、P から R）とき。（D は B ポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→ P. 414）
・後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。

●ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合があります。そのようなときは、TRC の作動を停止（→ P. 291）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出しやすくなります。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ハイブリッド車は電気モーターでの走行時にエンジン音がしないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するときは

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を停めたりしないでください。
  排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にハイブリッドシステムを停止しないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
  なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 388を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→ P. 181）
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シフトレバーを操作するときは

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
  思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
  トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、ハイブリッドシステムの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駐車するときは

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■仮眠するときは

必ずハイブリッドシステムを停止してください。
READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
  ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- ブレーキシステムは２つ以上の独立したシステムで構成されており、１つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転中は

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、ハイブリッドシステム出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

⚠注意

■部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 424, 439 をご覧ください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジンオイル･ハイブリッド用トランスミッションフルードなどの量および質の変化
- 各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■**積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■**荷物を積むときは**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元
・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
・インストルメントパネル
・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

警告

■**荷物の重量・荷重のかけ方について**

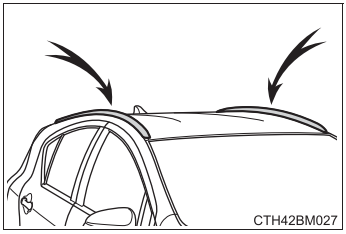
●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**ルーフモールの取り扱いについて（ルーフモール設定車）**

ルーフモールには直接キャリヤなどを取り付けないでください。お守りいただかないと、走行中にキャリヤが外れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

ハイブリッドシステムの始動のしかた

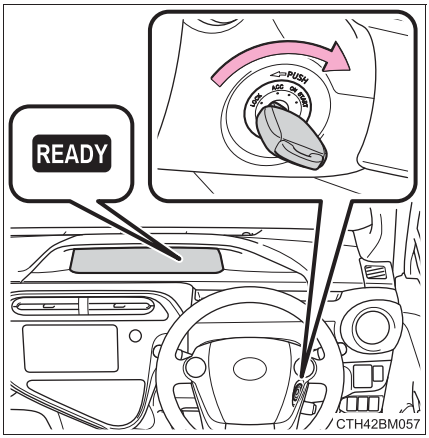
1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

4 パワースイッチを“START”の位置にまわす

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。



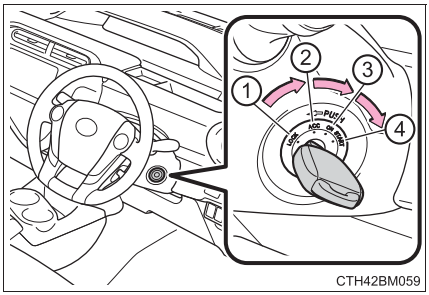
5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

パワースイッチの位置の切りかえ



① “LOCK” (OFF)
- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。

② “ACC”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

④ “START”

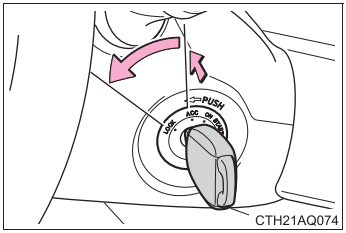
ハイブリッドシステムが始動できます。

知識

■キーを “ACC” から “LOCK” にまわすには

1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

2 キーを押し込みながら “LOCK” までまわす



■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 71

■外気温が低いときは

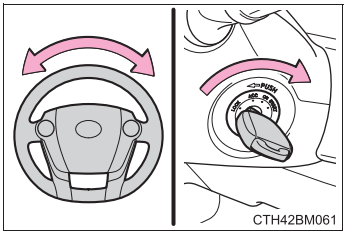
ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 78）
トヨタ販売店へ連絡してください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、パワースイッチをまわしてください。



■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 399, 405

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、パワースイッチが “ACC” または “LOCK” のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

警告

■**ハイブリッドシステムを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**走行中の警告**

走行中はパワースイッチを “LOCK” にしないでください。
緊急時は走行中にパワースイッチを “ACC” にしてください。走行中にハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P. 388)

注意

■**補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを “ACC” または “ON” にしたまま長時間放置しないでください。

■**ハイブリッドシステムを始動するとき**

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

パワー（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、ハイブリッドシステムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

ハイブリッドシステムの始動のしかた

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

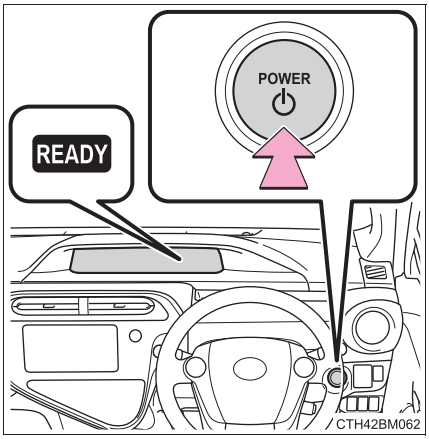
シフトレバーが Ｐ 以外の位置にあるとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。（→ P. 181）

3 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに が表示されます。

表示されないと、ハイブリッドシステムは始動しません。

4 パワースイッチを短く確実に押す



短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READYインジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでもハイブリッドシステムを始動できます。

5 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが点滅から点灯にかわり、ブザーが鳴れば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

READY インジケーターが点灯していれば、エンジンが停止していても走行できます。（車両の状態に応じて、エンジンは自動で始動・停止します）

ハイブリッドシステムの停止のしかた

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかけて（→ P. 186）、シフトレバーを P の位置にする

3 パワースイッチを押す

4 ブレーキペダルから足を離して、マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯していることを確認する

パワースイッチの切りかえ

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを短く確実に押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります。）

① OFF※

非常点滅灯が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯します。

② アクセサリーモード

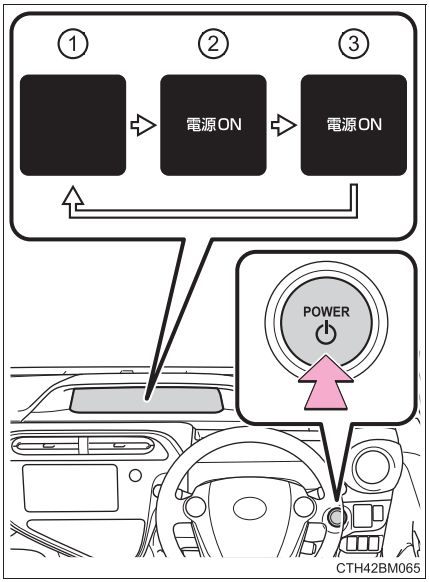
アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されます。

③ ON モード

すべての電装品が使用できます。

マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されます。



※ シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止したとき

シフトレバーが P 以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、ハイブリッドシステムは停止しますが、パワースイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーを P の位置にする

3 マルチインフォメーションディスプレイに 電源ON が表示されていることを確認し、パワースイッチを短く確実に 1 回押す

4 マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON の表示が消灯していることを確認する

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードまたは 1 時間以上 ON モード（ハイブリッドシステムが始動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。ハイブリッドシステムが始動していないときは、パワースイッチをアクセサリーモードまたは ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

→ P. 71

■電子キーの電池の消耗について

→ P. 116

■外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 131

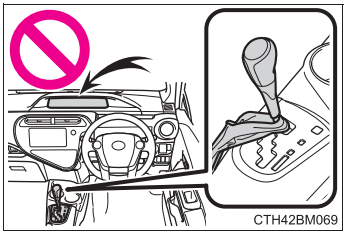
■ご留意いただきたいこと

→ P. 132

■ハイブリッドシステムが始動しないときは

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→ P. 78）トヨタ販売店へ連絡してください。

●シフトレバーが P の位置にあるか確認してください。ハイブリッドシステムを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P 以外の位置にするとハイブリッドシステムを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに “始動時は P レンジに入れてください” が表示されます。

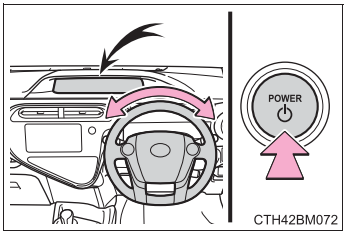


■ステアリングロックについて

パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ステアリングロックが解除できないときは

マルチインフォメーションディスプレイに “ステアリングロック未解除” が表示されます。シフトレバーが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



■ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にハイブリッドシステムの始動・停止を繰り返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■ハイブリッドシステムに異常があるときは

→ P. 399, 405

■電子キーの電池が切れたときは

→ P. 364

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやハイブリッドシステムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、ハイブリッドシステムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは

→ P. 453

警告

■ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

ハイブリッドシステムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “スマートエントリー＆スタートシステムチェック” が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。

■緊急時のハイブリッドシステム停止方法

走行中にハイブリッドシステムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。（→ P. 388）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中にハイブリッドシステムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチをアクセサリーモードまたはON モードにしたまま長時間放置しないでください。

●ハイブリッドシステム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイに

が表示されている場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

●シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させないでください。シフトレバーがP以外でハイブリッドシステムを停止させた場合、パワースイッチがアクセサリーモードとなるため、そのまま放置すると補機バッテリーあがりの原因となります。

■ハイブリッドシステムを始動するとき

もしハイブリッドシステムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

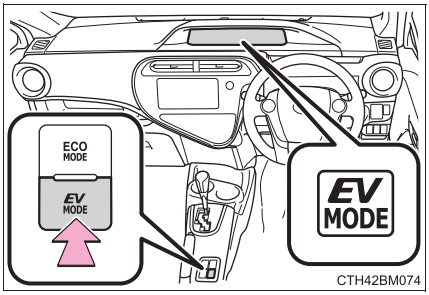
EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池から電力を供給し、電気モーターのみを使って走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。

EV ドライブモードのON／OFFを切りかえる

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。



知識

■EV ドライブモードの切りかえについて

次のときは EV ドライブモードに切りかわらない場合があります。

▶マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴ります。

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

EV ドライブモードに切りかわらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車したあとや登降坂、高速走行後など

●ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0 ℃を下まわるような低温下に長時間駐車したあとなど

●ガソリンエンジンが暖機運転中のとき

●駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態
（→ P. 109, 111）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

●フロントウインドウガラス曇り取りを使用しているとき

■ガソリンエンジンが冷えているときの EV ドライブモードの切りかえについて

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動した場合、しばらくすると暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動し、EV ドライブモードに切りかえることができなくなります。
ハイブリッドシステム始動操作後、READY インジケーターが点灯したら、ガソリンエンジンが始動する前に EV ドライブモードスイッチを押してください。

■EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。

▶マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、EV ドライブモード表示灯が点滅したあと、消灯します。

●駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターに表示される駆動用電池の残量が少ない状態
（→ P. 109, 111）

●車速が高いとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

■EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は数百 m から約 2 km 程度です。ただし、車両の状況によっては EV ドライブモードが使用できない場合があります。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります）

■燃費について

ハイブリッドシステムは、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、最も燃費が良くなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると、燃費が悪くなることがあります。

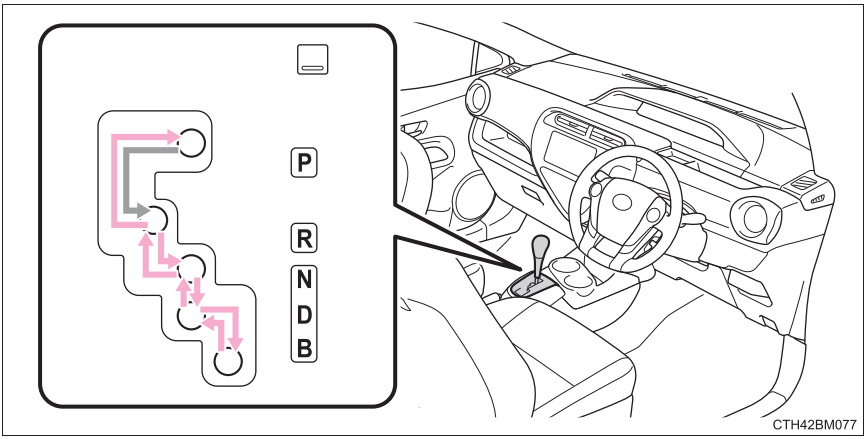
警告

■走行中の警告

EV ドライブモードではエンジン音がしないため、周囲の人が車両の発進や接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かない場合がありますので、十分注意して運転してください。

トランスミッション

シフトレバーの動かし方



スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：

パワースイッチが “ON” の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：

パワースイッチが ON モードの状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P から他ポジション、または D から R・P、および R から P・D・B へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※
B	坂道や急な下り坂など、強いエンジンブレーキが必要なとき

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

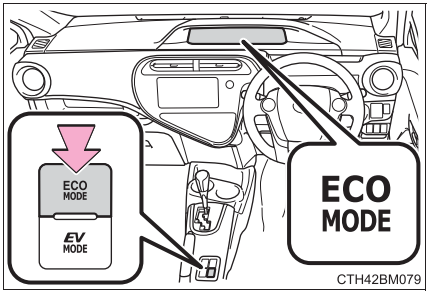
エコドライブモードの選択

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房・冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

スイッチを押して、エコドライブモードの ON・OFF を切りかえる

スイッチを押すと、メーター内の ECO MODE 表示灯が点灯します。

通常走行モードにもどすときは再度スイッチを押します。



知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは暖房・冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。（→ P. 312）空調の効きをより良くしたいときは、設定温度や風量を調整するか、またはエコドライブモードを解除してください。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■シフトポジションが N でアクセルペダルを踏んだとき

ブザーが鳴り、N であることを運転者に知らせます。

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→ P. 158

■シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

1 パーキングブレーキをかける

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

2 パワースイッチを “LOCK” にする

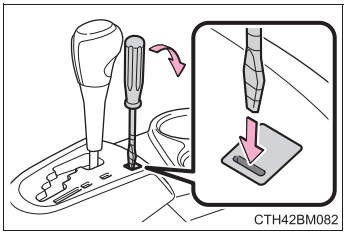
▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

2 パワースイッチを ＯＦＦ にする

3 ブレーキペダルを踏む

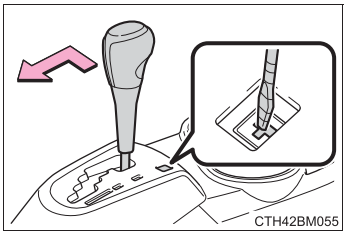
4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。


CTH42BM082

5 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。


CTH42BM055

警告

■**すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■**シフトロック解除時の事故を防ぐために**

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけてブレーキペダルを踏んでください。
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**駆動用電池の充電について**

シフトレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

① 左折

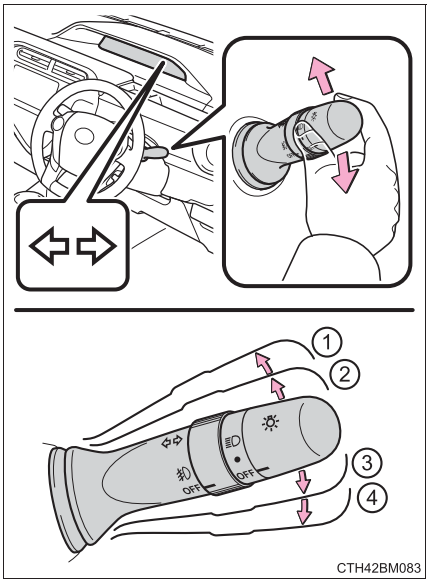
② 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

③ 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

④ 右折



知識

■**作動条件**

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■**表示灯の点滅が異常に速くなったときは**

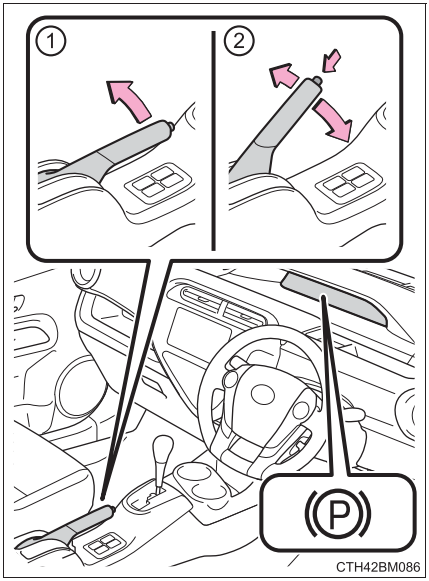
方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

操作のしかた

① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く

② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす



知識

■駐車するとき

→P. 156

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 399, 409

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 301

注意

■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

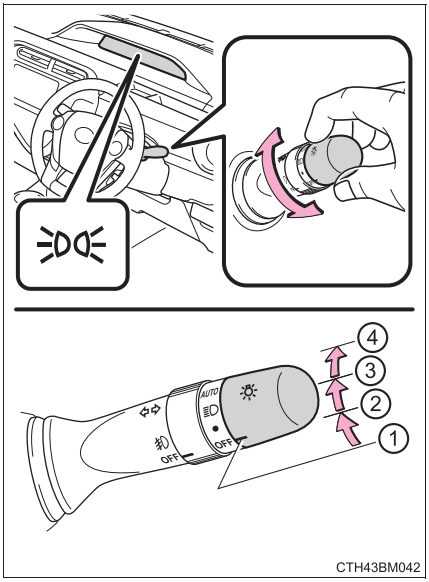
次のように　☼　スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

① **OFF** 消灯

② ● 車幅灯･尾灯･番号灯･メーター照明を点灯

③ 上記ランプとヘッドランプを点灯

④ AUTO★ ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯（パワースイッチが　ON モードのとき）



CTH43BM042

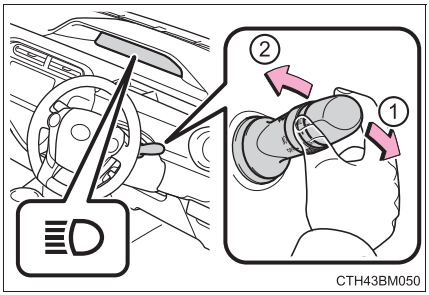
ハイビームにする

① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。



CTH43BM050

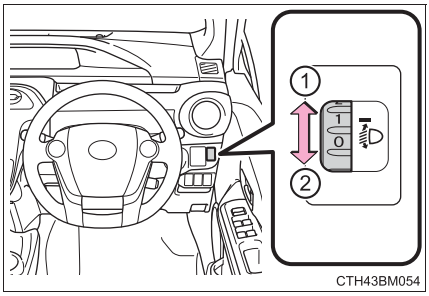
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドランプ装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

① 上向きに調整

② 下向きに調整



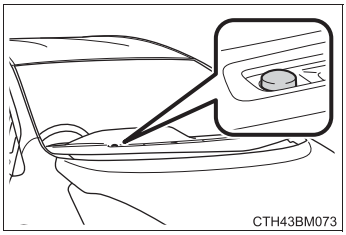
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	一体可倒 リヤシート装着車	分割可倒 リヤシート装着車
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	1.5	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2	2.5
運転者	ラゲージルーム 満載時	4	4

知識

■ライトセンサー（ランプ自動点灯・消灯システム装着車）

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けると全てのランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチをアクセサリーモードまたは OFF にして運転席ドアを開けると全てのランプが消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON モードにするか、一度ランプスイッチを OFF にもどし、再度 ● または の位置にします。

■オートレベリングシステム（LED ヘッドランプ装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能★

車両のバッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが “ACC” または “LOCK”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはパワースイッチがアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。
次のいずれかをおこなった場合、節電機能は解除されます。

・パワースイッチを “ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはパワースイッチを ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）にしたとき
・ランプスイッチを操作したとき
・ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 480）

⚠注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

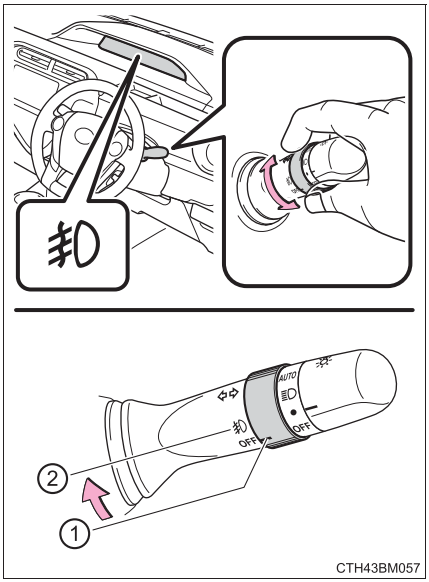
フォグランプスイッチ★

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

▶ フロントフォグランプ装着車

① **OFF** 消灯する

② 点灯する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

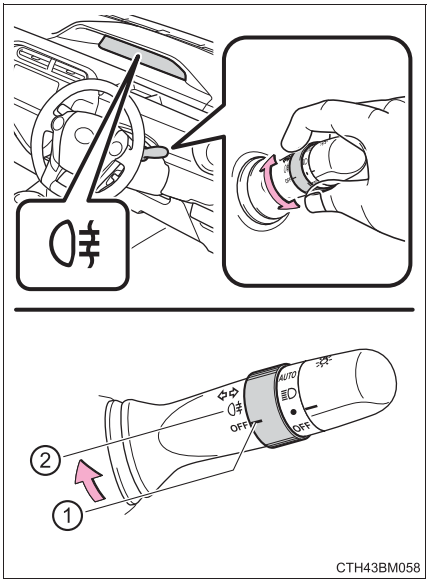
▶ リアフォグランプ装着車

① **OFF** 消灯する

② 点灯する

手を離すと **OFF** の位置までもどります。

再度操作すると、消灯します。



▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

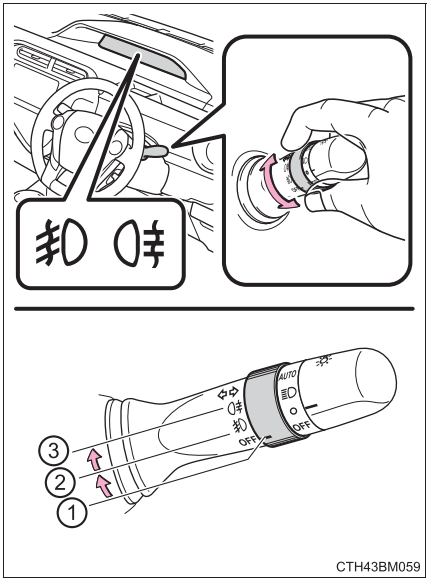
① **OFF** 消灯する

② フロントフォグランプを点灯する

③ フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。



知識

■点灯条件

▶フロントフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶リヤフォグランプ装着車

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます。

▶フロント＆リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：
ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。
リヤフォグランプ：
フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグランプ★について

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

▶ 間欠ワイパー

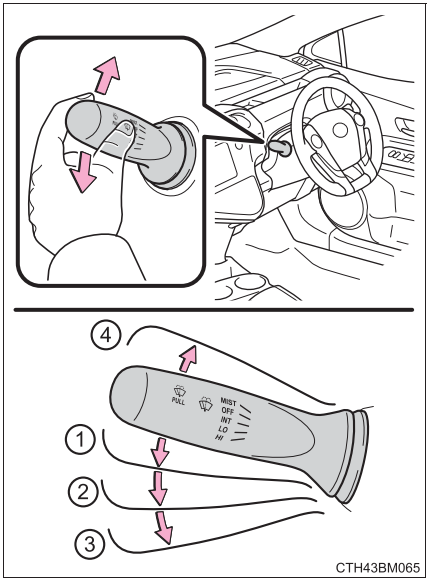
次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

① **INT** 間欠作動（INT）

② **LO** 低速作動（LO）

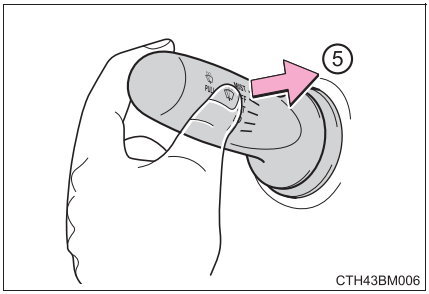
③ **HI** 高速作動（HI）

④ **MIST** 一時作動（MIST）



⑤ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



▶ 間欠時間調節式ワイパー

“INT” を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

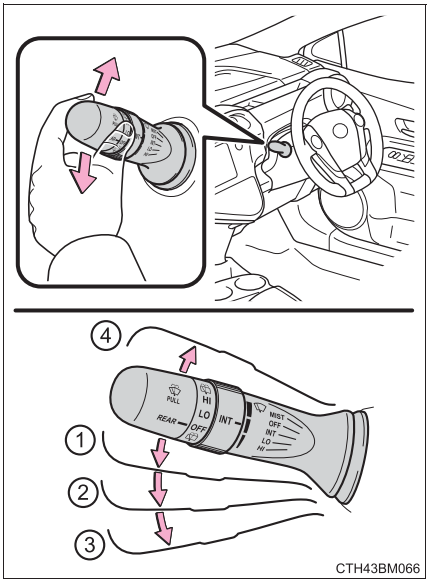
次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

① **INT** 間欠作動（INT）

② **LO** 低速作動（LO）

③ **HI** 高速作動（HI）

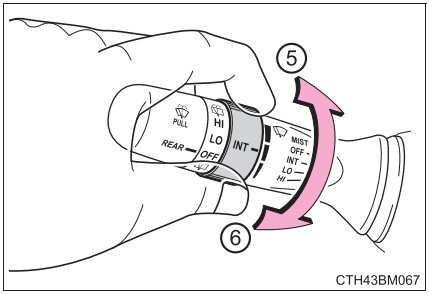
④ **MIST** 一時作動（MIST）



CTH43BM066

⑤ 間欠ワイパーの作動頻度（減）

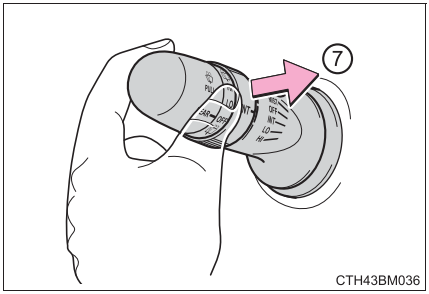
⑥ 間欠ワイパーの作動頻度（増）



CTH43BM067

⑦ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

警告

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）★

操作のしかた

次のように **REAR** スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

① **LO** 間欠作動（LO）

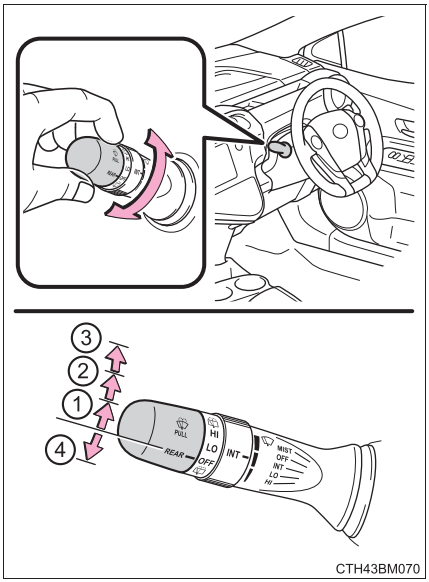
② **HI** 通常作動（HI）

③ ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

④ ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



知識

■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが ON モードのとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**窓ガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■**ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■**ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

● スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを “LOCK” にしてください。

● スマートエントリー＆スタートシステム装着車

ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。

● 燃料の種類を確認してください。

知識

■燃料の種類

●無鉛レギュラーガソリン

●バイオ混合ガソリン（レギュラー）

■バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10% 以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

警告

■給油するときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

●気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しないでください。

●給油口にノズルを確実に挿入してください。

●継ぎ足し給油をしないでください。

●正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

⚠注意

■給油するときは

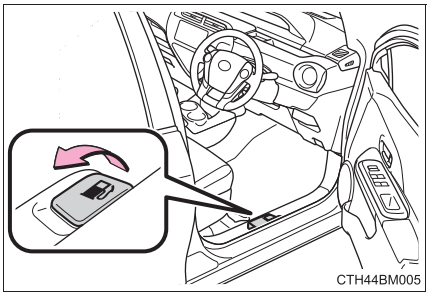
指定のガソリンを使用してください。
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

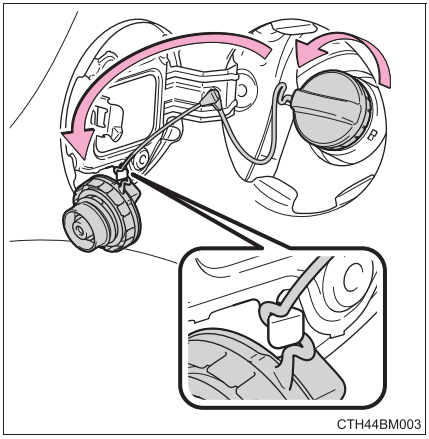
※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE 混合率 22% をこえるもの

給油口の開け方

1 オープナーを上げて、給油扉を開ける


CTH44BM005

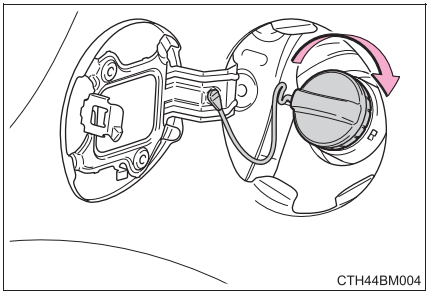
2 キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける


CTH44BM003

給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。


CTH44BM004

警告

■**キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。
正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense★

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P. 211

■ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→P. 223

■ オートマチックハイビーム

→P. 229

■ その他の運転支援機能

先行車発進告知機能

→P. 233

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。本システムの認識性能・制御性能には限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。
・アクセルペダルの操作状況
・ブレーキペダルの操作状況
・車速
・プリクラッシュセーフティの各機能の作動状況
・先行車などの障害物との距離、相対速度などの情報
・前方カメラの画像情報（プリクラッシュブレーキ作動時のみ）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。
・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・トヨタが訴訟で使用する場合
・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

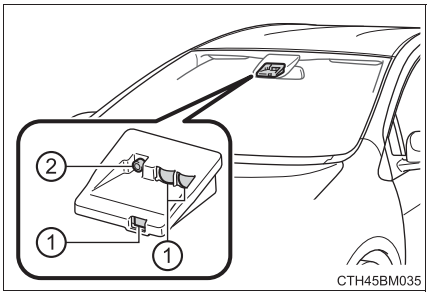
また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

前方センサー

フロントウインドウガラス上部にある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置の作動に必要な情報を認識します。

① レーザーレーダー

② 前方カメラ



警告

■**前方センサーについて**

前方センサーは、前方車両の検出にレーザー光を使用しており、IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 1M に相当します。通常の使用においてレーザー光が目に障害をおよぼす危険はありませんが、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な視覚障害におよぶか、最悪の場合失明につながるおそれがあります。

- 有害なレーザー照射を避けるため、前方センサーは絶対に分解や取りはずしをしないでください。また、分解した前方センサーは IEC 60825-1 規格におけるレーザー等級 3B に相当し、目に有害です。
- 光学機器（拡大鏡・顕微鏡・虫眼鏡など）を使用して、100mm 以内の距離からセンサーをのぞき込まないでください。

レーザー等級ラベル

INVISIBLE LASER RADIATION
DO NOT VIEW DIRECTLY WITH
OPTICAL INSTRUMENTS (MAGNIFIERS)
CLASS 1M LASER PRODUCT

レーザー説明ラベル

Max average power: 45 mW
Pulse duration: 33 ns
Wavelength: 905 nm

IEC 60825-1:2007
Complies with FDA performance standards for laser products except for deviations pursuant to Laser Notice No. 50, dated
July 26th, 2001

レーザー放射仕様

最大出力（平均）: 45 mW
パルス持続時間 : 33 ns
波長 : 905 nm
発散角（水平 × 垂直）: 28° ×12°

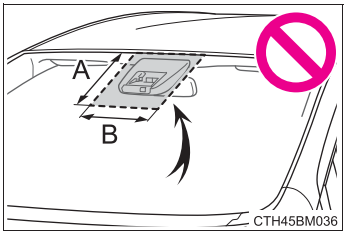
警告

■**前方センサーの故障や誤作動を防ぐために**

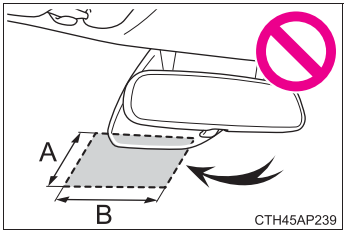
次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方センサーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
フロントウインドウガラス内側の前方センサー取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラス外側の前方センサー前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない
A：フロントウインドウガラス上端から前方センサー下端より下約 10cm まで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●フロントウインドウガラス内側の前方センサー下部（図に示す範囲内）に何も取り付けたり、貼り付けたりしない
A:前方センサー下端から下約 10cmまで
B：約 20cm（前方センサー中心から左右約 10cm）



●冬季のように、車室内と外気の温度差が大きいときなどは、フロントウインドウガラスが曇りやすくなります。フロントウインドウガラスの前方センサー前部が曇ったり、結露したり、凍結したりすると、システムが一時的に作動しなくなることがあり、PCS 警告灯が点灯します。その場合は、エアコンの除湿機能で曇りなどを取り除いてください。（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 308）

●前方センサー前部に水滴が付着したときはワイパーでふき取る
水滴のふき取りが不十分な場合、性能が低下することがあります。

●前方センサー前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

ワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

警告

- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに液体をかけない
- 前方センサーに強い光を照射しない
- 前方センサーのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方センサーに強い衝撃を加えない
- 前方センサーの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方センサーを分解しない
- インナーミラーなどの前方センサー周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方センサーの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方センサーの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない
- ダッシュボードには何も取り付けたり、置いたりしない

■フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について

フロントウインドウガラスが曇りやすい状況のときには、ヒーターにより前方センサー周辺のフロントウインドウガラスが熱くなっていることがあり、ふれるとやけどをするおそれがあります。

知識

■PCS　警告灯が点滅、およびマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると PCS 警告灯・警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が消え、作動可能状態になります。

対処を行っても PCS 警告灯が点滅または点灯したままのとき、および警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・汚れや付着物を取り除く。 ・前方センサー周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する （フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→ P. 308）
炎天下や極寒の環境など、前方センサー周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方センサーが高温のときは、エアコンでセンサー周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方センサーが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方センサーが低温のときは、エアコンで前方センサー周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方センサーの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方センサーの視界がさえぎられないようにする

●周囲の環境（暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できない状況）が改善されたり、しばらく走行したりしても PCS 警告灯や警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

PCS（プリクラッシュセーフティ）★

進路上の作動対象（→ P. 211）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いと判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 215）

システムの作動対象

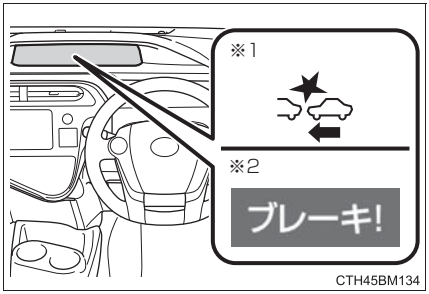
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いと判断したとき、“ピピピ・・・” とブザー音が鳴り、PCS 作動表示灯が点滅 ※1、またはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し ※2、回避操作をうながします。



※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いと判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、“ピピピ・・・” とブザー音が鳴ってブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P. 217
・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P. 220

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■**プリクラッシュブレーキについて**

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングを遅らせる場合があります。

●走行中、システムは踏切の遮断機などの前方障害物を衝突対象物と認識し、プリクラッシュブレーキを作動させることがあります。万一踏切内に閉じ込められた場合などは、次の操作で車両を前進させ、状況に応じて安全を確保してください。

・車両停止後に再度アクセルペダルを踏む
・減速中にアクセルペダルを深く踏み込む（→ P. 217）
・プリクラッシュセーフティを OFF にする（→ P. 215）

警告

■**プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引してもらうとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、ハイブリッドシステムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの性能を発揮できないとき（→ P. 355, 361）
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを取り付けているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティを OFF にする

システムを OFF にするには、PCS スイッチを 3 秒以上押す

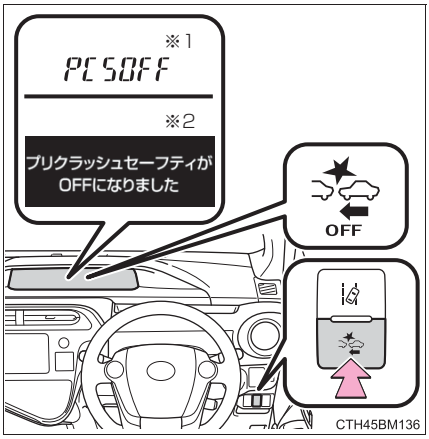
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、メーター※1 またはマルチインフォメーションディスプレイ※2 にメッセージが表示されます。

システムを ON にするには、もう一度 PCS スイッチを押します。

ハイブリッドシステムを始動するたび、プリクラッシュセーフティは ON になります。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

PCS スイッチを押すと PCS 作動表示灯※1 が点灯し、メーター※1、またはマルチインフォメーションディスプレイ※2 に現在の警報タイミングが表示されます。表示された状態で PCS スイッチを押すごとに、次のように警報タイミングが切りかわります。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF の状態から ON にすると「中間」に戻ります。

① 早い

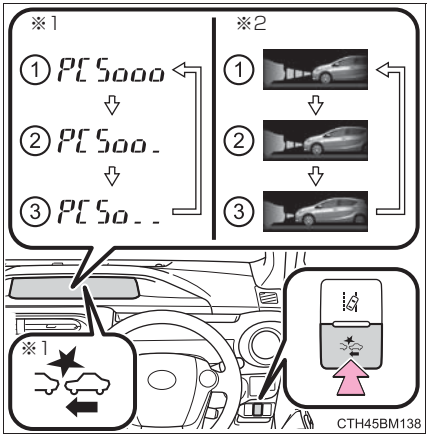
② 中間

初期設定

③ 遅い

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 15 ～ 140km/h	約 15km/h 以上
歩行者	約 15 ～ 65km/h	約 15km/h 以上

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 80km/h	約 30km/h 以上
歩行者	約 30 ～ 65km/h	約 30km/h 以上

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 80km/h	約 10km/h 以上
歩行者	約 10 ～ 65km/h	約 10km/h 以上

ただし、次のときシステムは作動しません。

●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

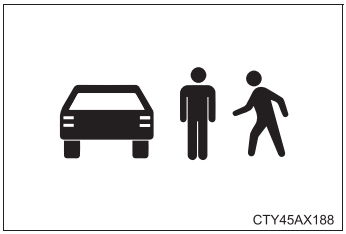
●シフトレバーが R のとき

●VSC が OFF のとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→ P. 220）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

●プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

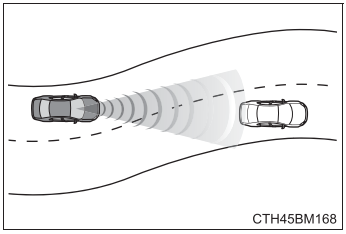
・アクセルペダルを強く踏み込む ※
・ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

※ 車速が約 15km/h 以下でアクセルペダルを強く踏み込んだ場合、誤発進操作とシステムが判断してプリクラッシュブレーキの作動が解除されないことがあります。

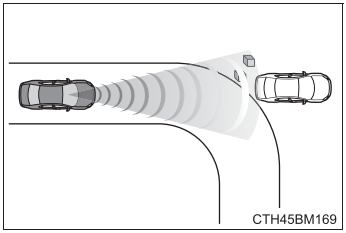
■衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

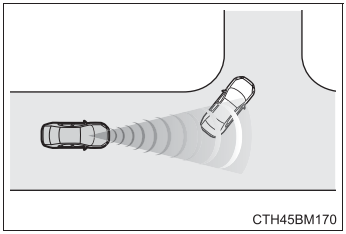

CTH45BM168

・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

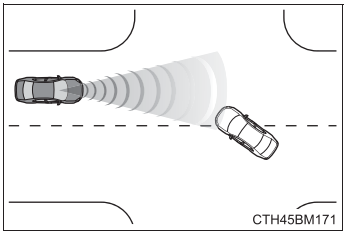

CTH45BM169

・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき

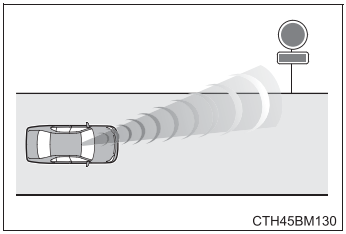
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき


CTH45BM170

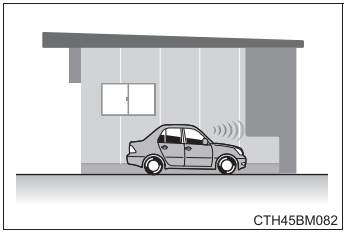
・右左折時に作動対象とすれ違ったとき
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき


CTH45BM171

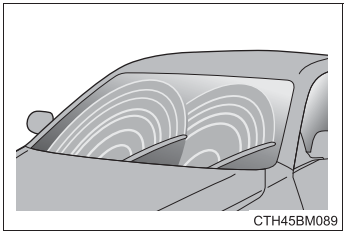
・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に光を反射する物（マンホール・反射材など）・段差・突起物があるとき
・センサーへの強い衝撃などにより、センサーの向きがずれているとき


CTH45BM130

・前方センサーの高さに突き出た障害物がある場所に駐停車するとき


CTH45BM082

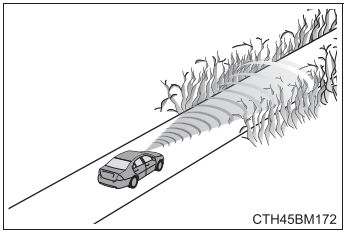
・フロントウインドウガラスが雨滴などで覆われているとき


CTH45BM089

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき

・洗車機を使用するとき

・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

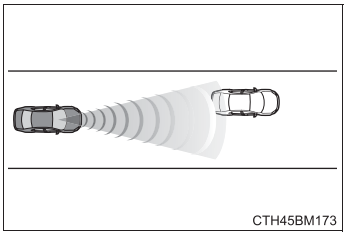

CTH45BM172

・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき

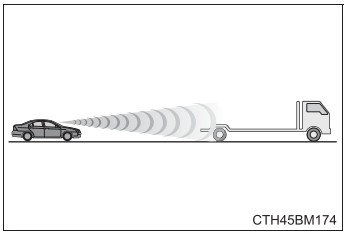
■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

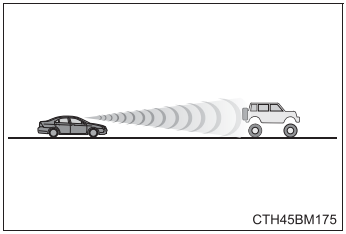
・自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき (急ハンドル・急加速・急減速など)
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



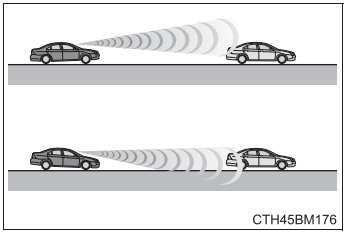
・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両が自転車・オートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・歩行者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・きついカーブや起伏がある場所を走行するとき
・作動対象がレーザー波を反射しにくい状態のとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。

・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）

・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの磨耗や空気圧など）が良好でないとき

・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→ P. 292）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイ ※ に「VSC が OFF のためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

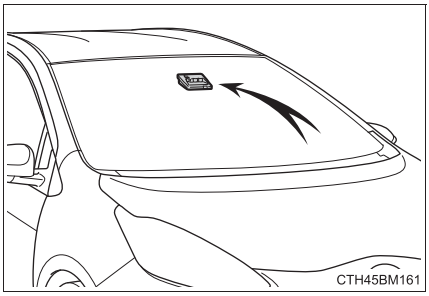
※ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

LDA（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）★

機能概要

白（黄）線の整備された道路を走行中、車線からの逸脱の可能性を運転者に警告します。

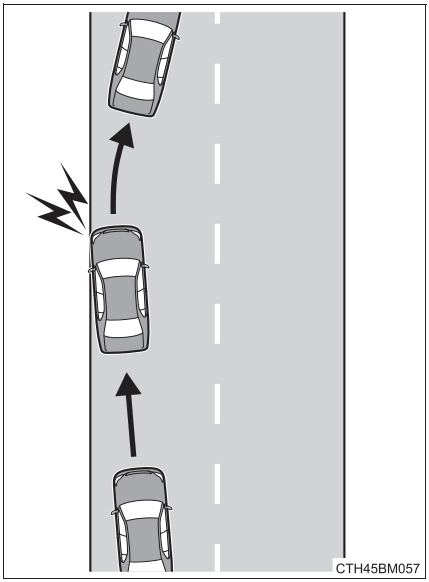
LDA は、フロントウインドウガラス上部の前方センサーで、白（黄）線を認識します。



車線逸脱警報機能

車両が車線から逸脱する可能性がある場合に、メーターまたはマルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったときは、周りの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線内の中央付近にもどってください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■LDA をお使いになる前に

LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■誤作動を防ぐために

LDA を使用しないときは、LDA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■LDA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。
- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

設定のしかた

LDA を使用するには LDA スイッチを押す

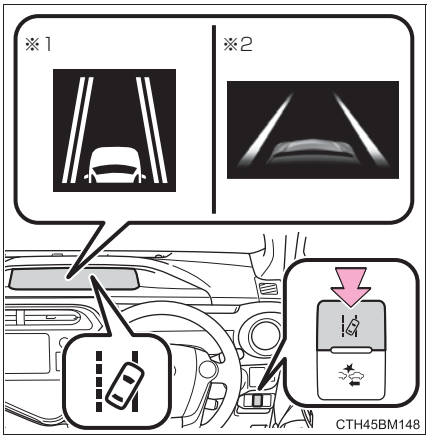
メーター内のLDA表示灯が緑色で点灯します。

OFF にするには再度 LDA スイッチを押します。

いったん LDA を ON/OFF すると、次回ハイブリッドシステムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

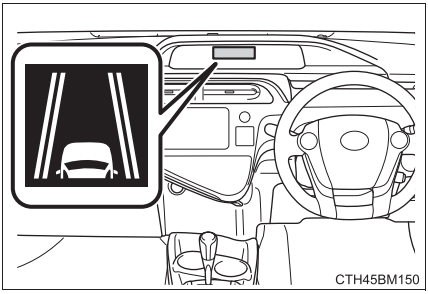
※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



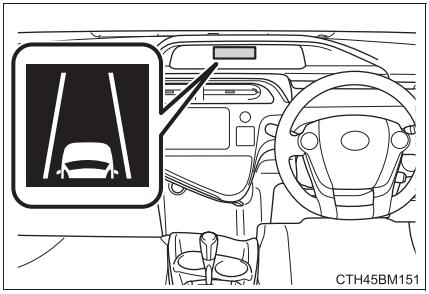
メーター・マルチインフォメーションディスプレイ表示

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車



白線表示が２本のとき：

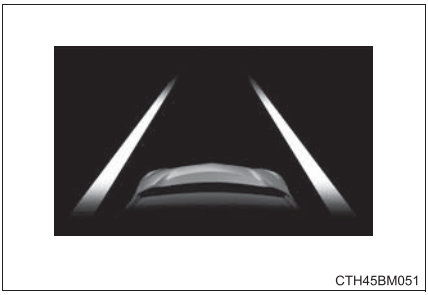
システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が点滅します。



白線表示灯が１本のとき：

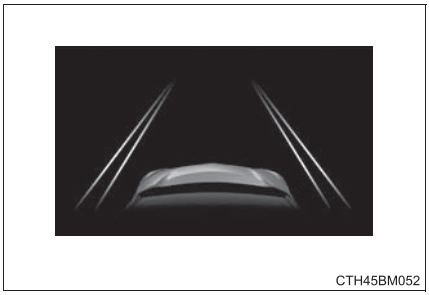
システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車



白線表示の内側が白いとき：

システムが白（黄）線を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。



白線表示の内側が黒いとき：

システムが白（黄）線を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- LDA を ON にしているとき
- 車速が約 50km/h 以上のとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき
- 方向指示レバーを操作していないとき
- 直線路または半径が約 150m よりゆるいカーブを走行しているとき
- システムの異常が検知されていないとき（→ P. 398）

■機能の一時解除

作動条件（→ P. 226）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能について

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。

■白（黄）線が片側にしかないとき

白（黄）線が認識できていない方向への車線逸脱警報は作動しません。

■炎天下に駐車したあとは

走行開始後、しばらくのあいだ LDA は作動せず、PCS 警告灯が点灯 ※1、またはマルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示 ※2 されることがあります。室内温度が低下し、前方センサー周辺（→ P. 206）の温度が適温になると作動するので、いったん LDA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、前方センサーが白（黄）線を正しく検知できず、車線逸脱警報機能が正しく作動しないおそれがあります。

●白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき

●雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

●照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき

●トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

●対向車のヘッドランプ光・太陽光などがカメラに入射しているとき

●分岐・合流路などを走行しているとき

●坂道を走行しているとき

●左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき

●舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき

●急カーブを走行しているとき

●車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき

●重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき

●先行車との車間距離が極端に短くなったとき

●走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき

●夜間にヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

●車線変更をした直後、または交差点を通過した直後

■LDA 表示灯が黄色で点灯したとき（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。（→ P. 400）

■警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージで注意をうながします。（→ P. 405）

警告メッセージが表示されても、通常の走行に支障はありません。

■カスタマイズ機能

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

→ P. 95

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

→ P. 105

オートマチックハイビーム★

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方センサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■**安全にお使いいただくために**

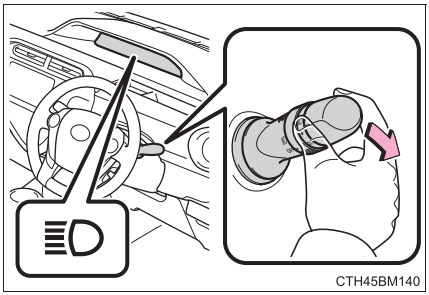
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■**オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

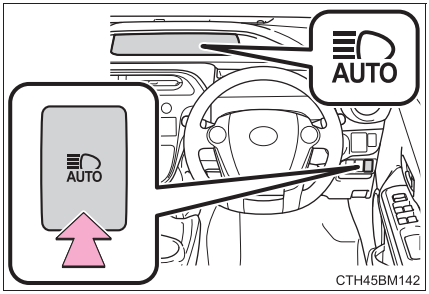
オートマチックハイビームの使い方

1 ランプスイッチを AUTO ★または にし、レバーを前方へ押す



2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

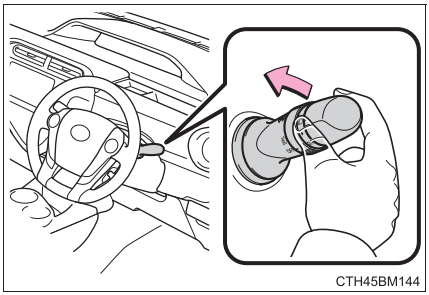
手動切りかえのしかた

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

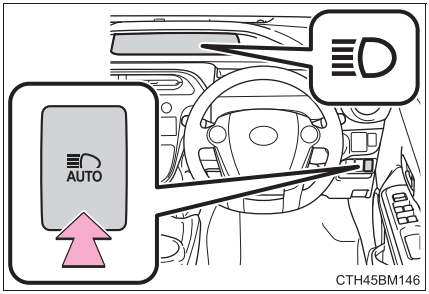

CTH45BM144

■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。



CTH45BM146

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

・ 車速が約 30km/h 以上
・ 車両前方が暗い
・ 前方にランプを点灯した車両がいない
・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

・ 車速が約 25km/h 以下
・ 車両前方が明るい
・ 前方車両がランプを点灯している
・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方センサーの検知について

●次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方センサーが変形しているときや、汚れているとき
・前方センサーの温度が非常に高いとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があるとき、または光軸がずれているとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■**オートマチックハイビーム表示灯が黄色で点灯したとき（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）**

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

先行車発進告知機能★

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとメーター ※1、またはマルチインフォメーションディスプレイ ※2 の表示でお知らせする機能です。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方センサーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- ●自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- ●先行車がオートバイ・自転車などのとき
- ●先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- ●悪天候（雨･霧･雪･砂嵐など）･煙･水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- ●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- ●プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- ●右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- ●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- ●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- ●前方センサー周辺への強い衝撃などにより、前方センサーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- ●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- ●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

メーター※1 のカスタマイズモード（→ P. 95）、またはマルチインフォメーションディスプレイ※2 の ⚙ 画面（→ P. 105）で、先行車発進告知機能に関する次の設定を変更することができます。

●先行車発進告知機能の ON/OFF

●先行車発進告知機能の告知タイミング

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

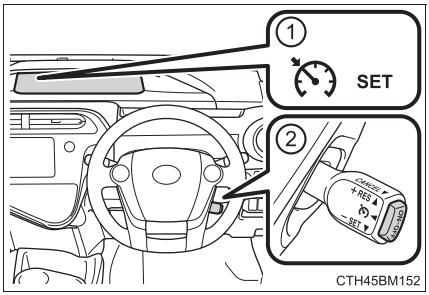
クルーズコントロール★

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。

① 表示灯

② クルーズコントロールスイッチ

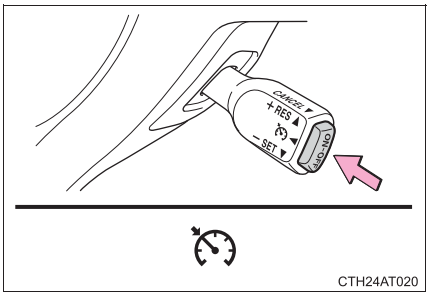


速度を設定する

1 ON - OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

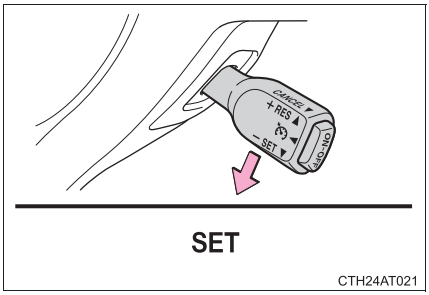
OFF にするには、再度スイッチを押します。



2 希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げて設定する

メーター内のセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの速度で定速走行できます。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定速度をかえる

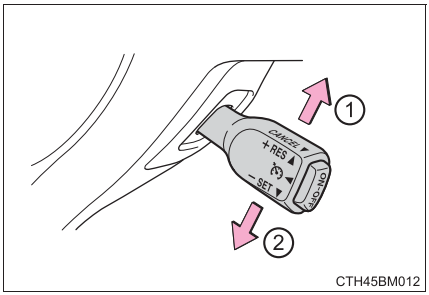
設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。

① 速度を上げる

② 速度を落とす

微調整：
レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：
希望の車速になるまでレバーを保持する



CTH45BM012

設定速度は、次のとおりに増減されます。

微調整：
レバー操作するごとに約 1.6km/h

調整：
レバーを保持するあいだ

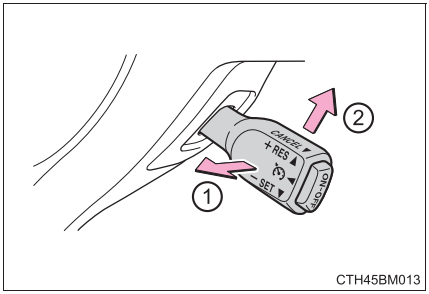
定速走行を解除する・復帰させる

① 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。

② 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。



CTH45BM013

知識

■設定条件について

●シフトレバーが D のとき設定できます。

●車速が約 40km/h 以上のとき設定できます。

■車速設定後の加速について

●通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

●クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げることにより設定車速を変更することができます。

■定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

●設定速度より実際の速度が約 16km/h 以上低下した

●実際の速度が約 40km/h 以下になった

●VSC が作動した

●TRC が一定時間作動した

●TRC または VSC を OFF にした

■定速走行中、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

→ P. 407

警告

■**誤操作を防ぐために**

クルーズコントロールを使用しないときは、ON - OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■**クルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

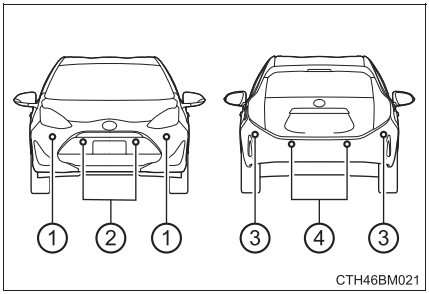
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
  急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

クリアランスソナー★

クリアランスソナーは、低速（約 10km/h 以下）で運転しているときに、車両と障害物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせする補助装置です。

センサーの位置・種類

① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー



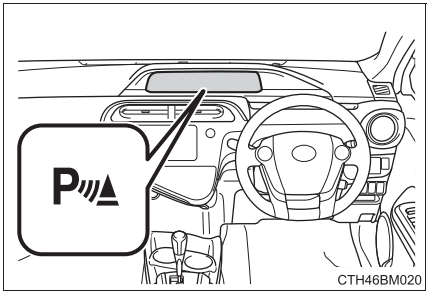
クリアランスソナーの設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 105）から、クリアランスソナーの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。

（パワースイッチの操作では復帰しません）



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

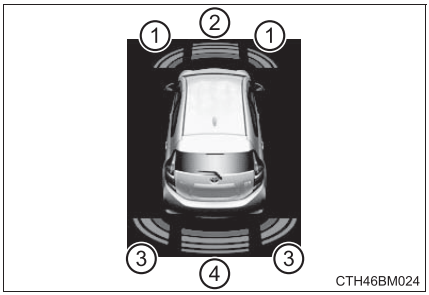
クリアランスソナーの表示のしかた

① フロントコーナーセンサー作動表示

② フロントセンターセンサー作動表示

③ リヤコーナーセンサー作動表示

④ リヤセンターセンサー作動表示



距離表示の見方

表示※	障害物までのおおよその距離		
		フロントコーナー&フロントセンターセンサー	リヤコーナー&リヤセンターセンサー
（点灯）	遠い ↑	**フロントセンターセンサー：** 約 100cm ～ 60cm	**リヤセンターセンサー：** 約 150cm ～ 65cm
（点灯）		約 60cm ～ 45cm	**リヤコーナーセンサー：** 約 60cm ～ 45cm **リヤセンターセンサー：** 約 65cm ～ 50cm
（点灯）		約 45cm ～ 35cm	**リヤコーナーセンサー：** 約 45cm ～ 35cm **リヤセンターセンサー：** 約 50cm ～ 40cm
（点滅）	近い ↓	約 35cm 以下	**リヤコーナーセンサー：** 約 35cm 以下 **リヤセンターセンサー：** 約 40cm 以下

※ イラストは説明のための例であり、センサーの検知状態により表示は異なります（→ P. 241）

■ ブザー動作と障害物までの距離

● 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
・フロントコーナーセンサー、フロントセンターセンサー、リヤコーナーセンサーが検知した障害物との距離が約 35cm 以下
・リヤセンターセンサーが検知した障害物との距離が約 40cm 以下

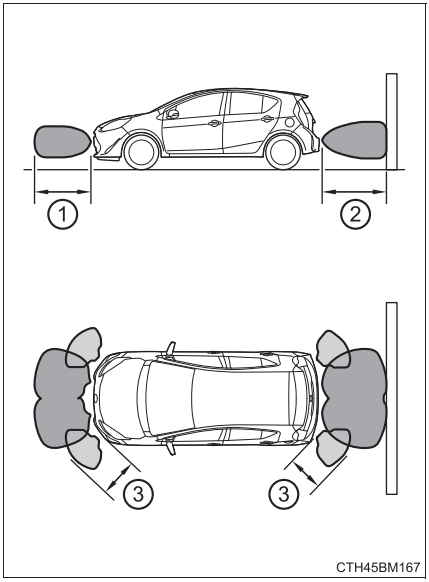
● 複数のセンサーが同時に障害物を検知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

障害物を検知できる範囲

① 約 100cm（約 1.0m）

② 約 150cm（約 1.5m）

③ 約 60cm（約 0.6m）
・検知できる範囲は右図のとおりです。ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると検知できません。
・障害物の形状・条件によっては検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。



知識

■クリアランスソナーの作動条件

パワースイッチが ON（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のとき

●フロントコーナーセンサー：

・シフトレバーが P 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●フロントセンターセンサー：

・シフトレバーが P・R 以外にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

●リヤコーナー、リヤセンターセンサー：

・シフトレバーが R にあるとき
・車速が約 10km/h 以下のとき

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●障害物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが障害物に近付きすぎると検知できないことがあります。

●障害物を検知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、障害物まで約 35cm 以内に接近するおそれがあります。

●センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。

●オーディオ（装着車のみ）・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■ブザーの一時消音について

障害物を検知してブザー音が鳴っているときに、ステアリングスイッチの決定スイッチ（→ P. 100）を押すとブザー音を一時消音することができます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

警告

■**クリアランスソナーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車速が約 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの検知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー検知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが検知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください

警告

■センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
  特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては検知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は検知しません。
  センサーより低いものや細い杭などは、一度検知しても接近すると突然検知しなくなることがあります。
- センサーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレートを取り付けたとき

上記に加えて障害物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

警告

■**正確に検知できないことがある障害物**

次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

●人・動物などの動いているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■**クリアランスソナー使用時の注意**

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

●障害物を検知してない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき

●センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき

●バンパーをぶつけたとき

●ブザー音がしないのにクリアランスソナーの作動表示が点灯したままのとき

■**洗車時の注意**

●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

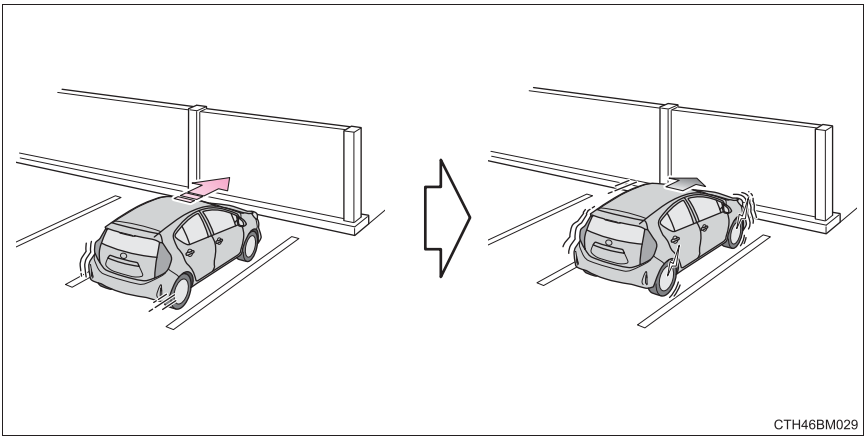
パーキングサポートブレーキ（静止物）★

駐車時や低速走行時における障害物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止している障害物を検知するとシステムが作動し、壁などの障害物への衝突を緩和し被害低減に寄与します。

システム作動例

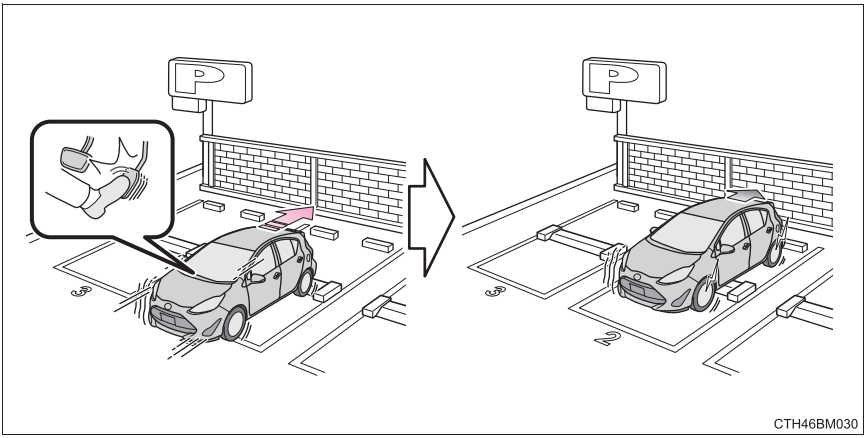
次のようなときに進行方向の静止している障害物を検知してシステムが作動します。

◆ 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき

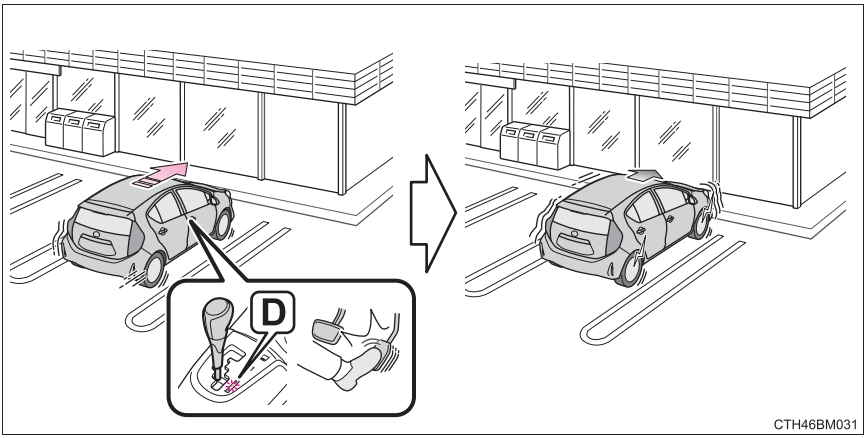


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

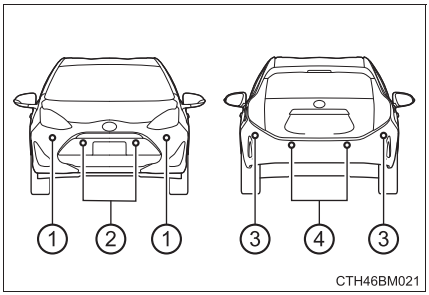


◆ シフトポジションの選択を誤って発車してしまったとき



センサーの種類

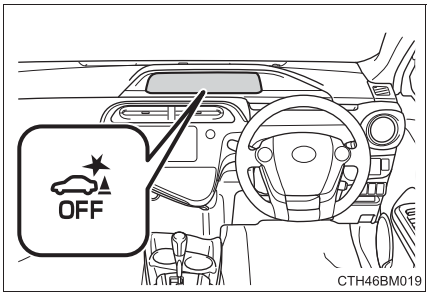
① フロントコーナーセンサー
② フロントセンターセンサー
③ リヤコーナーセンサー
④ リヤセンターセンサー



パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの 画面（→ P. 105）から、パーキングサポートブレーキ（静止物）の ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

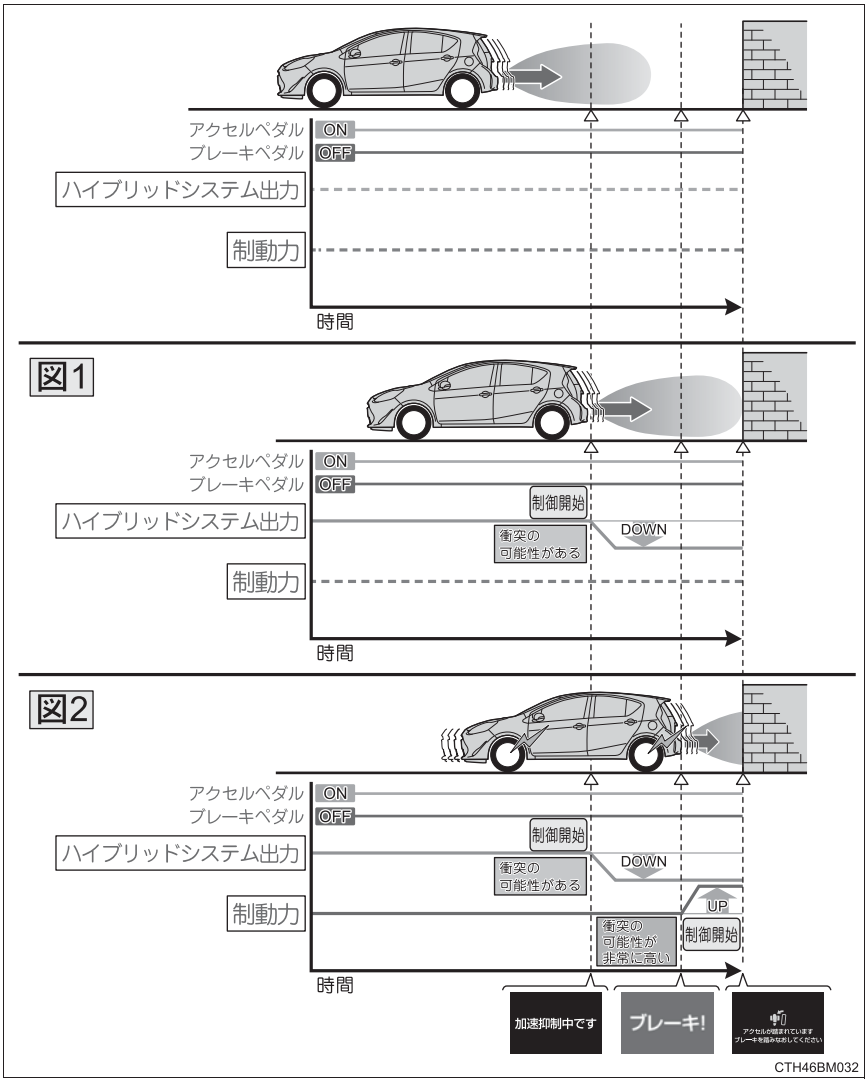
パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。



OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの 画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。
（パワースイッチの操作では復帰しません）

作動について

パーキングサポートブレーキ（静止物）は、衝突の可能性がある静止している障害物を検知したとき、ハイブリッドシステムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（ハイブリッドシステム出力抑制制御：下記図 1）
また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 2）



作動条件について

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→ P. 250, 257）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
- ・車速が約 15km/h 以下
- ・車両進行方向に静止している障害物がある（2 ～ 4m 先まで）
- ・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した

● ブレーキ制御
- ・ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中
- ・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

● ハイブリッドシステム出力抑制制御
- ・パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
- ・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
- ・車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

● ブレーキ制御
- ・パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
- ・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
- ・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
- ・車両進行方向の静止している障害物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

ハイブリッドシステム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

制御	状況	マルチインフォメーションディスプレイ表示	PKSB OFF表示灯	ブザー
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（加速制限制御）	一定以上の加速ができない状況	「加速抑制中です」	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ハイブリッドシステム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況	「ブレーキ！」	消灯のまま	“ポーン”（単発音）
ブレーキ制御作動中	急ブレーキが必要な状況			
システム作動により車両停止	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況	「アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください」	点灯	“ポーン”（単発音）

知識

■センサーの検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→ P. 243）とは異なります。
そのため、クリアランスソナーが障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏めば発進できます。

■システムの復帰について

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 250）するか、パワースイッチ をいったん “LOCK” にしてから再度、“ON” にしてください。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→ P. 250）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。
また、進行方向の障害物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■センサーが検知しない障害物について

次のような障害物は、センサーが検知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
  （特に人は衣類の種類によっても検知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金、フェンス、ロープ、標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの
- 静止していない障害物

■クリアランスソナーのブザーについて

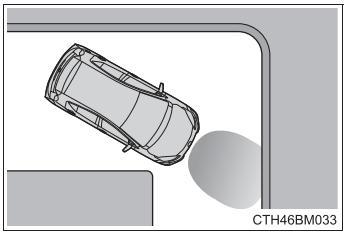
クリアランスソナーの ON/OFF に関係なく（→ P. 240）、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させていなければ（→ P. 250）、前側センサーまたはうしろ側センサーが障害物を検知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、障害物とのおよその距離をお知らせします。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

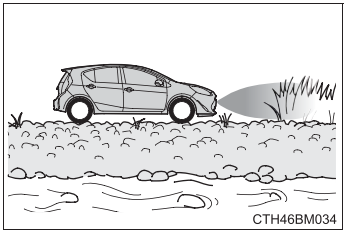
次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●周辺環境の影響

・狭い道路を走行するとき


CTH46BM033

・砂利道・草むらなどを走行するとき


CTH46BM034

・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
・道路脇に障害物があったとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
・縦列駐車時
・地面にわだちや穴がある場合
・排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
・急な登坂路を走行するとき
・冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●天候の影響

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。
また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

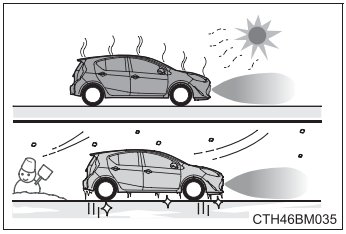
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

●周辺環境の影響

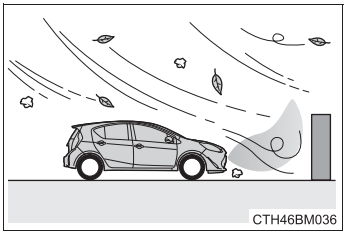
・検知できる障害物と車両のあいだに、検知できない障害物がある場合
・車・二輪車・自転車・歩行者などの障害物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●天候の影響

・炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合


CTH46BM035

・風が強いとき


CTH46BM036

・センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
・どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

●他の音波の影響

・他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両検知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
・センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞･フォグランプ･フェンダーポール･無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

・車両姿勢が大きく傾いたとき
・積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。
約 35km/h 以上の車速で５秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れてなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●補機バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったとき

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

トヨタ販売店で点検してください。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。

●パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約２秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

■システムを正しく作動させるために

センサー（→ P. 250）について、以下のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●改造・分解・塗装などをしない

●純正品以外に交換しない

●センサー周辺へ衝撃を与えない

●センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが障害物を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠注意

■センサーの故障を防ぐために

- ●センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ●高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ●スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- ●点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- ●船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- ●積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ●けん引フックを取り付けた場合

パノラミックビューモニター ※ ★

※ パノラミックビューモニターは、販売店オプションのパノラミックビューモニター対応のナビゲーションシステムを取り付けたときに使用することができます。

パノラミックビューモニターは、車両に取り付けたフロント、サイド、バックカメラの映像を合成して画面上につなぎ目のない車両上方からの映像を表示させることで、低速時の運転を補助する装置です。

警告

- 安全のため、運転者は走行中に極力操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中に画面を見るときは、必要最小限の時間にしてください。
- パノラミックビューモニターは、車両周囲確認を補助する装置です。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。

知識

- 本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

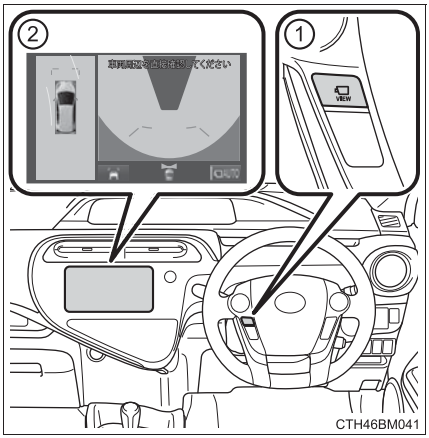
パノラミックビューモニター画面の表示

パワースイッチが “ON” （スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）のときにメインスイッチを押すと、パノラミックビューモニター画面がディスプレイに表示されます。

一定の車速を上まわっているときは、一定時間が経過すると、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報表示画面にもどります。
パノラミックビューモニター画面が表示される時間は、現在の車速等の条件によりかわります。（→ P. 262）

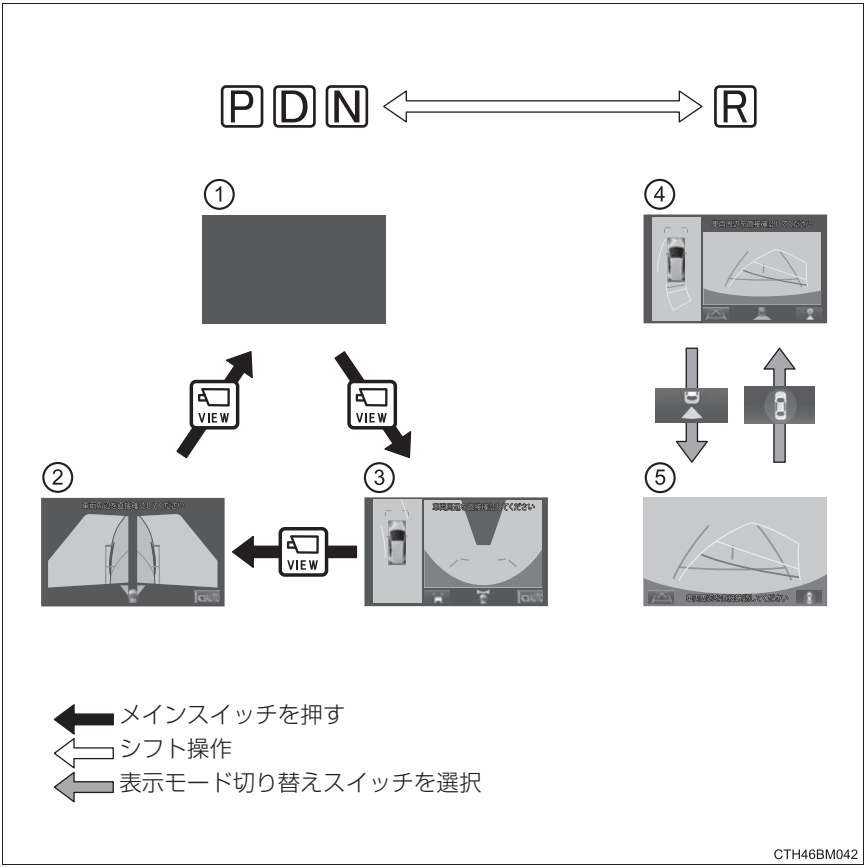
① メインスイッチ

② ディスプレイ



パノラミックビューモニターの画面遷移

パノラミックビューモニター画面の表示中にスイッチを操作することで、次のように画面表示を切りかえることができます。（以下は一例です。）



① ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面など ※

② 両サイドビュー：→ P. 266

③ パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー：→ P. 264

④ パノラミックビュー＆バックビュー：→ P. 268

⑤ バックビュー：→ P. 268

※ 詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。

知識

- 車速が約 12km/h 以下でメインスイッチを押した場合、パノラミックビューモニター画面を表示します
- 車速が約 12km/h 以上になった場合、ナビゲーション画面、オーディオ画面、または情報設定画面が表示されます。

パノラミックビュー＆ワイドフロントビュー

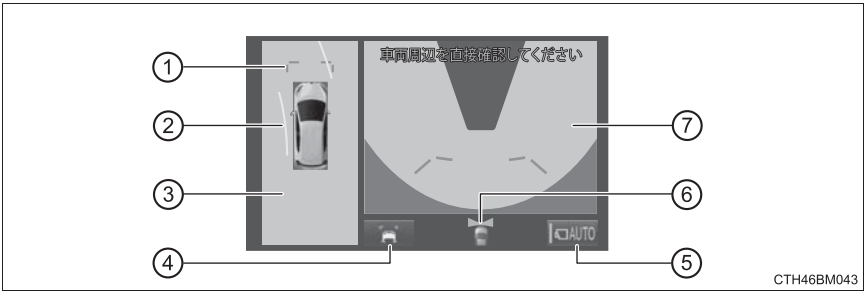
見通しの悪い交差点や T 字路などで、車両の前方と左右方向の状況確認をするために、車両上方からの映像と前方カメラからの映像を同時に表示するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトレバーを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを押す

パノラミックビュー＆ワイドフロントビューが表示されます。



① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 前進予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安を示す（黄色）。
（直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示）

③ パノラミックビュー

④ ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。（→ P. 265）

⑤ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 265）
・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

⑥ 表示エリア

⑦ ワイドフロントビュー

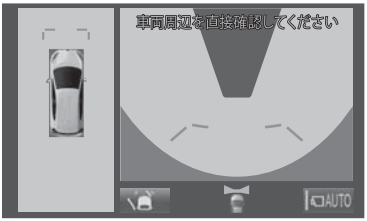
⚠ 警告

乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

■ ガイド線表示モードについて

ガイド線表示モード切り替えスイッチを選択するごとに、表示モードが切り替わります。

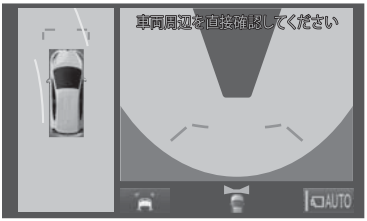
▶ 距離目安線表示モード



CTH46BM044

● 車両前端から約 1.0 m 先を示します。（青色）

▶ 予想進路線表示モード



CTH46BM045

● ハンドル操作と連動して、進路の目安を示します。（黄色）直進状態から 90 度以上ハンドル操作をした場合に表示されます。

■ 自動表示モードについて

メインスイッチの操作による表示に加え、車速に応じて自動的にパノラミックビュー＆ワイドフロントビュー、両サイドビューが表示される自動表示モードを設定することができます。

● 自動表示モードを ON にすると、次の場合に自動で表示することができます。
・シフトレバーを D または N にしたとき
・車速が約 10km/h 以下に減速したとき（シフトレバーが R 以外）

● AUTO を選択するごとに、自動表示モードの ON と OFF が切り替わります。

両サイドビュー

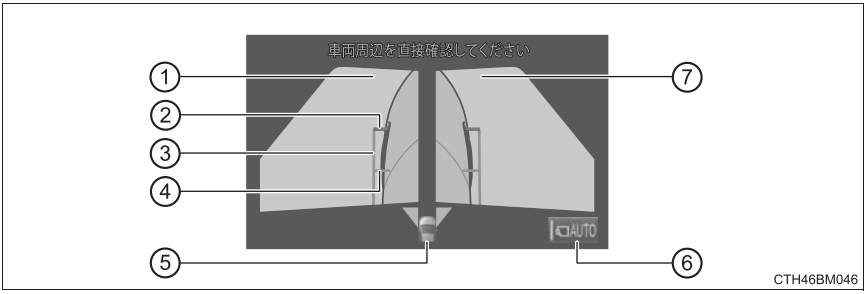
左右両サイドに設置されたカメラからの映像を表示し、車両側方の安全確認や狭小路での接触回避などの操作を補助するモードです。（以下手順は一例です。）

◆ ガイド画面を表示する

1 シフトレバーを P、D、または N に入れる

2 メインスイッチを両サイドビューが表示されるまで押す

◆ 画面の見方について



① サイドビュー（左前側方）

② 前方距離目安線

車両前端から約 0.5m 先（赤色）を示す。

③ 車幅平行線

ドアミラー分を含んだ車幅の目安（青色）を示す。

④ 前輪接地線

前タイヤの位置（青色）を示す。

⑤ 表示エリア

⑥ 自動表示モード切り替えスイッチ

自動表示モードの ON/OFF を切り替える。（→ P. 265）

・ 自動表示モードが ON のときは作動表示灯が点灯します。

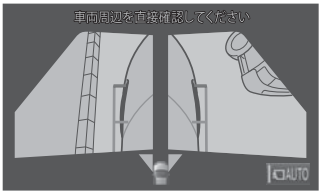
⑦ サイドビュー（右前側方）

警告

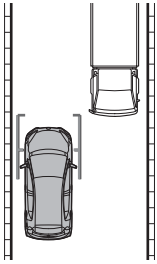
乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

◆ 車幅平行線の使い方

画面



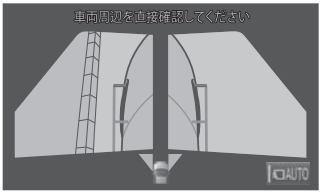
車の状況



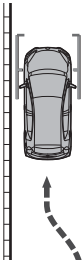
CTH46BM047

- 車幅平行線と障害物との位置関係を見ます。
- 車幅平行線が実際の障害物などに重ならないようにハンドルを操作して前進します。

画面



車の状況



CTH46BM048

- 車幅平行線と路肩の縁石などの目標物との位置関係を見ます。
- 上記のように車幅平行線が重ならないように車両を幅寄せします。
- 同時に車幅平行線と目標物が平行になるように運転操作することで、目標物に沿って駐車することができます。

パノラミックビュー&バックビュー

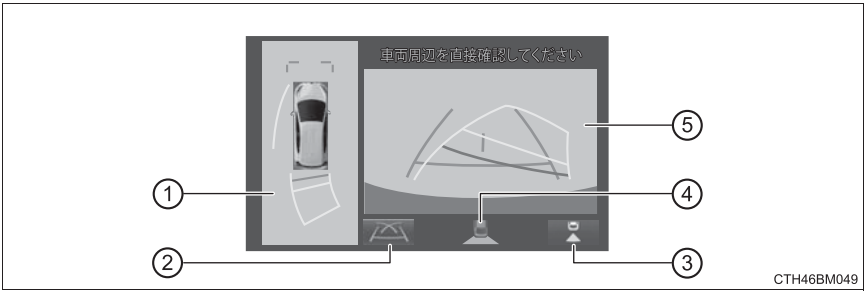
駐車時の安全確認を行うために、車両上方からの映像と後方カメラからの映像を同時に表示するモードです。表示モード切り替えスイッチを選択するとバックビューのみを表示するモードに切り替えることができます。(以下手順は一例です。)

◆ ガイド画面を表示する

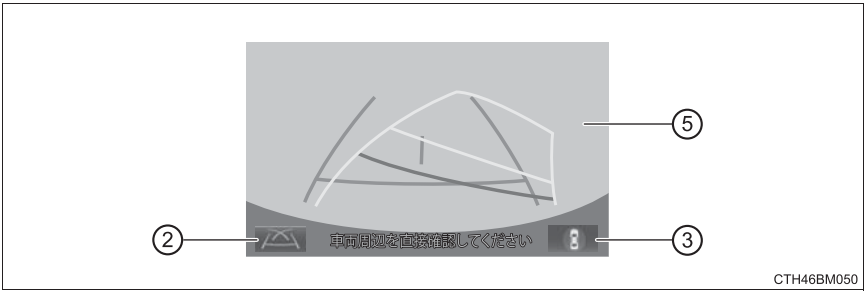
1 シフトレバーを R に入れる

パノラミックビュー&バックビューが表示されます。

▶ パノラミックビュー&バックビューモード



▶ バックビューモード



① パノラミックビュー

② ガイド線表示モード切り替えスイッチ

スイッチを押すたびにガイド線表示モードを切り替える。(→ P. 265)

③ 表示モード切り替えスイッチ

パノラミックビュー&バックビューモードとバックビューモードの間で表示モードを切り替える。

④ 表示エリア

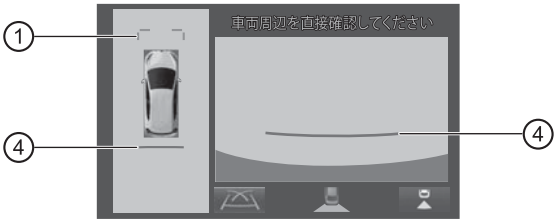
⑤ バックビュー

◆ 画面の見方について

■ 距離目安線表示モード

距離目安線のみ表示されるモードです。

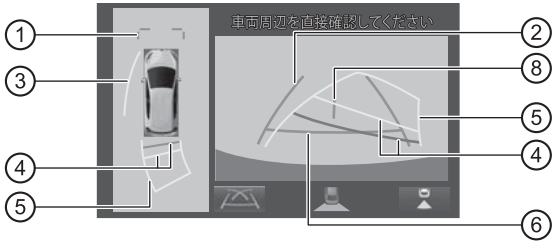
ガイドを必要としない方はご使用ください。



CTH46BM051

■ 予想進路線表示モード

ハンドル操作に連動した予想進路線などが表示されるモードです。

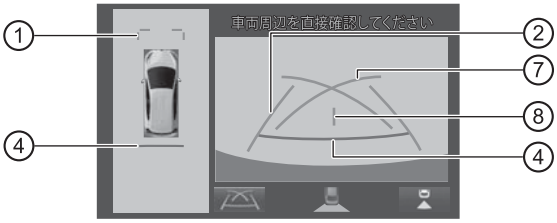


CTH46BM052

■ 駐車ガイド線表示モード

ハンドルの切り返し点（駐車ガイド線）が表示されるモードです。

車両感覚に慣れた方（進路線表示を必要とせずに駐車できる方）はご使用ください。



CTH46BM053

① 前方距離目安線

フロントバンパー前端から約 1.0 m 先（青色）を示す。

② 後方車幅延長線

車をまっすぐ後退させたときの進路の目安を示す。

・ 実際の車幅より広く表示。
・ 直進状態になっているときは、予想進路線と重なる。（予想進路線表示モード）

③ 側方予想進路線

ハンドルの角度から算出した後退予想進路（黄色）を示す。

・ ハンドルの方向に応じて、フロントに旋回方向外側の後退予想進路を表示します。

④ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。予想進路線表示モードでは、ハンドル操作と連動する。

・ 予想進路線と連動する。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）・約 1 m 先（黄色）を示す。（予想進路線表示モード）
・ バンパー後端の中心位置から約 0.5 m 先（赤色）を示す。（距離目安線表示モード / 駐車ガイド線表示モード）

⑤ 後方予想進路線

ハンドル操作と連動して、進路の目安（黄色）を示す。

⑥ 後方距離目安線

車の後方の距離を示す。

・ バンパー後端から約 0.5 m 先（青色）を示す。

⑦ 駐車ガイド線

もっとも後方へ小まわりしたときの進路の目安を示す。
・駐車時にハンドルを操作する位置の目安。

⑧ 車両中央線

車幅延長線の中心位置を示す。

警告

- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- ハンドルがまっすぐ（直進状態）で車幅延長線と予想進路線がずれているときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- 後方車幅延長線は、実際の車幅より広く表示されます。後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

バックドアが閉じていないとガイド線は表示されません。バックドアを閉じてもガイド線が表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

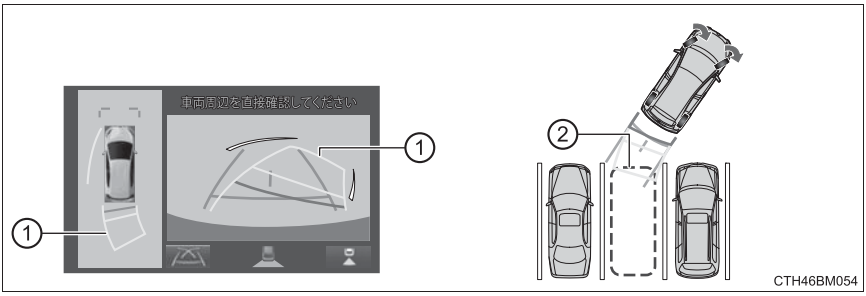
◆ 駐車する

■ 並列駐車をする（予想進路線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

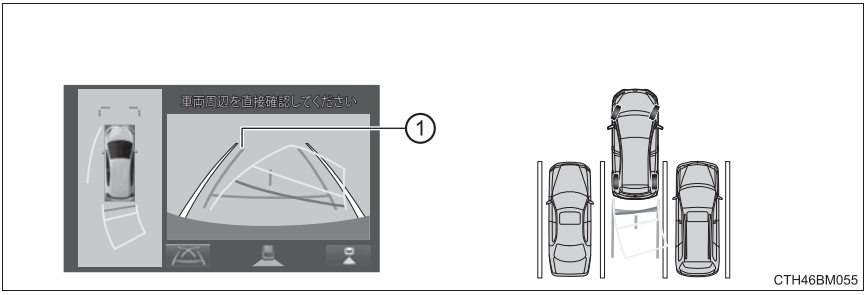
2 予想進路線が駐車スペースの中に入るようにハンドルを操作して、ゆっくり後退する



① 予想進路線

② 駐車スペース

3 車の後部が駐車スペースの中に入ったら、車幅延長線が駐車スペース左右の区画線の間に入るようにハンドルを操作する



① 車幅延長線

4 車幅延長線と駐車スペースの区画線が平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

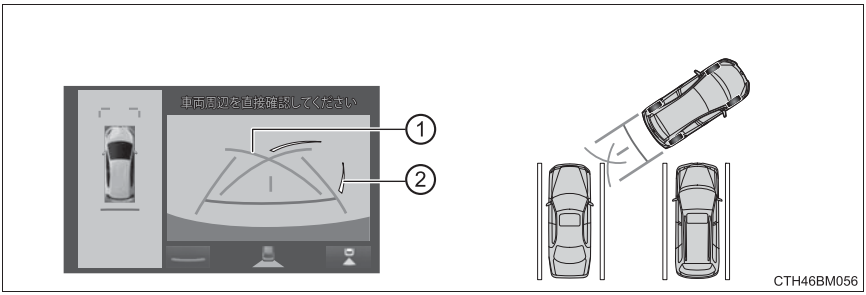
5 適切な位置で停車し、駐車を終える

■ 並列駐車をする（駐車ガイド線表示モード）

以下の手順と逆方向の駐車スペースに駐車するときは、ハンドル操作がすべて左右逆になります。

1 シフトレバーを R にする

2 駐車ガイド線が駐車スペースの左端の区画線に合うまで後退したら止まる



① 駐車ガイド線

② 駐車場の区画線

3 ハンドルを右いっぱいにまわして、ゆっくり後退する

4 車が駐車スペースと平行になったら、ハンドルをまっすぐにして、車が駐車スペースにすべて入るまで、ゆっくり後退する

5 適切な位置で停車し、駐車を終える

パノラミックビューモニターの注意点

運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認してください。お守りいただかないと、車をぶつけるなど、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

パノラミックビューモニターを使用するときは以下のことをお守りください。

警告

- パノラミックビューモニターを過信しないでください。
  一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物などに接触しないようにしてください。
- 運転操作時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
  画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て右左折、後退することは絶対にしないでください。車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意したうえで運転してください。
- 乗車人数・積載量・路面の勾配などにより、画面のガイド線の示す位置はかわります。必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。
- 以下のような状況では、使用しないでください。
  - ・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道
  - ・タイヤチェーン、応急用タイヤを使用しているとき
  - ・フロントドア・スライドドア・バックドアが完全に閉まっていないとき
  - ・坂道など平坦でない道路
  - ・タイヤをメーカー指定のものから交換しているとき
  - ・サスペンションを改造しているとき
  - ・画面に映るエリアに社外品を装着しているとき
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。
- タイヤを交換すると、画面に表示されるガイド線の示す位置に誤差が生じることがあります。

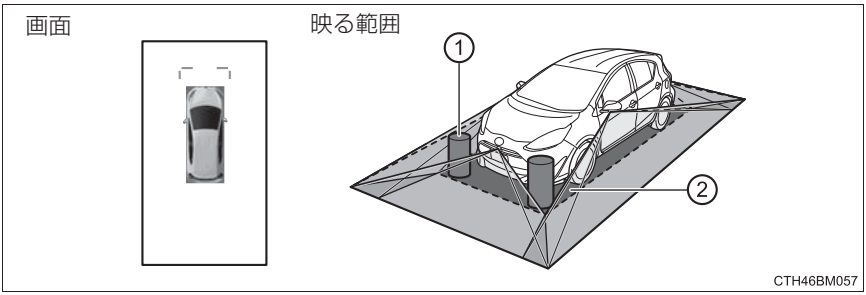
注意

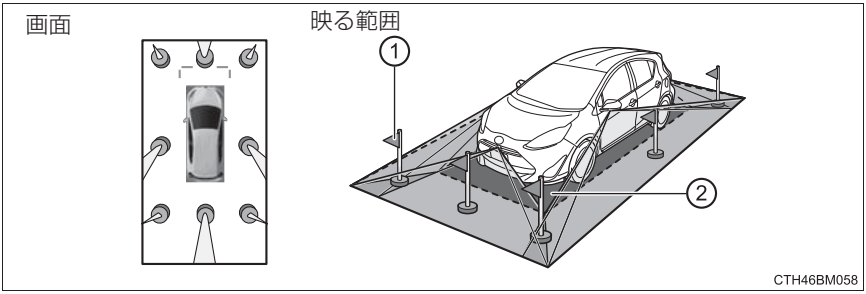
- パノラミックビューは、フロントカメラとバックカメラ、左右サイドカメラが撮影した映像を合成処理した映像です。表示可能な範囲や表示内容には限界があるため、パノラミックビューモニターの特性を十分理解したうえで使用してください。
- パノラミックビューの四隅には、それぞれのカメラ映像境界位置を中心に映像合成処理領域が存在し、映像の鮮明度が低下することがありますが、故障ではありません。
- それぞれのカメラ付近の照度条件により、パノラミックビューに明暗ができる場合があります。
- パノラミックビューでは、それぞれのカメラの取り付け位置や撮像範囲より上部は表示されません。
- 車両付近には死角があり、パノラミックビューモニターには表示されない領域があります。
- ワイドフロントビューまたはバックビュー、両サイドビューに表示されている立体物が、パノラミックビューでは表示されない場合があります。
- パノラミックビューモニターは、人物や障害物などの立体物が実際と異なって表示される場合があります。（倒れているように表示される場合や、映像合成処理領域付近で消えてしまう場合、映像合成処理領域付近から現れるように表示される場合、表示位置の距離感が実際と異なるなど）
- バックカメラが取り付けられたバックドア、サイドカメラを内蔵したドアミラーが取り付けられたフロントドアが開いている場合、パノラミックビューモニターは正しく表示されません。
- パノラミックビューに表示される車両アイコンは、コンピューターグラフィックによる画像を表示しているため、実際の車両とは色や形状、大きさなどが異なります。このため、車両付近の立体物が車両と接触しているように見える場合や、立体物との位置関係が実際の位置と異なる場合があります。

◆ 画面に映る範囲について

■ パノラミックビューの表示される領域について

車両付近には死角があり、表示されない領域があります。画面では車両の周辺に何も表示されていなくても、実際には障害物が進路上にあるため、接触することがあります。必ず周囲の安全を直接確認してください。



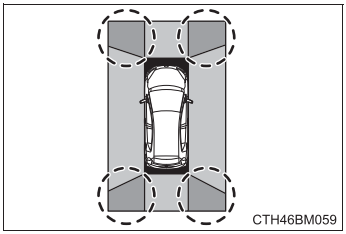


① 表示されません。

② 表示されません。（車両アイコンまわりに黒色で示されている部分）

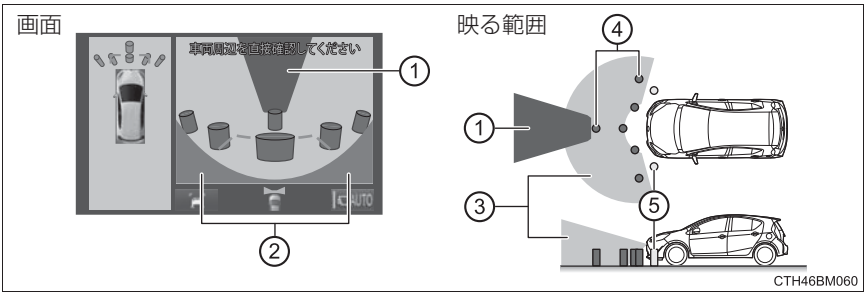
知識

- 車両アイコンまわりの黒色部分はカメラに映らない部分です。直接確認してください。
- パノラミックビューは、4 つのカメラから得られた画像を平な路面を基準に加工して表示しているため、以下のように表示されることがあります。
  - ・立体物が倒れて細長く、もしくは大きく見える。
  - ・路面より高い位置にある立体物が実際より遠くに見える、もしくは見えない。
  - ・高さのある物が合成のつぎ目から現れてくるように見える場合がある。
- 照度条件により、カメラごとの映像の明るさにばらつきが出る場合があります。
- 乗員人数、積載状況、ガソリン残量による車体の傾きや車高の変化などにより、表示映像がずれる場合があります。
- ドアが完全に閉まっていないと、表示映像・ガイド線が正しく表示されない場合があります。
- パノラミックビューに表示されている車両アイコンと、路面・障害物との位置関係は実際の位置とは異なる場合があります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。
- 図の○部分は画像を合成しているため、映像が見えにくい場合があります。



■ カメラに映る範囲について

▶ ワイドフロントビュー



① マスキング

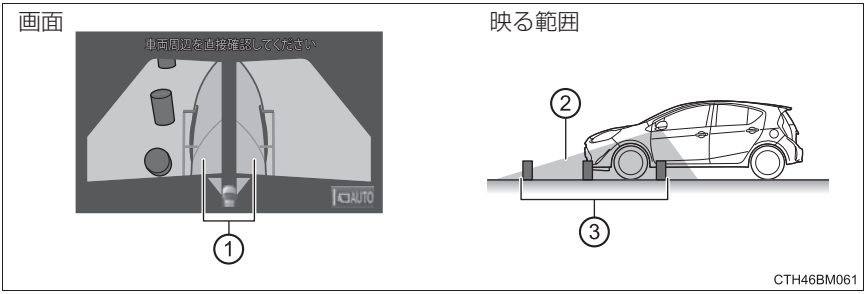
② 画面に車体の一部（バンパーやグリルなど）が映ります。

③ カメラの視野範囲

④ カメラで確認できる対象物

⑤ カメラで確認できない対象物

▶ 両サイドビュー

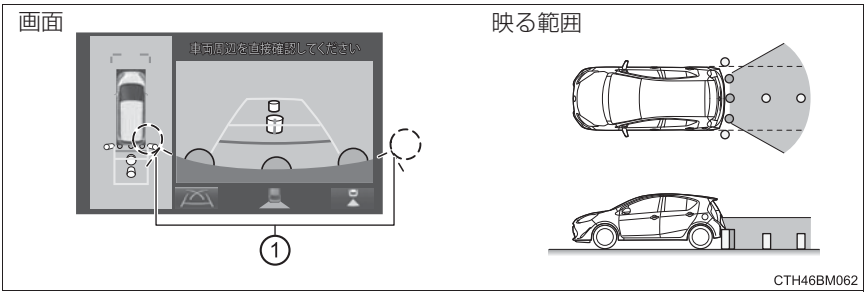


① 画面に車体の側方が映ります。

② カメラの視野範囲

③ カメラで確認できる対象物

▶ バックビュー



① バンパーの両端付近は映りません。

知識

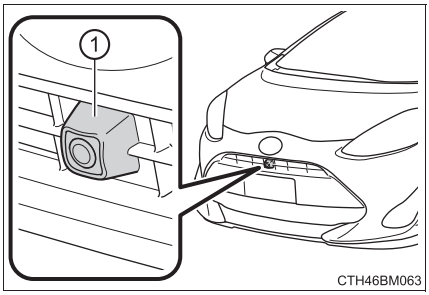
- 車両前方は距離感が異なるため、マスキングをしています。
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- カメラの映し出される範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの真下付近にある物は映し出されません。
- 画面に映る映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。
- ワイドフロントビュー・両サイドビュー・バックビューのカメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に映る映像の距離感は実際の距離とは異なります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。
- 字光式ナンバープレートを装着していると、画面上に映り込むことがあります。

◆ カメラについて

パノラミックビューモニターの各カメラは以下の位置にあります。

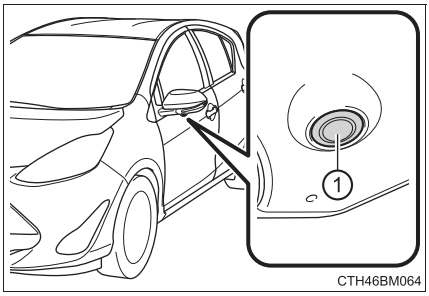
■ フロントカメラ

① フロントカメラ



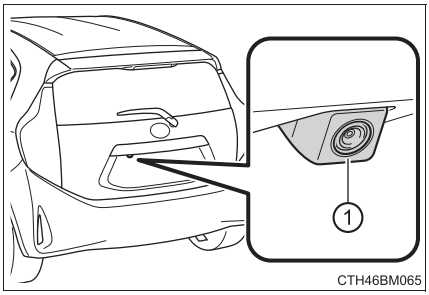
■ サイドカメラ

① サイドカメラ（左右両側）



■ バックカメラ

① バックカメラ



■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。

この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

注意

●パノラミックビューモニターが正常に作動しなくなるおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
・カメラ部は防水構造となっていますので、取りはずし・分解・改造をしないでください。
・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

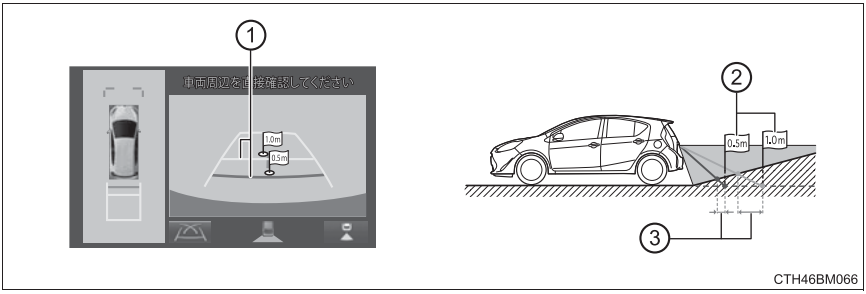
◆ 画面と実際の路面との誤差について

▶ パノラミックビュー／バックビュー

距離目安線や、パノラミックビューの合成映像・ガイド線は、平らな路面に対しての距離の目安を示しています。そのため、以下の状態のときは、画面のガイドと実際の路面上の距離・進路に誤差が生じます。

■ 急な上り坂が後方にあるとき

実際の距離より手前に距離目安線が表示されます。そのため、上り坂にある障害物は実際より遠くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



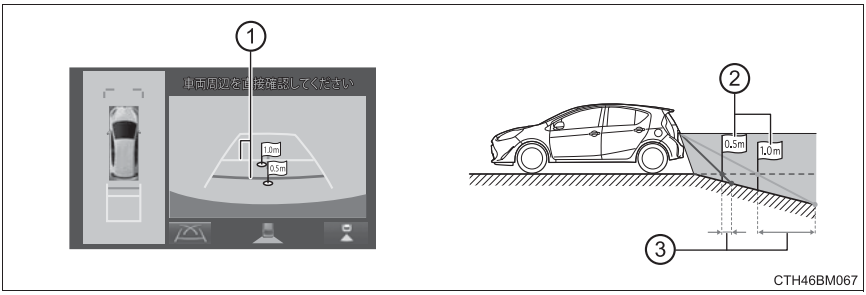
① 距離目安線

② 実際の距離

③ 誤差

■ 急な下り坂が後方にあるとき

実際の距離よりうしろに距離目安線が表示されます。そのため、下り坂にある障害物は、実際より近くに見えます。同様にガイド線と実際の路面上の進路にも誤差が生じます。



① 距離目安線

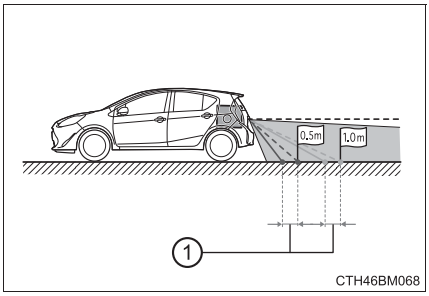
② 実際の距離

③ 誤差

■ 車が傾いているとき

乗車人数、積載量などにより車が傾いているときは、実際の距離、進路と誤差が生じます。

① 誤差

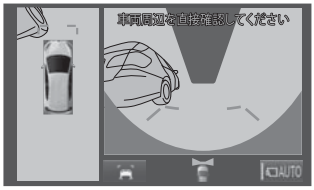


◆ 画面と実際の立体物との誤差について

路面より高い位置にある立体物（車両バンパーなど）が近くにあるときは、以下のことにご注意ください。

■ パノラミックビューの表示について

パノラミックビューは、平らな路面を基準に画像を加工して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーとの間に余裕があり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。
周囲の安全を直接確認してください。



CTH46BM069

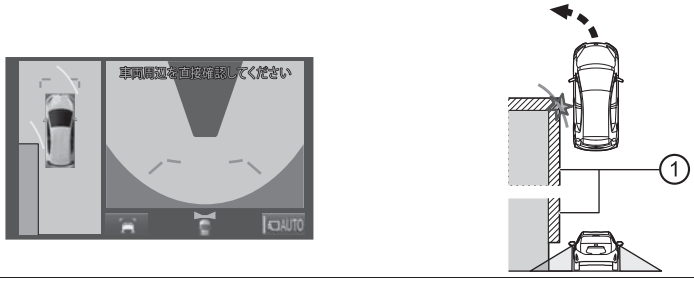
■ 予想進路線について

▶ パノラミックビュー

予想進路線は平らな路面に対して表示しているため、路面より高い位置にある立体物（車両のバンパーなど）の位置を判断することはできません。画面では車両のバンパーが予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際には車両が進路上にあるためぶつかることがあります。

① 予想進路線

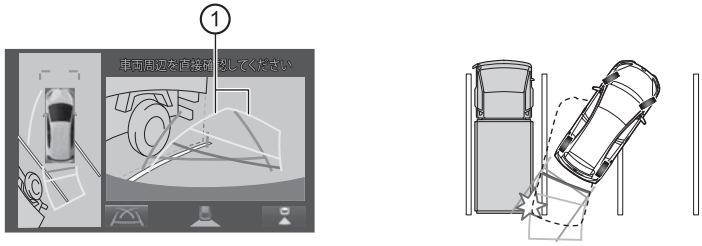
高い位置にある立体物（張り出しのある壁やトラックの荷台など）は、画面に映らない場合があります。
周囲の安全を直接確認してください。



① 壁の張り出し部分

▶ バックビュー

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物の位置を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、トラックの荷台が予想進路線の外側にあり、ぶつからないように見えても、実際は荷台が進路上に張り出しているためぶつかることがあります。

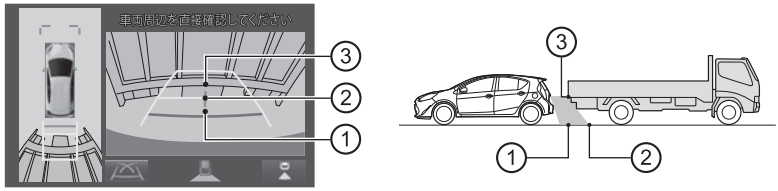


CTH46BM072

① 予想進路線

■ 距離目安線について

ガイド線は路面に対して表示されているため、立体物との距離を判断することはできません。周囲の安全を直接確認してください。画面では、距離目安線により②の位置にトラックが駐車してあるように見えますが、実際には①の位置まで後退すると、ぶつかります。画面では①・②・③の順に近く見えますが、実際の距離は①と③は同じ距離で、②は①と③より遠い距離にあります。



CTH46BM073

知っておいていただきたいこと

◆ 故障とお考えになる前に

下記のような症状で気になったりお困りになったときは、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

考えられる原因	処置
❑ 画面が見にくい	
・夜間など暗いところで使用。 ・レンズ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低いとき。 ・カメラに水滴がついた。 ・雨天時など湿度が高い。 ・カメラ付近に異物（泥など）がついた。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズに当たった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明下で使用した。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。（カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びパノラミックビューモニターをご使用ください。） パノラミックビューモニターの画質調整の方法は、ナビゲーション画面の調整と同じです。詳しくは販売店オプションのナビゲーションシステム取扱説明書を参照してください。
❑ 画面が不鮮明	
カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。
❑ 画面がずれている	
カメラ部に強い衝撃が与えられた。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ガイド線が大きくずれる	
カメラの位置がずれている。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
・車が傾いているとき（重い荷物の積載やパンクしてタイヤ空気圧が低いときなど）。 ・傾斜地で使用するとき。	車両周囲の状況を直接確認しながら、運転してください。

考えられる原因	処置
❑ ハンドルが直進状態であるにも関わらず予想進路線がまがっている（車幅延長線と予想進路線がずれる）	
ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ 車両後方のガイド線が表示されない	
バックドアが開いている。	バックドアを閉める。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。
❑ ！マークが表示される	
・バッテリーの脱着中にハンドル操作を行った。 ・バッテリー能力が低下した。 ・ステアリングセンサーを脱着した。 ・ステアリングセンサーの信号に異常が発生した。	車を止め、ハンドルを左右いっぱいにまわしてください。 直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

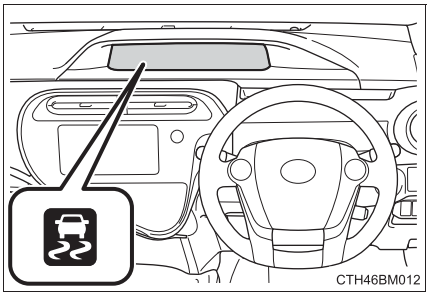
電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

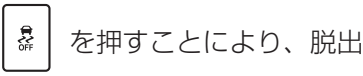
TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

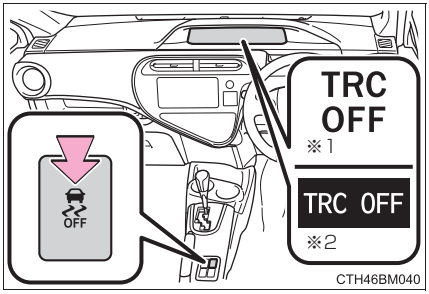


TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには を押す

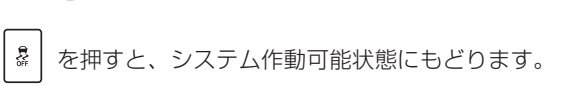


マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：

TRC OFF 表示灯 ※1 が点灯します。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」※2 と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車

知識

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に [TRC OFF] を押し 3 秒以上保持する

▶マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。※

▶マルチインフォメーションディスプレイ装着車

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」と表示されます。※

もう一度 [TRC OFF] を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティ）装着車は、PCS 警告灯が点灯し、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。
（→ P. 222）

■ [TRC OFF] を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）またはマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF」が表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示灯が消灯しない、または表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

●シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトレバーを P または N の位置にした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●ハイブリッドシステム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）

●ハイブリッドシステム停止後1～2分経過時に、エンジンルームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー” という音）

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン” という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、ハイブリッドシステムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

→ P. 403

■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワー スイッチを “LOCK”（スマートエントリー& スタートシステム非装着車）またはパワースイッチを OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

警告

■**TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■**タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 477）
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■**タイヤとサスペンションの取り扱い**

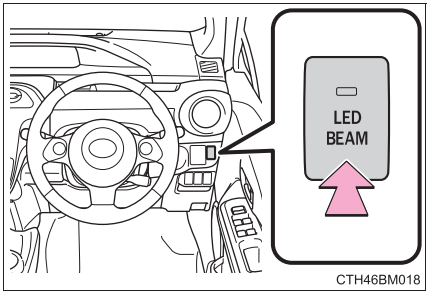
問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

LED イルミネーションビーム★

操作のしかた

ON・OFF

ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。



知識

■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステムを停止した状態でLEDイルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装着の有無があります。

ハイブリッド車運転のアドバイス

環境に配慮した経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

◆ エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。（→ P. 182）

◆ ハイブリッドシステムインジケーターの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、環境に配慮した走行が可能です。
（→ P. 97, 107）

◆ シフトレバーの操作

信号待ちや渋滞のときなどは、シフトレバーを D にしましょう。また、駐車するときは、シフトレバーを P にしましょう。シフトレバーを N にしても、燃費向上の効果はありません。N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

◆ アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

- 急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、より効果的に電気モーターを使用でき、余分なガソリン消費を抑えることができます。
- 加速のくり返しは、駆動用電池の残量を低下させ、結果、燃費が悪化するため控えましょう。走行中、アクセルペダルを少しもどすことで駆動用電池の残量を回復させることができます。

◆ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

◆ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルペダルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

◆ エアコンの ON/OFF

必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：ガソリンエンジン・車室内が暖まるまで、ガソリンエンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

◆ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

◆ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

◆ 走行前の暖機運転

ガソリンエンジンが冷えているときは、ガソリンエンジンの始動／停止を自動的に行いますので、暖機運転は必要ありません。

なお、短距離走行のくり返しは、暖機運転のためのガソリンエンジン始動がひんぱんに行われることになりますので、燃費の悪化につながります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
  - ・エンジンオイル
  - ・冷却水
  - ・ウォッシャー液
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン※（前部タイヤ用）を使用してください。

  タイヤは 4 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーン※はタイヤサイズに合ったものを使用してください。
  （タイヤについて→ P. 355）

※ 17 インチタイヤ装着車を除く

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するときは

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※1をしてください。
  輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※2を確認してください。

※1 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

※2 ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■タイヤチェーンについて

▶17インチタイヤ装着車を除く

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前2輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約0.5～1.0 km走行したら締め直しを行う

▶17インチタイヤ装着車

タイヤとボデーの隙間が狭いため、この車にはタイヤチェーンを装着できません。

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告（17 インチタイヤ装着車を除く）

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

●LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用しない

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ **タイヤチェーンの使用について（17 インチタイヤ装着車を除く）**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ **ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

室内装備・機能

5

5-1. エアコンの使い方

オートエアコン.....306
シートヒーター.....316

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 318
・インテリアランプ.....319
・パーソナルランプ.....319

5-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....321
・グローブボックス.....322
・小物入れ 323
・カップホルダー.....324
・ボトルホルダー.....325
ラゲージルーム内装備 326
・停止表示板収納スペース 326

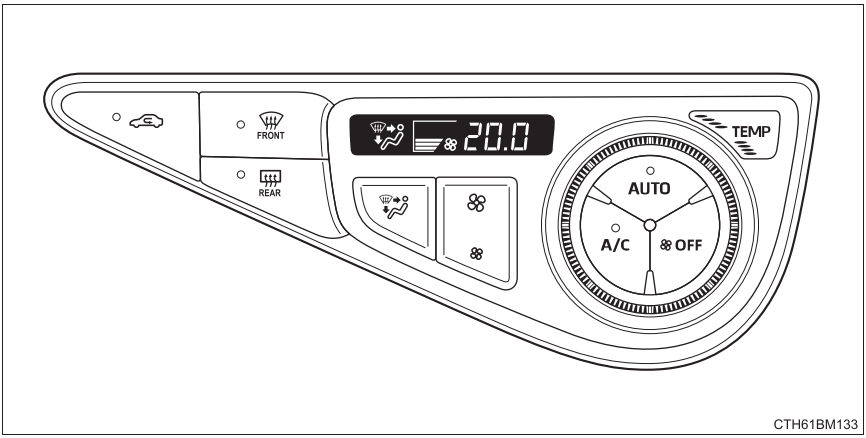
5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備.....328
・サンバイザー 328
・バニティミラー.....328
・時計.....329
・フロントアームレスト.....330
・アクセサリーソケット.....331
・ステアリングスイッチ.....332
・アシストグリップ.....333
・コートフック 334
・買い物フック 335

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作スイッチについて



■ 温度を調整する

温度を上げるときは を右へまわし、下げるときは左へまわす

が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすには： の を押す

風量を減らすには： の を押す

ファンを止めるときは を押す

■ 吹き出し口を切りかえる

を押す

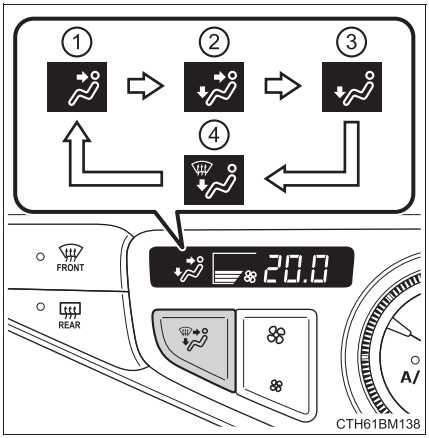
押すたびに吹き出し口が切りかわります。

① 上半身に送風

② 上半身と足元に送風

③ 足元に送風

④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る



オート設定で使用する

1 AUTO を押す

2 温度を設定する

3 A/C を押す

押すたびにエアコンの ON/OFF が切りかわります。

4 ファンをとめたいときは、OFF を押す

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します

■ フロントウインドウガラスの曇りをとるには

FRONT を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。
内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に切りかわる場合もあります）
風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度 FRONT を押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒーター

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

を押す

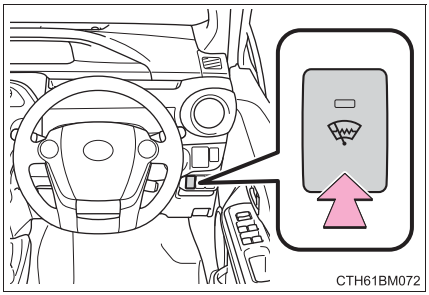
リヤウインドウデフォッガーおよびミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用ください。

を押す

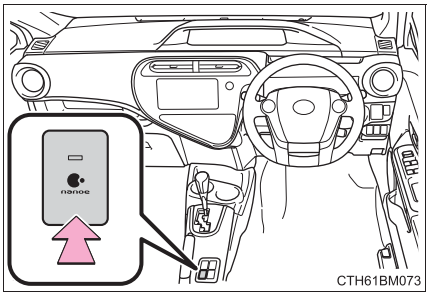
ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。



■「ナノイー」★を使うには

ON・OFF

エアコン送風時に「ナノイー」が作動し、スイッチの作動表示灯が点灯します。
(「ナノイー」について：→ P. 313)



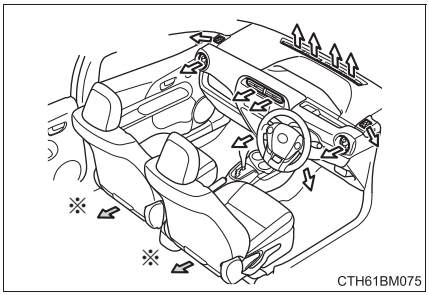
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。（→ P. 307）

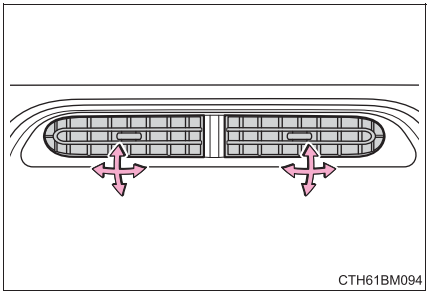
※ ⇦ ：寒冷地仕様車のみ



■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

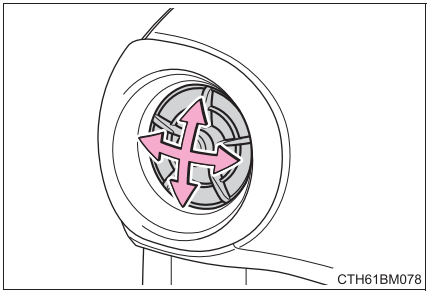
▶ 中央吹き出し口

風向きの調整



▶ 左右吹き出し口（タイプ A）

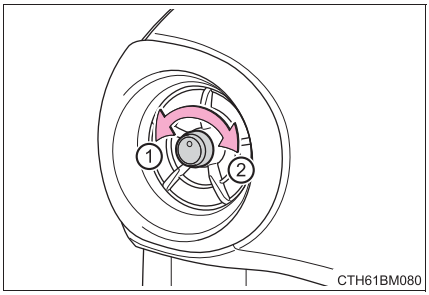
風向きの調整



吹き出し口の開閉

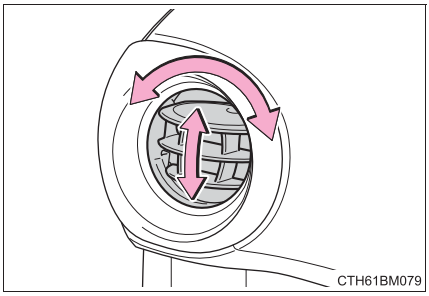
① 開ける

② 閉じる



▶ 左右吹き出し口（タイプ B）

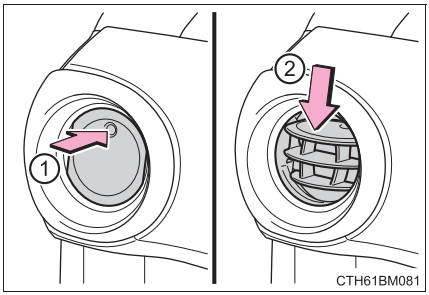
風向きの調整



吹き出し口の開閉

① 開ける

② 閉じる



知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作をおこなってください。

・風量を調整する。
・温度を調整する。
・エコドライブモードを解除する。（→ P. 182）

■オート設定の作動について

風量は設定温度と外気の状態により自動で調整されるため、 AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、 を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■「ナノイー」★※1 について

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は運転席側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします ※2。

●「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が 、 または のとき

・運転席側の吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2 温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■エアコンフィルターについて

→ P. 362

■補助ヒーター（PTC ヒーター）について★

ハイブリッドシステム始動直後からガソリンエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加え暖房を補います。

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、連動して外気導入と内気循環を切りかえるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→ P. 480）

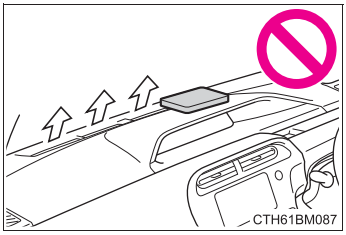
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

●外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させた場合は、 を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

●フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなることがあります。



■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター／ウインドシールドデアイサー★作動中の警告

●ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

●フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー」★について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店に問い合わせください。

注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

ハイブリッドシステム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■「ナノイー」★の損傷を防ぐために

運転席の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター★

フロントシートを暖めることができます。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたがシートヒーターに触れないようにご注意ください。
  - ・乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
  - ・皮膚の弱いかた
  - ・疲労の激しいかた
  - ・深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- 異常加熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
  - ・長時間連続使用しないでください。
  - ・毛布・クッションなどを使用しないでください。

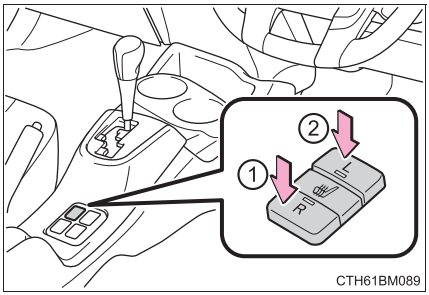
注意

- シートヒーターの損傷を防ぐため、凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。
- 補機バッテリーあがりを防ぐため、ハイブリッドシステムが停止した状態で使用しないでください。

① 運転席側シートヒータースイッチ

② 助手席側シートヒータースイッチ

インジケーターが点灯します。もう一度ボタンを押すと OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

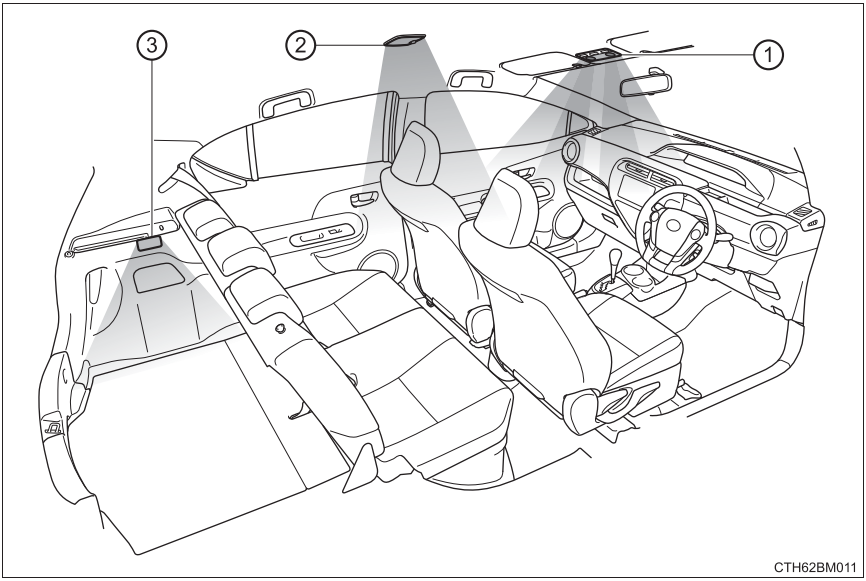
■作動条件

パワースイッチが ON モードのとき

■使用しないときは

スイッチを切ってください。インジケーターが消灯します。

室内灯一覧



① フロントインテリア／パーソナルランプ （→ P. 319）

② リヤインテリアランプ （→ P. 319）

③ ラゲージルームランプ （→ P. 126）

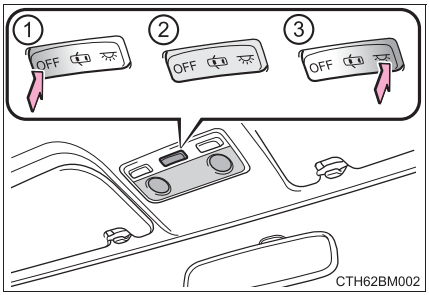
インテリアランプ

▶ フロント

① ランプを消灯する

② ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

③ ランプを点灯する

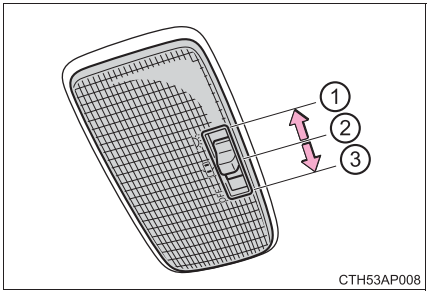


▶ リヤ

① ランプを点灯する

② ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

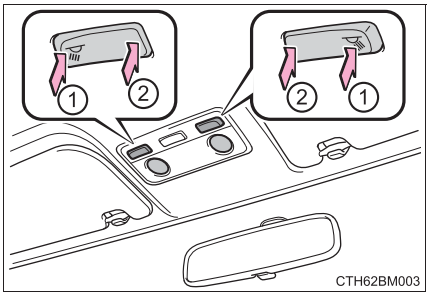
③ ランプを消灯する



パーソナルランプ

① ランプを点灯する

② ランプを消灯する



知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

インテリアランプスイッチがドアポジションのとき、ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチの位置により、インテリアランプが自動的に点灯・消灯します。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

インテリアランプスイッチがドアポジションのとき、電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、インテリアランプが自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “LOCK” の状態で、インテリアランプ、パーソナルランプまたはラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチが OFF の状態で、インテリアランプ、パーソナルランプまたはラゲージルームランプが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■カスタマイズ機能

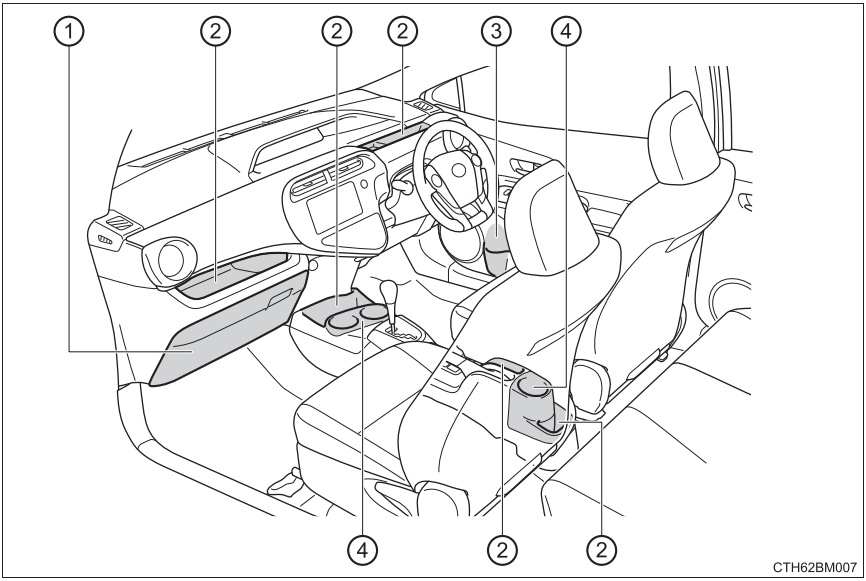
室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→ P. 480）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で、ランプを長時間使用しないでください。

収納装備一覧



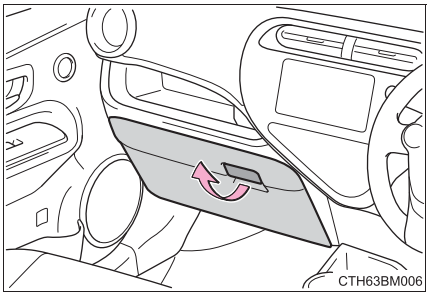
① グローブボックス（→ P. 322）
② 小物入れ（→ P. 323）
③ ボトルホルダー（→ P. 325）
④ カップホルダー（→ P. 324）

警告

- メガネ･ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
  放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
  - ・室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
  - ・室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
  急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

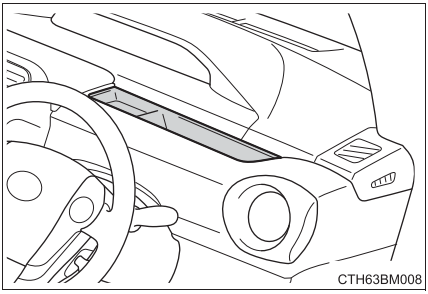
グローブボックス

レバーを引き上げて開く

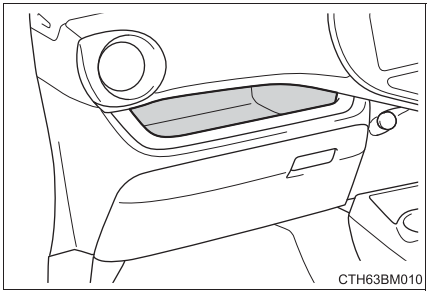


小物入れ

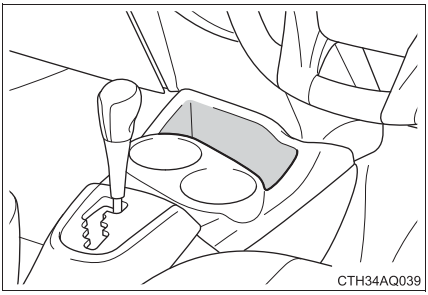
▶ メーターサイドボックス



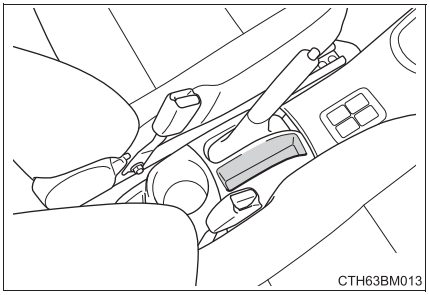
▶ 助手席オープントレイ



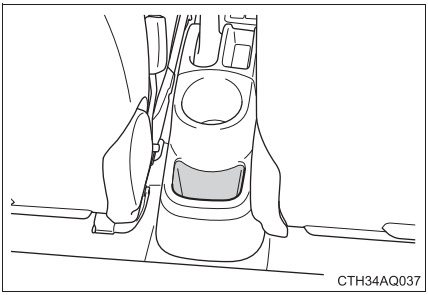
▶ フロントコンソールトレイ



▶ センターコンソールトレイ



▶ リヤコンソールトレイ

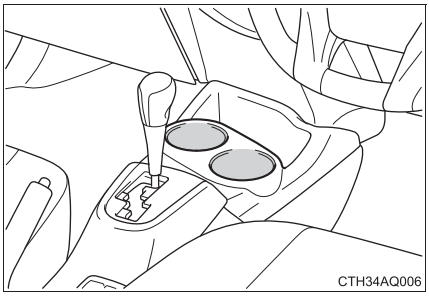


⚠ 警告

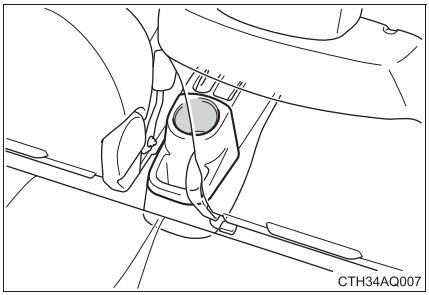
小物入れに転がりやすいものやふち面より高さがあるものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

■ フロント



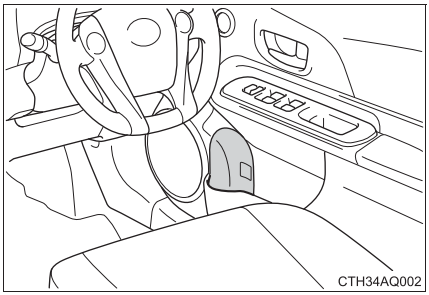
■ リヤ



警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
  急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダーに温かい飲み物を置くときはフタを閉めてください。

ボトルホルダー



知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

警告

ボトルホルダーにはペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

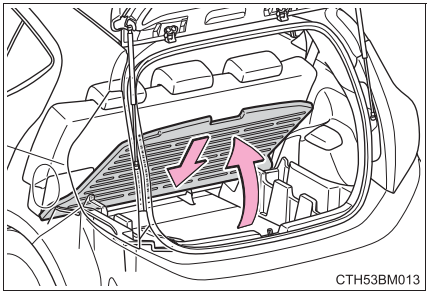
注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

ラゲージルーム内装備

デッキボード★

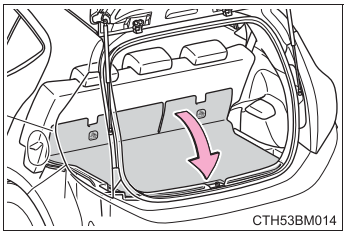
ラゲージ下の収納を使用する場合は、デッキボードを持ち上げて奥の溝に差し込むことで立て掛けることが出来ます。


CTH53BM013

知識

■テザーアンカレッジを使用するときは

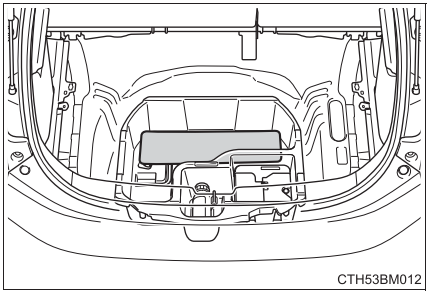
テザーベルト固定作業時 (→ P. 66) はデッキボードを元の位置に戻してください。


CTH53BM014

停止表示板収納スペース（タイヤパンク応急修理キット装着車）

フロアボードの下に停止表示板を収納することができます。

大きさ、形によっては収納できない場合があります。


CTH53BM012

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**デッキボード★を操作するとき**

荷物を載せた状態で操作しないでください。
指をはさんだり、思わぬ事故につながるけがをするおそれがあります。

注意

デッキボード★を立てた状態での走行・放置はしないでください。

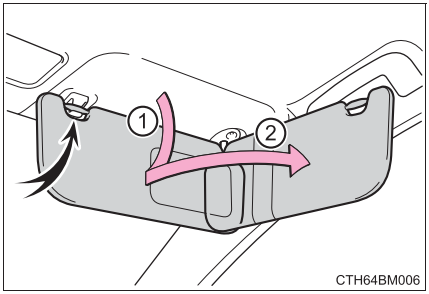
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

その他の室内装備

サンバイザー

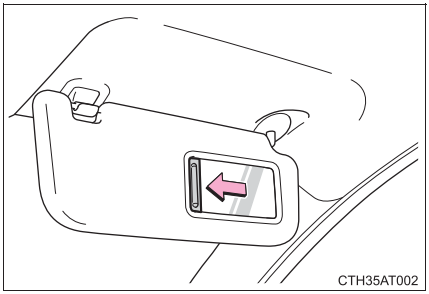
① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす



バニティミラー★

カバーをスライドして開ける



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

時計

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

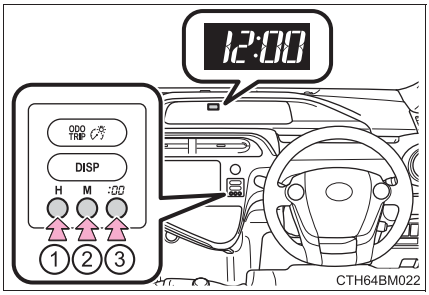
ボタンを押して時刻を調整することができます。

① “時” を調整する

② “分” を調整する

③ “分” を 00 にする ※

※（例） 1:00 ～ 1:29 → 1:00
1:30 ～ 1:59 → 2:00



▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

→ P. 105

知識

■ **時刻が表示されるとき**

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ON” のとき

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

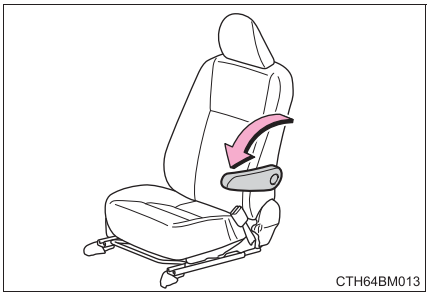
パワースイッチが ON モードのとき

■ **補機バッテリー端子の脱着をしたとき**

補機バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

フロントアームレスト★

手前に倒して使用します。



注意

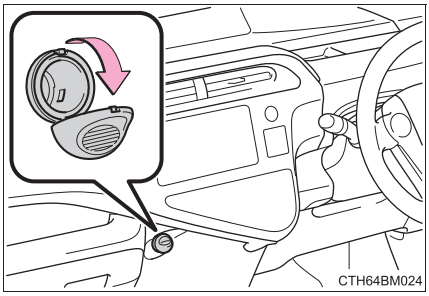
アームレストの破損を防ぐために過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アクセサリーソケット

DC12 V/10 A（消費電力 120 W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



知識

■使用条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

パワースイッチが “ACC” または “ON” のとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車

パワースイッチがアクセサリーモードまたは ON モードのとき

■ハイブリッドシステムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、ハイブリッドシステムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

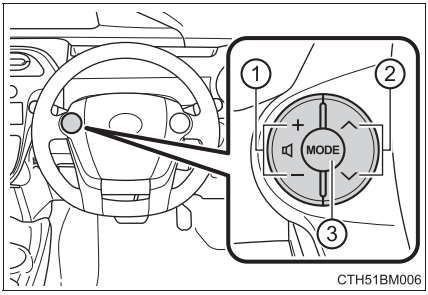
- 異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。
- 補機バッテリーあがりを防止するために、ハイブリッドシステムが停止した状態で、アクセサリーソケットを使用しないでください。

ステアリングスイッチ★

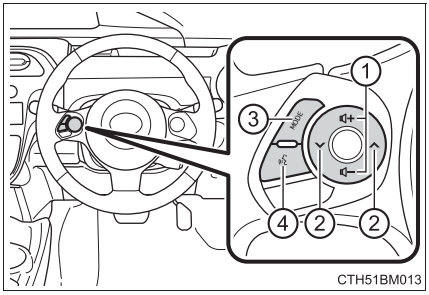
この車のステアリングスイッチに対応している販売店装着オプションのオーディオ・ナビゲーションシステムで使用することができます。

装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。

▶ タイプ A



▶ タイプ B



① 音量調整スイッチ

音量を調整する

② TUNE/TRACK スイッチ

CD、ラジオなどの操作

③ MODE（モード切りかえ）スイッチ

電源を入れる、モードの切りかえ

④ トークスイッチ

音声認識モードの操作

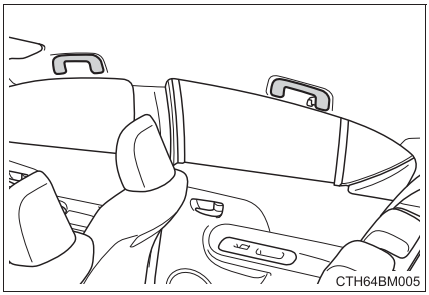
警告

事故を防ぐために、運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アシストグリップ★

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

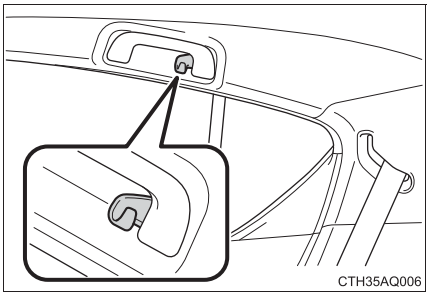
アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

コートフック★



警告

SRS カーテンシールドエアバッグ装着車：ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

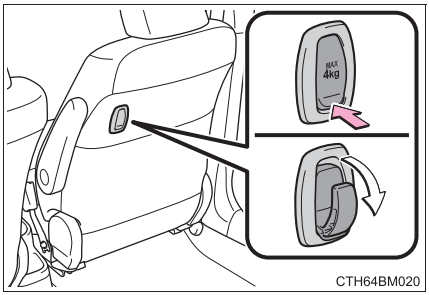
注意

破損を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

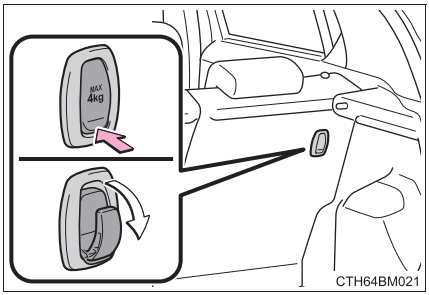
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

買い物フック★

▶ 運転席シートバック買い物フック



▶ 後席シートバック買い物フック



警告

■買い物フックを使用しないときは

必ずもとの位置にもどしておいてください。

注意

■買い物フックの破損を防ぐために

4 kg 以上のものをフックに吊り下げないでください。
フックが折れたり、走行中にはずれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた
外装の手入れ.....338
内装の手入れ.....343
6-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 350
ガレージジャッキ.....353
ウォッシャー液の補充.....354
タイヤについて.....355
タイヤ空気圧について 360
エアコンフィルターの
交換 362
キーの電池交換.....364
ヒューズの点検、交換 367
電球（バルブ）の交換 370

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水を拭き取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください。）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（電子キーの盗難に注意してください）

■アルミホイール★

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。

・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキキャリパーの塗装について（17 インチタイヤ装着車）

●洗剤を使用する場合は中性洗剤を使用してください。 研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●ブレーキキャリパーが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティング★について

撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。

●フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす

●汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する

●コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない

●金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約 5% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**フロントウインドウガラスを清掃するときは（Toyota Safety Sense 装着車）**

フロントウインドウガラスの前方センサー取り付け部について：→ P. 209

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

⚠注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

●次のような場合は、ただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙･油煙･粉じん･鉄粉･化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ノズルの先端を下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

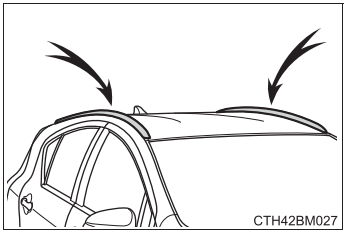
●モール、バンパーなどの樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

■ルーフモールについて（ルーフモール設定車）

ルーフモールに手をかけて車両に登ったり、車両をゆするなどをしないでください。ルーフモールが外れたり、車内に水が入るおそれがあります。



内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

  ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

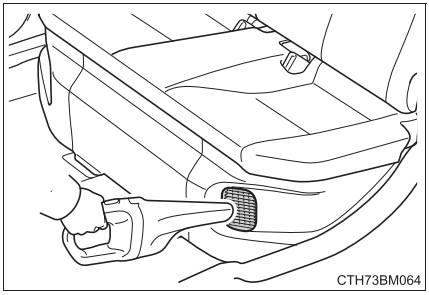
駆動用電池冷却用吸入口の手入れ

吸入口は、目づまりしないように定期的に清掃してください。

■ 吸入口の清掃のしかた

掃除機などで、ほこりや砂などを取り除く

吸入口にはフィルターが取り付けられています。



▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

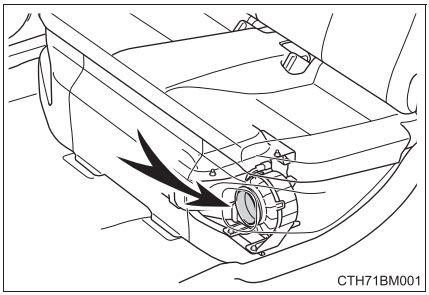
メンテナンス・点検警告灯が点灯したときは、フィルターが目づまりしていることが考えられます。フィルターを清掃してください。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

「駆動用電池の 冷却部品の メンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたときは、フィルターが目づまりしていることが考えられます。フィルターを清掃してください。

■ 冷却用吸入口フィルターの清掃のしかた

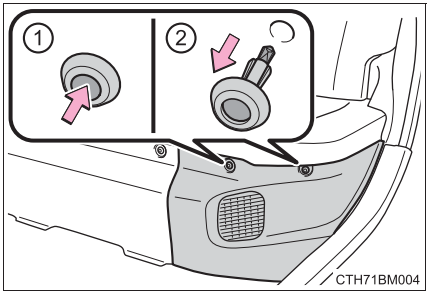
フィルターはリヤシート下（左側）部にあります。



1 クリップをはずす

① クリップ中央部分を押し入れる

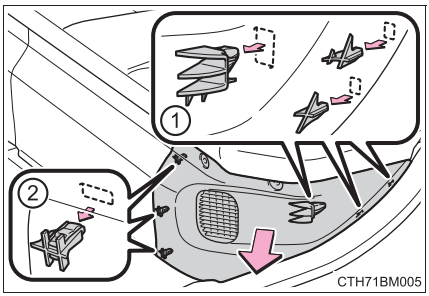
② クリップを引き抜く



2 カバー内部のガイドとクリップのかん合をはずし、カバーを取りはずす

① ガイド

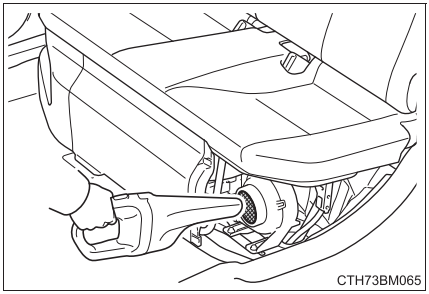
② クリップ



3 掃除機などでほこりや砂などを取り除く

吸入口も掃除機などで清掃してください。

フィルターが破損しているときは、トヨタ販売店で交換してください。

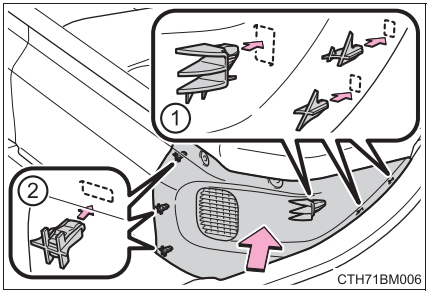


4 カバーを取り付ける

① ガイド

② クリップ

カバーがうまく取り付けられないときは、カバー内部のガイドとクリップがきちんとかん合しているか確認してください。

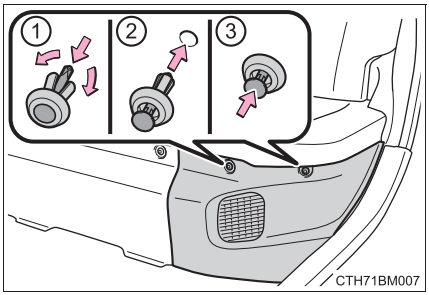


5 クリップを取り付ける

① クリップ中央部分を押し出す

② クリップを挿し込む

③ クリップ中央部分を押し入れる



▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

6 ハイブリッドシステムを始動し、メンテナンス・点検警告灯が消灯していることを確認する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

6 ハイブリッドシステムを始動し、「駆動用電池の 冷却部品の メンテナンス必要 取扱書を確認」の表示が消灯していることを確認する

消灯するまでには、ハイブリッドシステム始動後 20 分ほどかかる場合があります。フィルターを清掃しても消灯しないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、拭き取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラス★について

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

■駆動用電池冷却用吸入口の手入れについて

- 吸入口が目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池が過熱したり、燃費の悪化につながります。
- 吸入口の清掃時期は、使用環境などにより異なります。

■冷却用吸入口のフィルターの清掃について

- ご自身でのフィルターの清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。誤った取り扱いをすると、カバーまたはフィルターが破損するおそれがあります。
- フィルターが目づまりした状態で走行しつづけると、駆動用電池が過熱するなどして、燃費の悪化につながったり、故障の原因になります。
- フィルターの清掃時期は、使用環境などにより異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■メンテナンス・点検警告灯が点灯したとき（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）

●たまったほこりなどによる吸入口／フィルターの目づまりが考えられます。清掃のしかたを参考に、吸入口の清掃を行ってください。

●警告灯が点灯した状態で走行を続けると、駆動用電池が過熱するなどして電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費の悪化につながったり、故障の原因になったりします。吸入口／フィルターにほこりなどがたまらないよう、定期的に吸入口の清掃をしてください。

●吸入口を清掃しても警告灯が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■「駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認」が表示されたとき（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

●たまったほこりなどによる吸入口／フィルターの目づまりが考えられます。清掃のしかたを参考に、吸入口の清掃を行ってください。

●メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池が過熱するなどして電気モーターでの走行距離が短くなり、燃費の悪化につながったり、故障の原因になったりします。吸入口／フィルターにほこりなどがたまらないよう、定期的に吸入口の清掃をしてください。

●吸入口を清掃してもメッセージが消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■車両への水の浸入

●床・ラゲージルーム内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください（→ P. 73）。駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→ P. 36）
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■駆動用電池冷却用吸入口およびフィルターの手入れをするときは

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●リヤシート下（左側）のカバーを取りはずすときは、必ずパワースイッチを OFF にしてハイブリッドシステムを停止してください。

⚠注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次の警告をお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラス★を清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

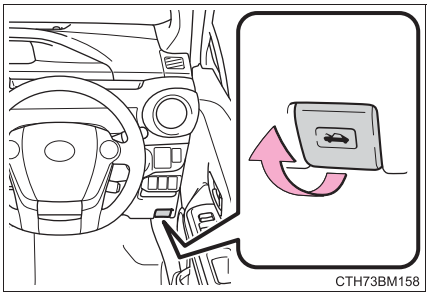
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ボンネット

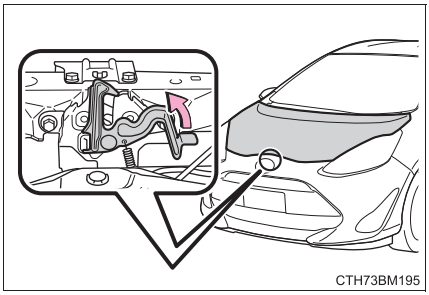
車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

1 ボンネット解除レバーを引く

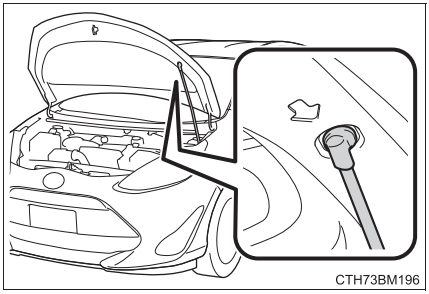
ボンネットが少し浮きあがります。



2 レバーを引きあげて、ボンネットを開ける



3 ボンネットステーをステー穴に挿し込む

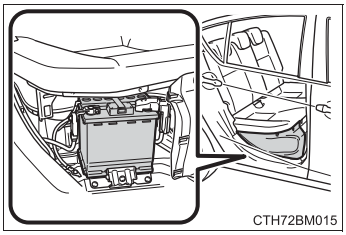


知識

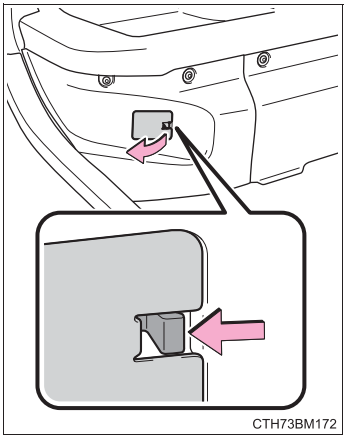
■補機バッテリーについて

●この車両の補機バッテリーはリヤシート下（右側）のカバー内にあり、エンジンルームには搭載されていません。

●補機バッテリーがあがってしまったときは、エンジンルーム内にある救援用端子を使用して、処置を行います。
（→ P. 455）


CTH72BM015

●リヤシート下（右側）のカバーをはずして補機バッテリーを点検することができます。
補機バッテリーの点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。


CTH73BM172

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

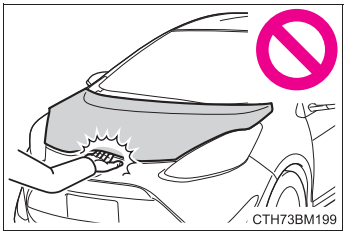
整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ボンネットを閉めるときは

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



■補機バッテリーの取り扱いについて

→ P. 455

注意

■ボンネットへの損傷を防ぐために

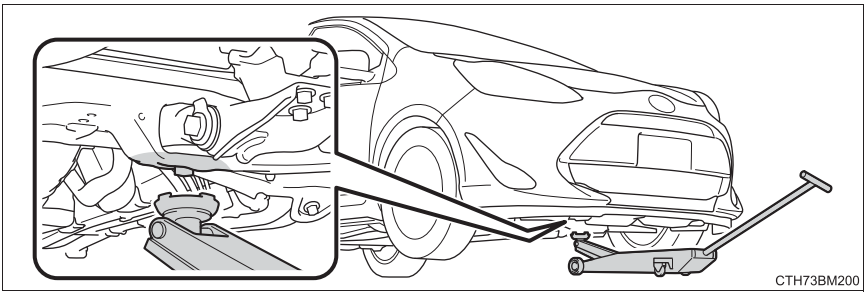
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

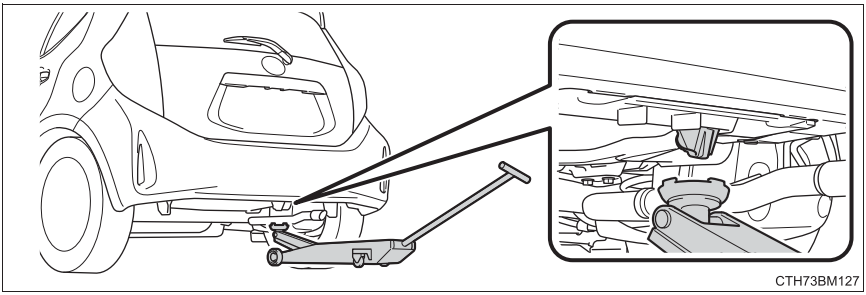
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ちあげるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

◆ フロント側



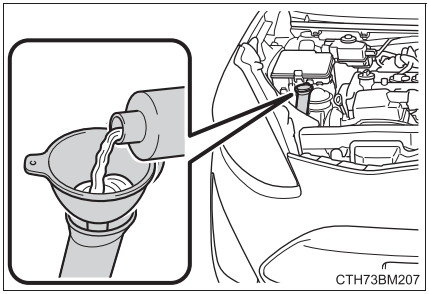
◆ リヤ側



ウォッシャー液の補充

補充のしかた

ウォッシャー液が不足しているときは、ウォッシャー液を補給する



警告

■**ウォッシャー液を補充するとき**

ハイブリッドシステムが熱いときやハイブリッドシステム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、ハイブリッドシステムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■**ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

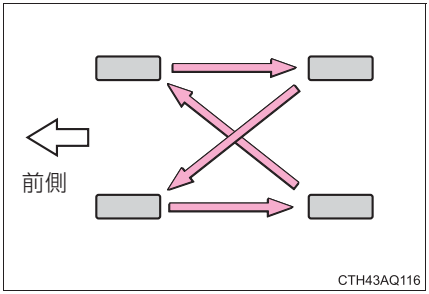
- タイヤ空気圧

  空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

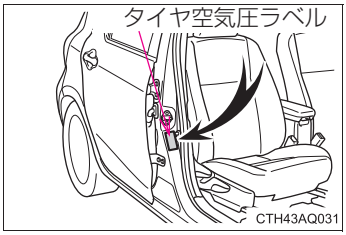
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。



知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



▶標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
185/60R15 84H	15 × 5 1/2J	タイプ A※：270（2.7） タイプ B※：240（2.4） タイプ C※：230（2.3）	
185/60R16 86H	16 × 6J	230 (2.3)	
195/50R16 84V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
195/45R17 81W	17 × 6 1/2J	230（2.3）	

※ タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルをご確認ください。

▶スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

警告

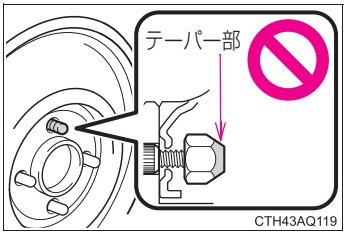
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。
  テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
  またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
  オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。低偏平タイヤの場合、2週間に 1 回、または長距離ドライブの前には必ず空気圧を点検してください。（→ P. 477）

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■**タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■**タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

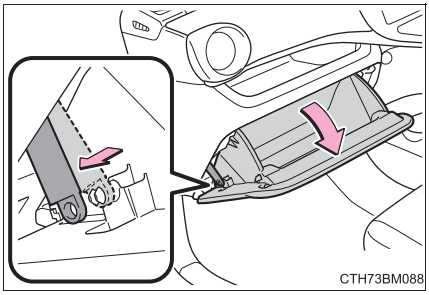
▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 パワースイッチを “LOCK” にする

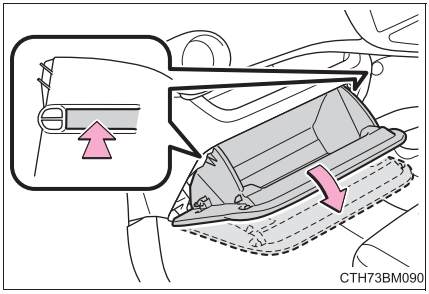
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

1 パワースイッチを OFF にする

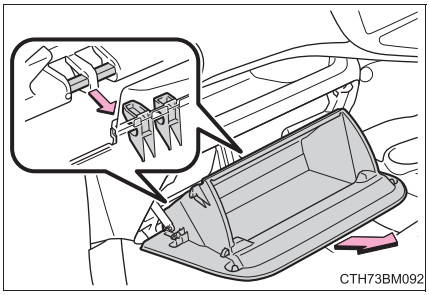
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす



3 グローブボックス側面を片側ずつ内側に押して上部のツメをはずす



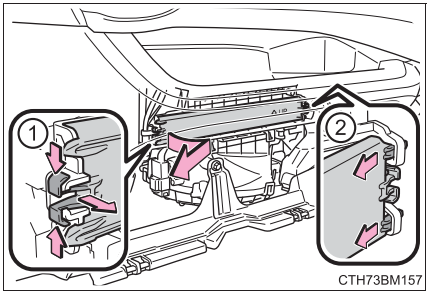
4 グローブボックス下部のツメをはずして取りはずす



5 フィルターカバーを取りはずす

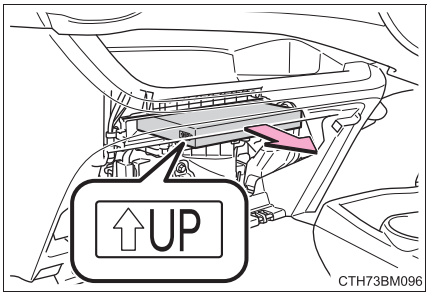
① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く



6 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



7 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：20,000 km [10,000 km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
  水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

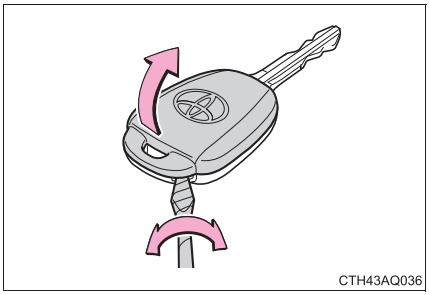
- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）
  - ・CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

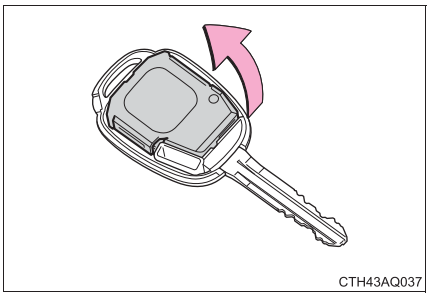
1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

ボタン側を下向きにしてカバーをはずしてください。上向きにするとボタンがはずれるおそれがあります。

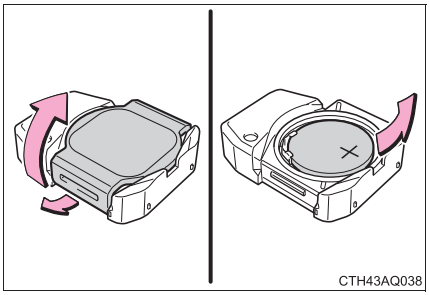

CTH43AQ036

2 モジュールを取り出す


CTH43AQ037

3 モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

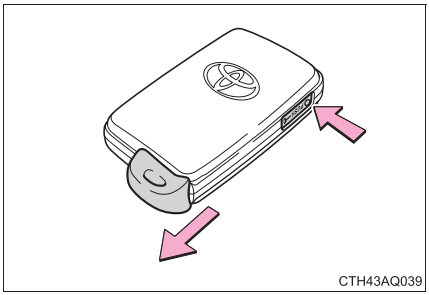
新しい電池は ＋ 極を上にして取り付けます。


CTH43AQ038

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

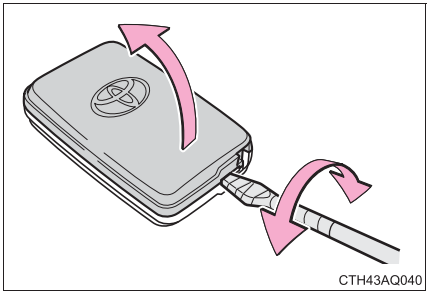
電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

1 メカニカルキーを抜く


CTH43AQ039

2 カバーをはずす

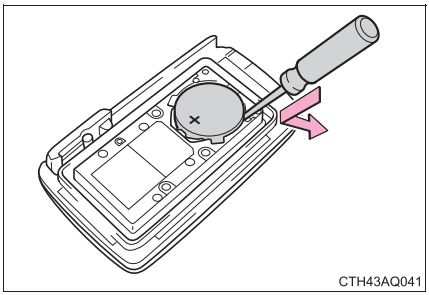
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。


CTH43AQ040

3 小さいマイナスドライバーを使い消耗した電池を取り出す

カバーをはずしたときに、はずしたカバーに電子キーモジュールが貼りつき、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子キーモジュールを引っくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。


CTH43AQ041

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■リチウム電池　CR2016（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、CR1632（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム（装着車のみ）やワイヤレスリモコンが作動しない

●作動距離が短くなる

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

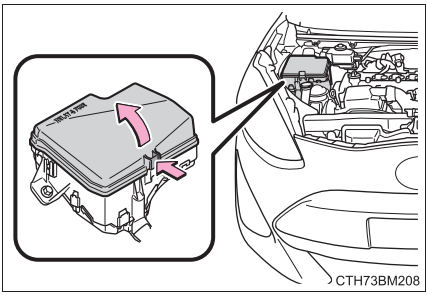
1 パワースイッチを “LOCK” にする

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

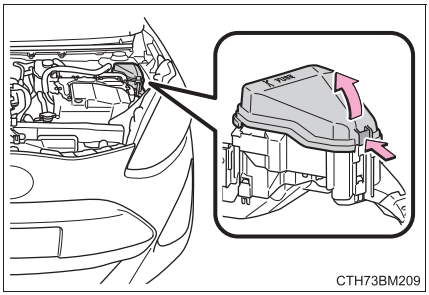
1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



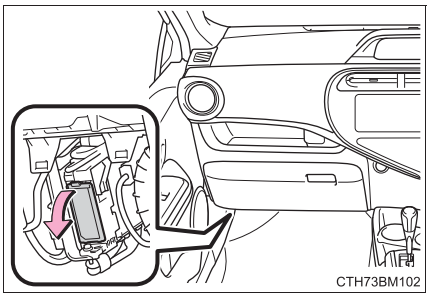
▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



ツメを押しながら、カバーを持ちあげる

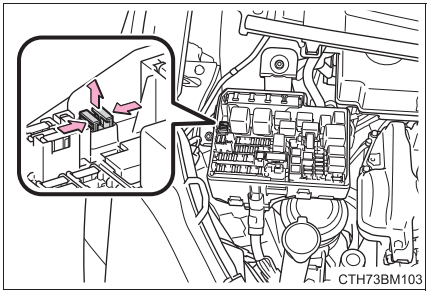
▶ 助手席足元

カバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。

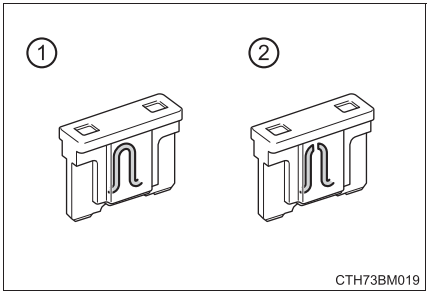


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→ P. 370）

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

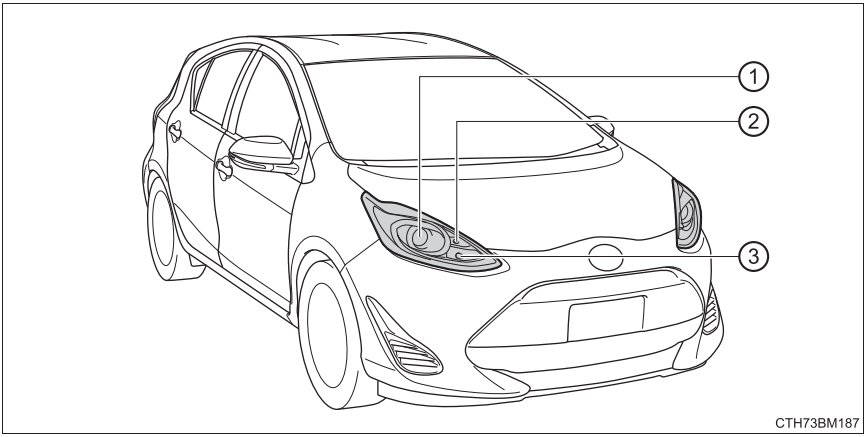
電球の用意

切れた電球のW（ワット）数を確認してください。（→P. 478）

バルブ位置

■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

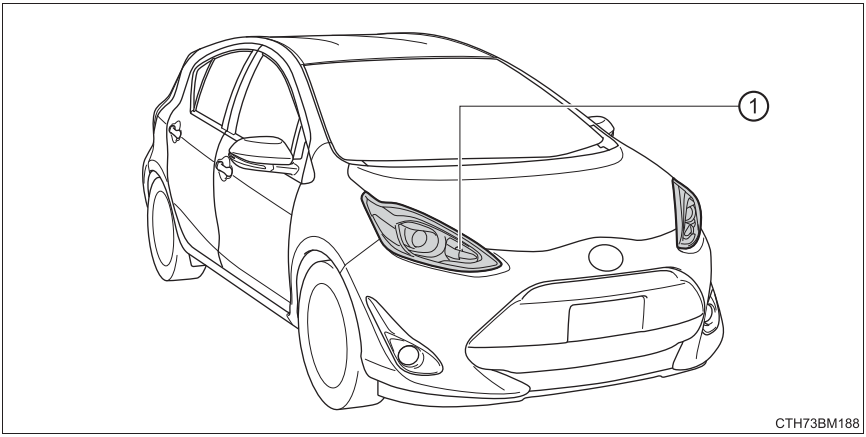


① ヘッドランプ

② 車幅灯

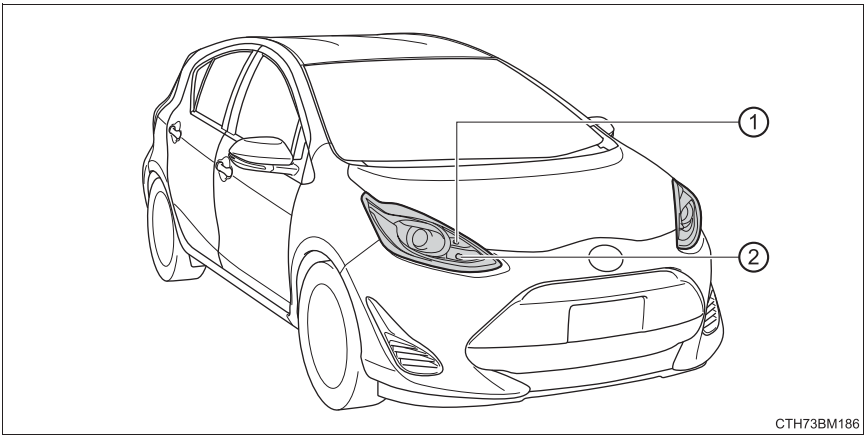
③ フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ LED ヘッドランプ装着車（車幅灯：LED タイプ）



① フロント方向指示灯／非常点滅灯

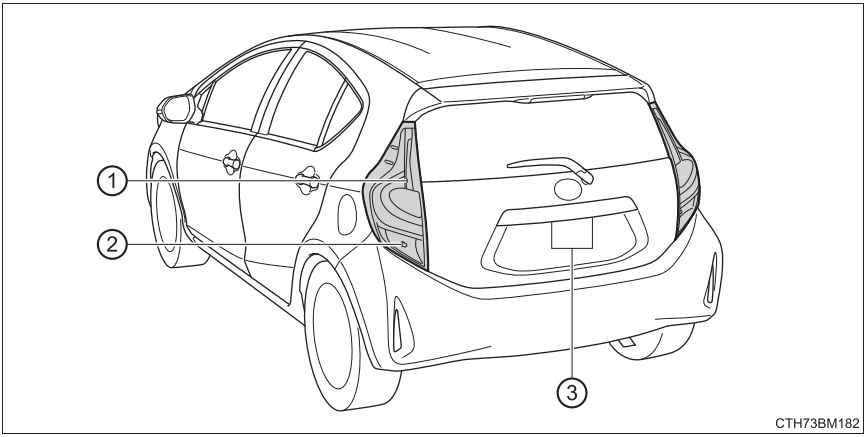
▶ LED ヘッドランプ装着車（車幅灯：ハロゲン タイプ）



① 車幅灯

② フロント方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ



① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

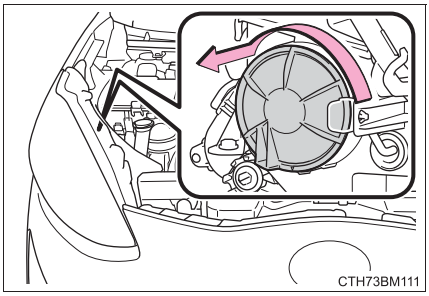
② 後退灯

③ 番号灯

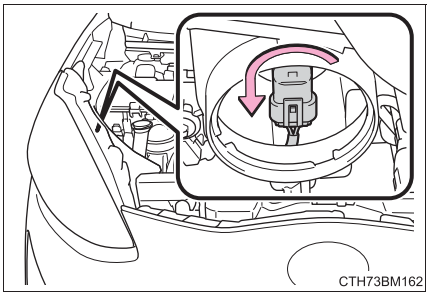
電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）

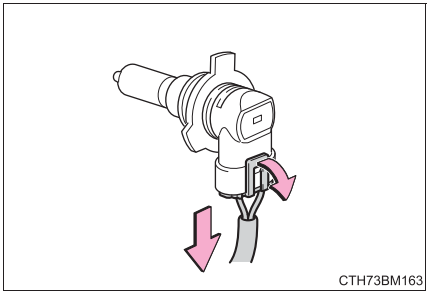
1 カバーをはずす



2 ソケットを取りはずす

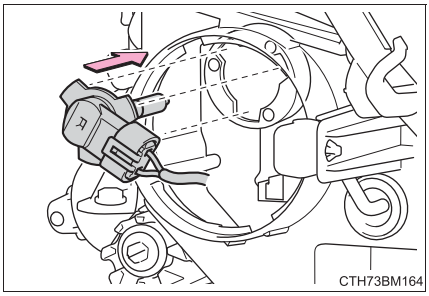


3 電球を取りはずす



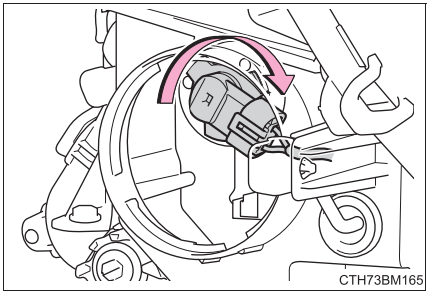
4 電球を交換し、ソケットを取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3か所）を合わせて挿し込みます。

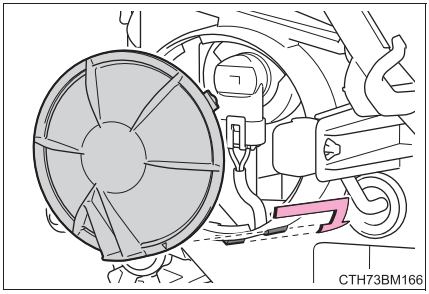


5 ソケットをまわして固定する

ソケットを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったんヘッドランプを点灯させ、ソケットの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

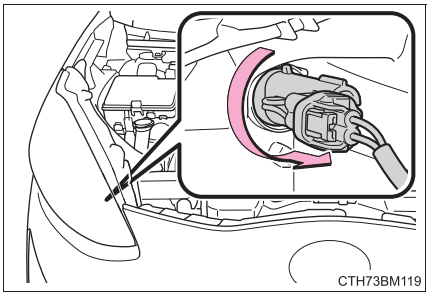


6 カバーを取り付ける

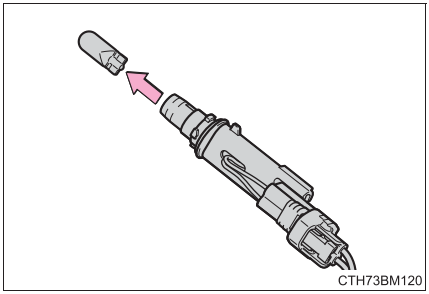


■ 車幅灯

1 ソケットを取りはずす



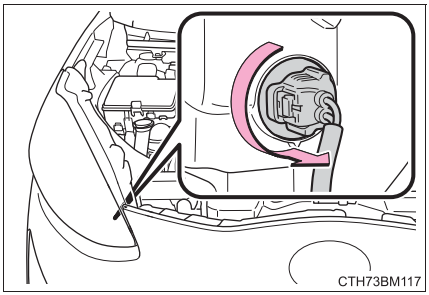
2 電球を取りはずす



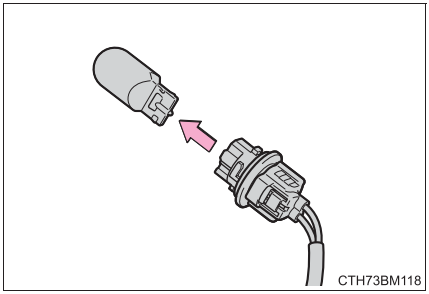
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ソケットを取りはずす



2 電球を取りはずす



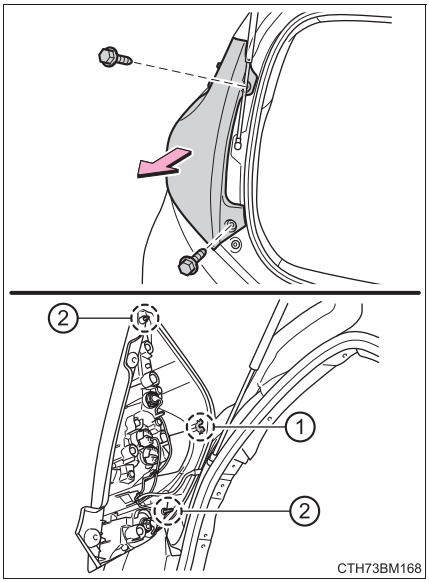
3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯・後退灯

1 バックドアを開け、ボルト（2本）をはずし、ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合をはずす

① ガイド（車体側のクリップを受ける箇所）

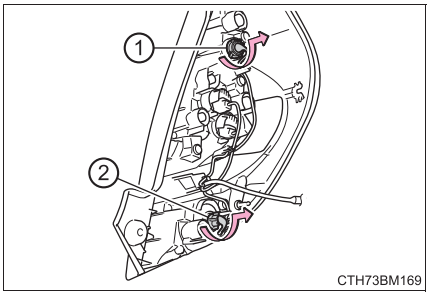
② ピン



2 ソケットを取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

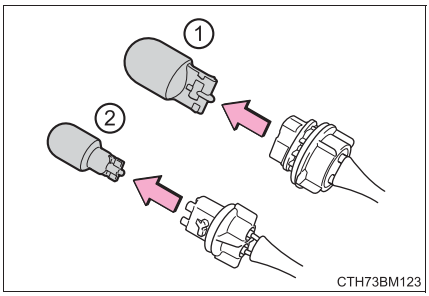
② 後退灯



3 電球を取りはずす

① リヤ方向指示灯／非常点滅灯

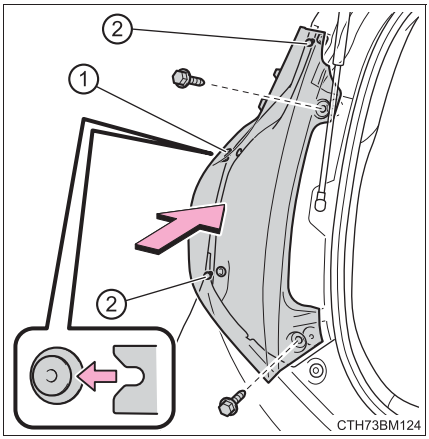
② 後退灯



4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

5 ランプ本体を取り付け、ボルト（2 本）を取り付ける

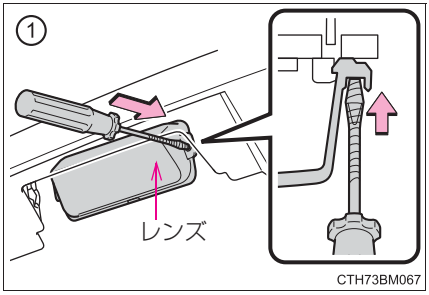
外側のガイド①とクリップを合わせてからピン②を合わせて取り付けてください。



■ 番号灯

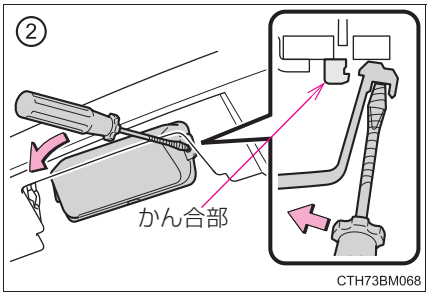
1 レンズを取り外す

① 小さいマイナスドライバーなどを左右どちらかのレンズの穴に挿し込む

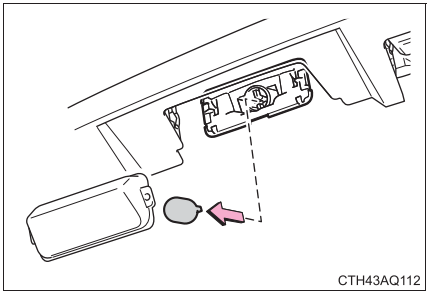


② 小さいマイナスドライバーなどを図の矢印の方向に傾け、レンズのかん合をはずしてレンズを取りはずす

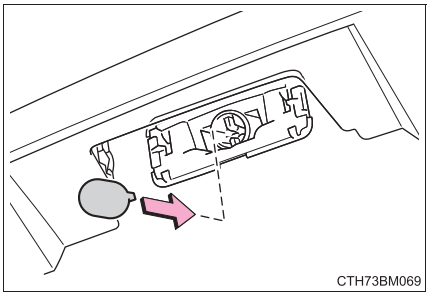
傷が付くのを防ぐために、小さいマイナスドライバーなどの先端に、テープなどを巻いて保護してください。



2 電球を取りはずす



3 新しい電球を取り付ける

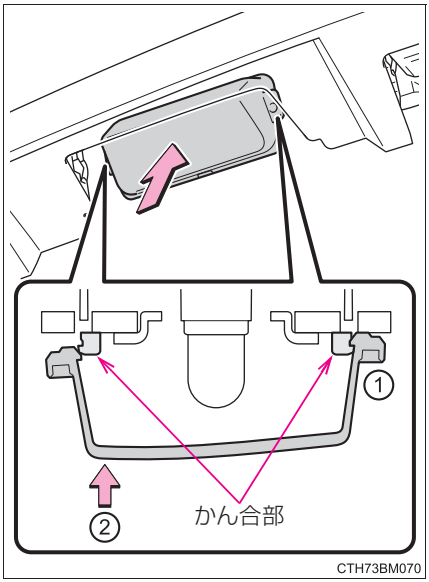


4 レンズを取り付ける

① レンズを左右どちらかのかん合部に引っかける

② レンズを押し込む

レンズを取り付けたあとは、レンズを軽く引っ張って、正しく取り付けられていることを確認してください。



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ（LED ヘッドランプ装着車）
- LED イルミネーションビーム★
- 尾灯
- 制動灯
- 車幅灯（LED タイプ装着車）
- リヤフォグランプ★
- ハイマウントストップランプ

知識

■LED ランプについて

ヘッドランプ（LED ヘッドランプ装着車）・フロントフォグランプ（LED ヘッドランプ装着車）・サイド方向指示灯／非常点滅灯・尾灯・制動灯・車幅灯（LED タイプ装着車）・リヤフォグランプ★・LED イルミネーションビーム★・ハイマウントストップランプは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■**電球を交換するときは**

●必ずハイブリッドシステムを停止し、ランプを消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■**お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には 7

7-1. まず初めに

故障したときは.....384
非常点滅灯
（ハザードランプ）.....385
発炎筒.....386
車両を緊急停止するには.....388
水没したときは.....390

7-2. 緊急時の対処法

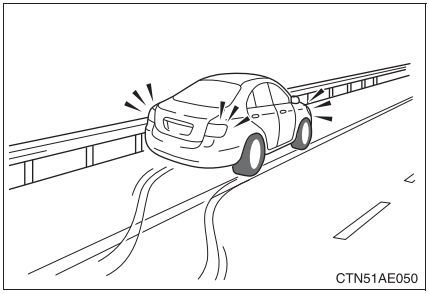
けん引について.....391
警告灯がついたときは.....398
警告メッセージが
表示されたときは.....405
パンクしたときは
（タイヤパンク応急修理
キット装着車）.....424
パンクしたときは
（応急用タイヤ装着車）.....439
ハイブリッドシステムが
始動できないときは.....450
電子キーが正常に
働かないときは.....452
補機バッテリーが
あがったときは.....455
オーバーヒート
したときは.....463
スタックしたときは.....469

故障したときは

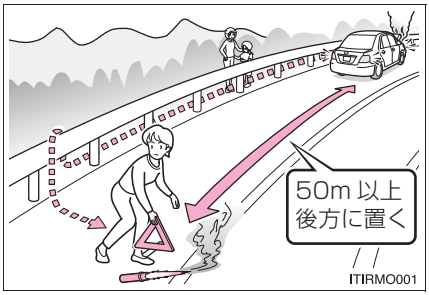
故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

非常点滅灯（→ P. 385）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

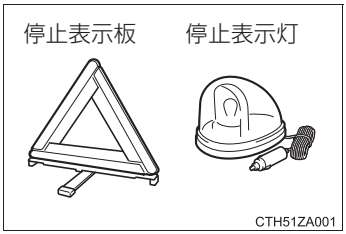


- 同乗者を避難させる
- 車両の 50 m 以上後方に発炎筒（→ P. 386）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
  - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
  - ・発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

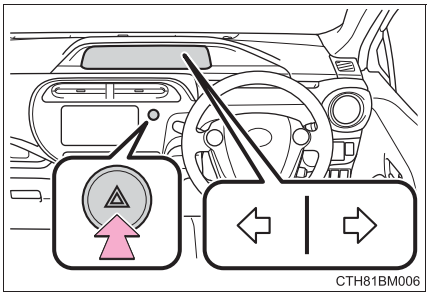


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。もう一度押すと消灯します。



知識

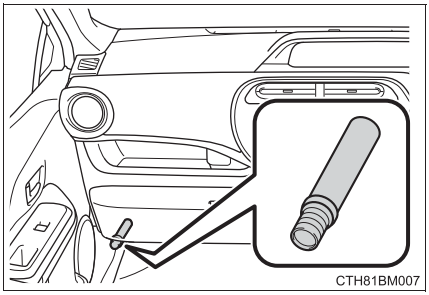
■非常点滅灯について

ハイブリッドシステム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

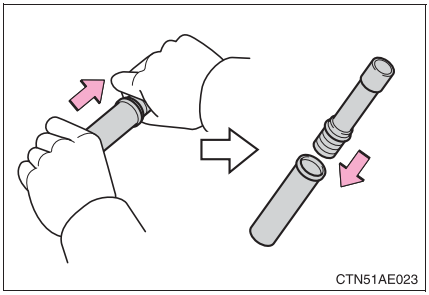
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

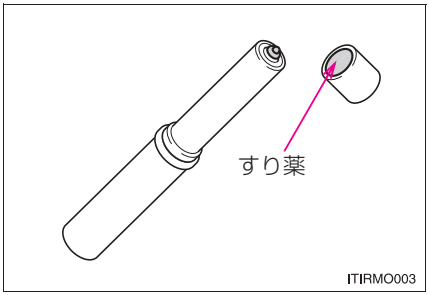


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

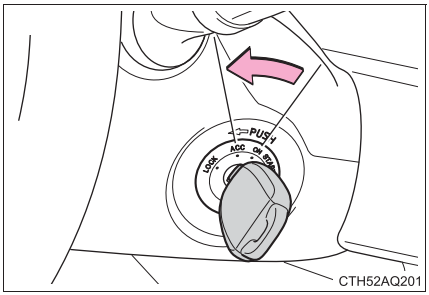
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 ハイブリッドシステムを停止する

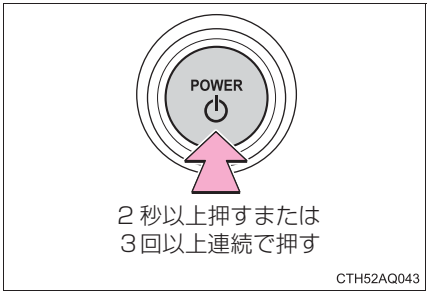
▶ シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：パワースイッチを “ACC” にして、ハイブリッドシステムを停止する



4 スマートエントリー＆スタートシステム装着車：パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してハイブリッドシステムを停止する



5 車を安全な道路脇に停める

警告

■**走行中にやむを得ずハイブリッドシステムを停止するときは**

●ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。ハイブリッドシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

●スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

警告

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

■窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

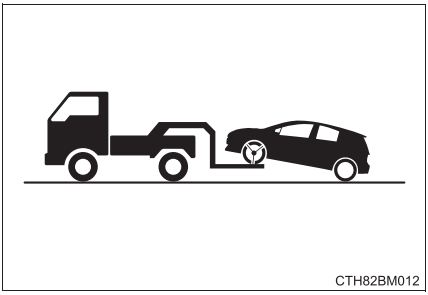
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- ハイブリッドシステム異常警告灯が点灯（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）またはハイブリッドシステムの異常を示す警告メッセージが表示（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）され、車が動かない
- 異常な音がする

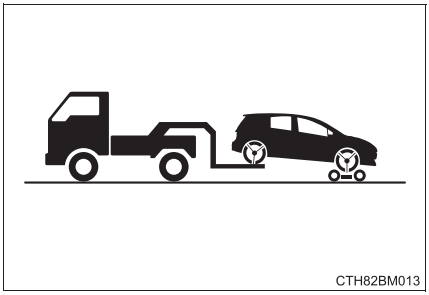
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

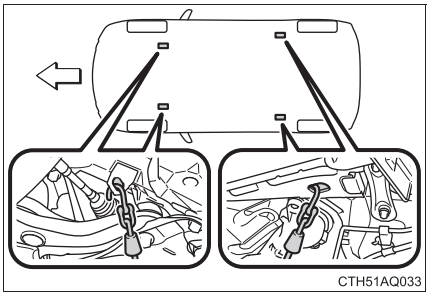
▶ うしろ向きにけん引するときは



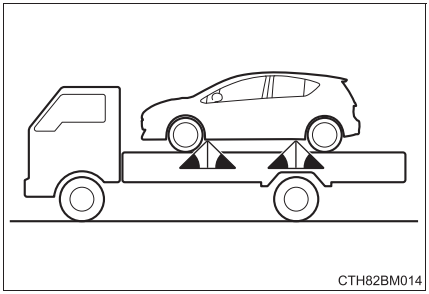
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45°　になるように固縛する



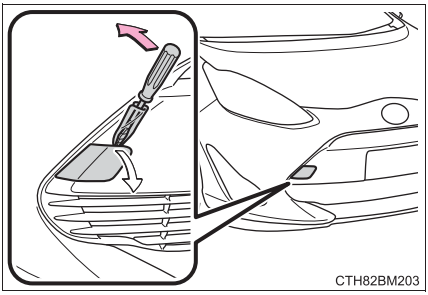
他車にけん引してもらうとき

1 けん引フックを取り出す (→P. 426, 440)

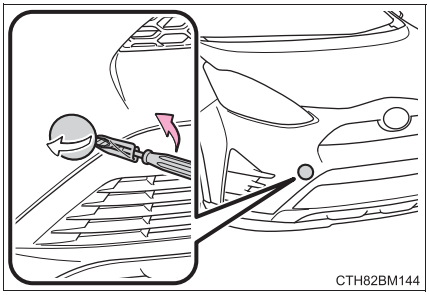
2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

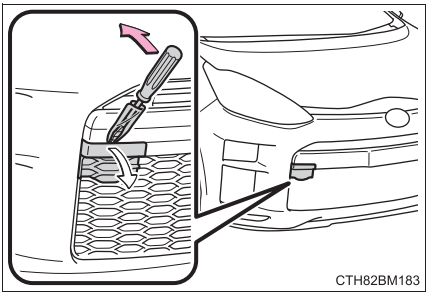
▶ タイプ A



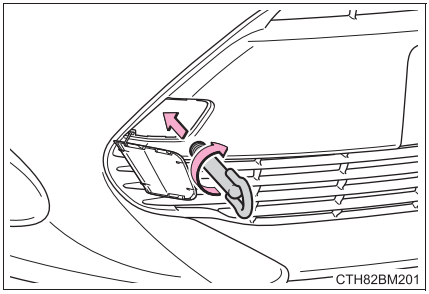
▶ タイプ B



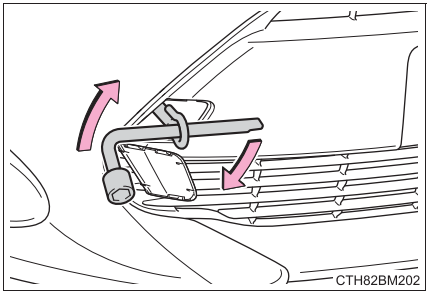
▶ タイプ C



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

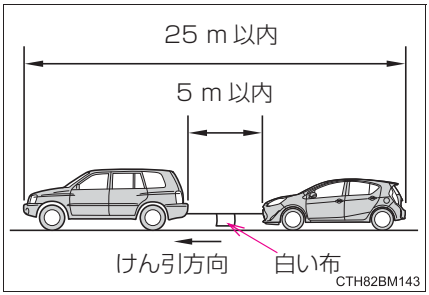


5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3 m 平方（30 cm×30 cm）以上



7 スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを “ON” にしてください。

スマートエントリー＆スタートシステム装着車：運転者はけん引される車両に乗り、ハイブリッドシステムを始動する

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ON モードにしてください。

8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 183

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

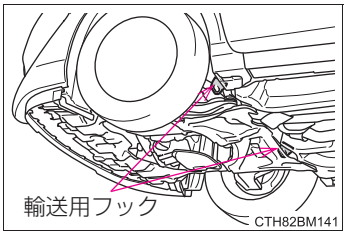
ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。（→ P. 426, 440）

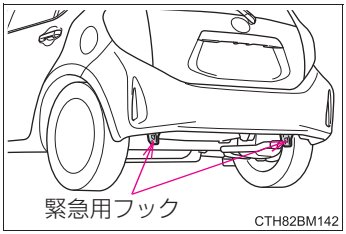
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはできません。



■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

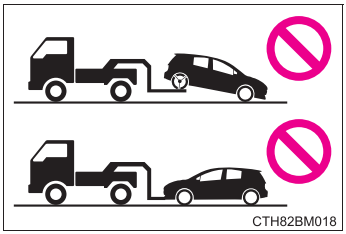


警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
  けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- パワースイッチを “LOCK” （スマートエントリー & スタートシステム非装着車）またはパワースイッチを OFF（スマートエントリー & スタートシステム装着車）にしないでください。
  ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

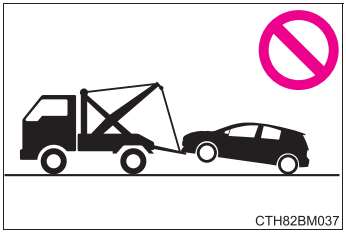
■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度は 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
（赤色）	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）** ※1 ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**
	充電警告灯★ 警告灯が点灯した場合： 充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。** 警告灯が点滅した場合： 補機バッテリーが充電不足 **→ 数秒後** ※4 **に警告灯が消灯したときは** **約１５分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ 警告灯が消灯しないときは** **「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 455）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。**
	油圧警告灯★（警告ブザー） エンジンオイルの圧力異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	高水温警告灯★（警告ブザー） エンジン冷却水高温異常 水温の上昇にともない、点滅から点灯へかわります。 （→ P. 463） **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステム異常警告灯★（警告ブザー）※2 ハイブリッドシステムの異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	パーキングブレーキ警告灯（警告ブザー）※3 パーキングブレーキがかかっているとき **→パーキングブレーキを解除する**
	スリップ表示灯 ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常 ・ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC/TRC/ABS システム作動時は点滅します。 （→ P. 291） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（黄色）	**電子制御ブレーキ警告灯** ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	**PCS 警告灯★** 警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ 要因と対処方法（→ P. 210, 417）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P. 222**
OFF （点滅）	**PKSB OFF 表示灯★** 警告ブザーあり： パーキングサポートブレーキの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーなし： 次の原因などによりシステムが一時的に使用できない可能性があります。 ・センサー部周辺に汚れや付着物がある **→ 汚れや付着物を取り除いてください。**
AUTO （黄色）	**オートマチックハイビーム表示灯★** オートマチックハイビームの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
（黄色）	**LDA（レーンディパーチャーアラート）表示灯★** LDA システムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	車両接近通報装置異常警告灯（警告ブザー） 車両接近通報装置の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
P SHIFT	**P ポジション要求表示灯★（警告ブザー）** ・長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下した ・シフトレバーが N・D・B で運転席ドアを開けた ・シフトレバーが P 以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ シフトレバーを P にする**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ハイブリッドシステム過熱警告灯★（警告ブザー） ハイブリッドシステムがオーバーヒートした 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときに警告灯が点灯する場合があります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 463）**
	駆動用電池残量低下警告灯★（警告ブザー） 長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下した **→ シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にする** **→ READY インジケーターが消灯しているときは、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを再始動する**
	半ドア警告灯★（警告ブザー） ※5 いずれかのドアが確実に閉まっていない **→ 全ドアを閉める**
	燃料残量警告灯（警告ブザー） 燃料の残量減 約 5 L 以下になるとブザーが鳴り、点灯します。 **→ 燃料を補給する**
	シートベルト非着用警告灯 **(警告ブザー)** ※6 運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯★ **ブレーキオーバーライドシステム** アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** **ドライブスタートコントロール** アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	マスターウォーニング★ システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。 **→ P. 405**

※1 ブレーキ警告ブザー：
ブレーキの効き低下につながる異常があると、警告灯の点灯と同時にブザーが鳴ります。

※2 警告灯の点灯に合わせて警告ブザーが鳴ります。

※3 パーキングブレーキ走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※4 約6秒間表示されます。

※5 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

※6 シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると、警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

●乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、警告ブザーが鳴ることがあります。

●座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

警告

■パワーステアリング警告灯が点灯したとき

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

注意

■充電警告灯がひんぱんに点滅するときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

その他に表示される警告灯

次の警告灯が表示されたときは、対処方法に従って処置することで消灯させることができます。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	メンテナンス・点検警告灯★ 駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期 フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 **→ 吸入口が汚れている場合は、P. 343 を参考に吸入口の清掃を行ってください。** **→ 吸入口が汚れていないのに警告灯が点灯したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージが表示されたときは（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）

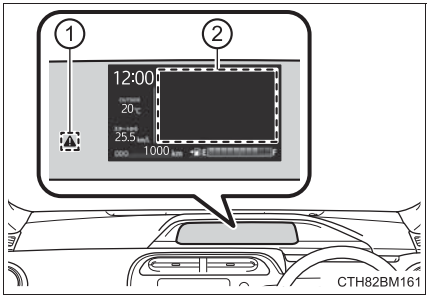
マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。

① マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

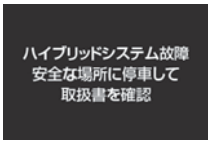
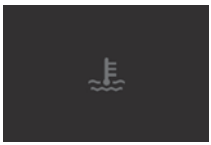
② マルチインフォメーションディスプレイ

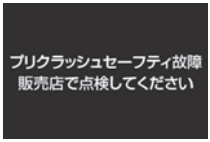
警告内容や対処方法が表示されます。



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ一覧

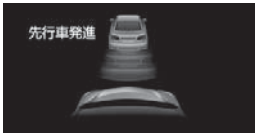
警告メッセージ	警告内容・対処方法
	**ハイブリッドシステムの異常** 警告メッセージの表示に合わせて警告ブザーが鳴ります。 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
	**エンジン冷却水高温異常** 警告ブザーが鳴ります。 → **ただちに安全な場所に停車してください。** **（→ P. 463）**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
 	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと、警告ブザーと共に表示されます。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
 	LDA（レーンディパーチャーアラート）★の異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
 （点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティ）★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	衝突の可能性が高い **プリクラッシュブレーキが作動している（プリクラッシュセーフティ）★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認して、必要に応じて回避行動をとってください。**
   （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはパーキングサポートブレーキ★が作動している** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキで減速する。**

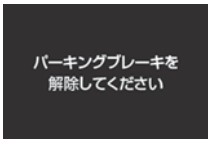
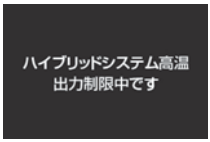
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
スマートエントリー& スタートシステムチェック （点滅）	**スマートエントリー & スタートシステム★の異常** **ステアリングロックシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
クルーズ システムチェック	**クルーズコントロールシステム★の異常** ON-OFF スイッチを一度 OFF にし、再度設定すると復帰する場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ヘッドライト レベリング システムチェック	**LED ヘッドランプオートレベリングシステム★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
ヘッドランプシステム故障 販売店で 点検してください	**・オートマチックハイビーム★の異常** **・LED ヘッドランプ★の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	ドライブスタートコントロールの異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	車両接近通報装置の異常 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
	（LDA［レーンディパーチャーアラート］★制御中） **車線逸脱警報** 車両が車線から逸脱すると、逸脱している側の表示が黄色で点滅します。 警告ブザーが連続して鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認してから、ハンドルを操作して車両を車線内にもどす**
	**先行車発進告知★** 警告ブザーが鳴ります。 **→ 周囲の安全を確認してから、車両を発進させる**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
▶GR SPORTを除く ▶GR SPORT 	**各ドア、バックドアが確実に閉まっていない** 開いてるドア、バックドアが表示されます。 各ドア、バックドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。 **→ 開いているドアを閉める**
 	**パーキングブレーキが解除されていない** パーキングブレーキをかけたまま、車速が 5km/h をこえたときには が点滅しブザーが鳴ります。 **→ パーキングブレーキを解除する**
 	**ハイブリッドシステムの過熱** 負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ 車両を停車して点検する（→ P. 463）**
 	ヘッドランプがロービームの状態でオートマチックハイビームスイッチ★を押した **→ ヘッドランプをハイビームに切りかえる**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
VSCがOFFのため プリクラッシュブレーキも 停止します OFF OFF	プリクラッシュブレーキ★およびプリクラッシュブレーキアシスト★が現在機能していない（衝突警報は作動します） → VSC を ON にする（→ P. 222，292）
プリクラッシュセーフティ 現在使用できません OFF	PCS（プリクラッシュセーフティ）★が現在機能していない → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
ハイブリッド充電量低下 Nレンジ以外にすると 充電されます （点滅）	駆動用電池の残量が低下 警告ブザーが鳴ります。 → シフトレバーが N の状態では充電できないため、長時間停車するときはシフトレバーを P にする
ハイブリッド充電量低下のため システム停止 Pレンジにして再始動 （点滅）	長時間シフトレバーが N になっているため、駆動用電池の残量が低下 警告ブザーが鳴ります。 → 車両を動かす場合は、シフトレバーを P にしてハイブリッドシステムを再始動する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
駐車時はPレンジに 入れてください （点滅）	**シフトレバーがN・D・Bで、運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ シフトレバーをPにする**
Nレンジです アクセルを緩めて希望レンジに 切替てください （点滅）	**シフトレバーがNのとき、アクセルペダルを踏んだ** 警告ブザーが鳴ります。 **→ アクセルペダルから足を離し、シフトレバーをD・BまたはRにする**
ライトが点灯しています （点滅）	**パワースイッチが“ACC”または“LOCK”の状態（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）、パワースイッチがアクセサリーモードまたはOFFの状態（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）でランプを点灯したまま運転席ドアを開けた** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ランプを消灯する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
EVモードに現在 切替できません EVモードに現在 切替できません 暖機中のため EVモードに現在 切替できません 充電不足のため EVモードに現在 切替できません EV速度域を 超えているため EVモードに現在 切替できません アクセル 踏み過ぎのため	**EV ドライブモードに切りかえできない状況にいる** ※1 EV ドライブモードを使用できない理由（暖機中／電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ EV　ドライブモードが使用できる状況になってから使用する**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
EVモードが 解除されました EVモードが 解除されました 駆動用電池 充電不足のため EVモードが 解除されました EV速度域を 超えたため EVモードが 解除されました アクセル 踏み過ぎのため EV MODE （3 回点滅）	**EV ドライブモードが自動解除された** ※1 EV ドライブモードを使用できない理由（電池充電不足／ EV 速度域超過／アクセル踏み過ぎ）の表示がでる場合があります。 警告ブザーが鳴ります。 **→ しばらく走行する**
充電システム故障 安全な場所に停車し 取扱書を確認	**充電系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**
補機バッテリー （始動用）充電不足 取扱書確認下さい	**補機バッテリーが充電不足** **→ 数秒後** ※2 **に表示が消えたときは** **約１５分以上、ハイブリッドシステムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。** **→ 表示が消えないときは** **「補機バッテリーがあがったときは」（→ P. 455）の手順でハイブリッドシステムを始動してください。**

警告メッセージ	警告内容・対処方法
TRC OFF	TRC（トラクションコントロール）が OFF になっている → TRC を ON にする（→ P. 291）
アクセルとブレーキが 両方踏まれています （点滅）	アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動した（→ P. 157） → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏む
アクセルを戻してください （点滅）	アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールシステムが作動した（→ P. 158） 警告ブザーが鳴ります。 → ただちにアクセルペダルを離す
アクセルペダルが 踏まれています	シフトレバーが P の状態でアクセルペダルが踏まれた → アクセルペダルから足を離す
アクセルが踏まれています ブレーキを踏みなおしてください （点滅）	パーキングサポートブレーキ★の作動による車両停止後、アクセルペダルが踏まれている 警報ブザーが鳴ります。 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏む

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
ブレーキを踏んでください （点滅）	**パーキングサポートブレーキ★が作動している** 警報ブザーが鳴ります。 **→ ブレーキペダルを踏む**
加速抑制中です （点滅）	**衝突の可能性が高い、またはパーキングサポートブレーキ★が作動している** 警報ブザーが鳴ります。 **→ アクセルペダルから足を離す**
パーキングサポートブレーキ故障 販売店で点検してください OFF （点滅）	**パーキングサポートブレーキ★の異常** 警報ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**
パーキングサポートブレーキ 現在使用できません OFF （点滅）（点滅）	**センサー部分の汚れなどにより、パーキングサポートブレーキ★が現在機能していない** **→ 汚れおよび氷などを取り除く**
クリアランスソナー故障 販売店で点検してください	**クリアランスソナー★の異常** 警報ブザーが鳴ります。 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください	**クリアランスソナー★のセンサー部の汚れ、氷などの付着** 警報ブザーが鳴ります。 **→ 汚れおよび氷などを取り除く**
クリアランスソナー使用できません	**クリアランスソナー★のシステムが一時的に使用不可と判断した。** 警報ブザーが鳴ります。 **→ しばらく走行してからクリアランスソナーを再度設定する**
前方カメラ 一時使用不可 しばらくお待ちください OFF	**前方センサーの作動条件（温度など）が満たされていない** 次のシステムが一時的に使用できなくなります。 ・PCS（プリクラッシュセーフティ）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・オートマチックハイビーム★ ・先行車発進告知機能★ **→ 前方センサーの作動条件（温度など）が満たされると、システムは使用可能になります。いったんシステムを OFF にして、しばらく待ってから、再度システムを ON にしてください。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告メッセージ	警告内容・対処方法
前方カメラ 一時使用不可 ガラスの汚れや曇りを 取ってください OFF	**前方センサーの前のフロントウインドウガラスに汚れ・雨滴・曇り・氷雪などが付着している** **次のシステムが一時的に使用できなくなります。** ・PCS（プリクラッシュセーフティ）★ ・LDA（レーンディパーチャーアラート）★ ・オートマチックハイビーム★ ・先行車発進告知機能★ **→ いったんシステムを OFF にして、汚れ・雨滴・曇り・氷雪などを取り除いてから、再度システム を ON にしてください。**
LDA 約50km/h以下で 使用できません	**車速が約 50km/h 以下のため、LDA（ レーンディパーチャーアラート）★が使用できない** **→ 50km/h 以上の車速で走行する**
LDA 現在の車速では 使用できません	**車速が LDA （ レーンディパーチャーアラート）★の作動可能範囲を超えたため、使用できない** **→ 車速を落として走行する**

※1 EV ドライブモードの作動条件については、P. 178 を参照してください。

※2 約６秒間表示されます。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■**「補機バッテリ（始動用）充電不足　取扱書を確認して下さい」がひんぱんに表示されるときは**

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

その他に表示されるメッセージ

次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従って処置することで消灯させることができます。

表示メッセージ	表示内容・対処方法
駆動用電池の 冷却部品の メンテナンス必要 取扱書を確認	**駆動用電池の冷却部品のメンテナンス時期** フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられます。 **→ 吸入口が汚れている場合は、P. 343 を参考に吸入口の清掃を行ってください。** **→ 吸入口が汚れていないのにメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。**

ただちに処置してください。（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	—	キーが見つかりません （点滅）	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ 電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動する**
1回	3回	キーが見つかりません （点滅）	シフトレバーが P の状態で、パワースイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ パワースイッチを OFF にするまたは電子キーを車内にもどす**
			パワースイッチがOFF以外の状態で、同乗者が電子キーを持ち出したまま運転席以外のドアが開閉された **→ 電子キーを車内にもどす**
1回	連続音（5秒間）	キーが見つかりません 電源をOFFしてください （交互に表示） （点滅）	パワースイッチを OFF にせずに、電子キーを持ち出してスマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ パワースイッチを OFF にしたあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
9回	—	キーが見つかりません （点滅）	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた **→ 車室内に電子キーがあるか確認する**
連続音	—	Pレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態で、パワースイッチをOFFにせずに運転席ドアが開いた **→ シフトレバーを P にする**
連続音	連続音	Pレンジに入れてください キーが見つかりません （交互に表示） （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチをOFFにせずに電子キーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された **→ シフトレバーを P にする** **→ 電子キーを車内にもどす**
—	連続音（5秒間）	車室内にキーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1回	連続音（5秒間）	車室内に キーがあります （点滅）	車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開き、ロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした **→ 車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する**
1回	—	ブレーキを踏みながら キーでパワースイッチに 触れてください （点滅）	・メカニカルキーで解錠してパワースイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できなかった ・パワースイッチを押したとき、車室内で電子キーを検知できないことが2回連続で続いた **→ ブレーキペダルを踏みながら電子キーで、パワースイッチにふれる**
1回	—	始動時は Pレンジに 入れてください （点滅）	シフトレバーがP以外の状態でハイブリッドシステムを始動しようとした **→ シフトレバーをPに入れてからハイブリッドシステムを始動させる**
—	—	バッテリー保護の為 自動電源OFF しました	自動電源OFF機能が作動した **→ 次回ハイブリッドシステム始動時にエンジン回転数を少し高めにし、約5分間その回転数を保持し補機バッテリーを充電する**
1回	—	キーバッテリー残りわずか	電子キーの電池残量が少ない **→ 新しい電池と交換する** **（→ P. 364）**

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容・対処方法
1 回	—	始動時はブレーキを踏みながらパワースイッチを押してください （点滅）	パワースイッチがOFFの状態で運転席のドアを開閉してからハイブリッドシステムを始動せずにパワースイッチをアクセサリーモードに 2 回した **→ ブレーキペダルを踏んでパワースイッチを押す**
			電子キーが正常に働かないときのハイブリッドシステムの始動の方法で（→ P. 452）パワースイッチに電子キーをふれた **→ ブザーが鳴ってから 10 秒以内にパワースイッチを押す**
1 回	—	ステアリングロック未解除 （点滅）	パワースイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった **→ ブレーキペダルを踏んでハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを押す**
1 回	—	Pレンジに入れてください （点滅）	シフトレバーが P 以外の状態でパワースイッチを OFF にした **→ シフトレバーを P にする**
1 回	—	電源をOFFしてください （点滅）	シフトレバーが P 以外でパワースイッチをOFFにしたあとシフトレバーを P に移動した **→ パワースイッチを OFF にする**

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液１本につき、応急修理できるタイヤは １ 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→ P. 425）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

警告

■**タイヤがパンクしているときは**

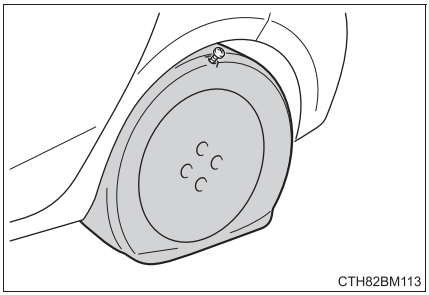
タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりかける
- シフトレバーをＰに入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 385）
- タイヤの損傷程度を確認する。

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。

・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

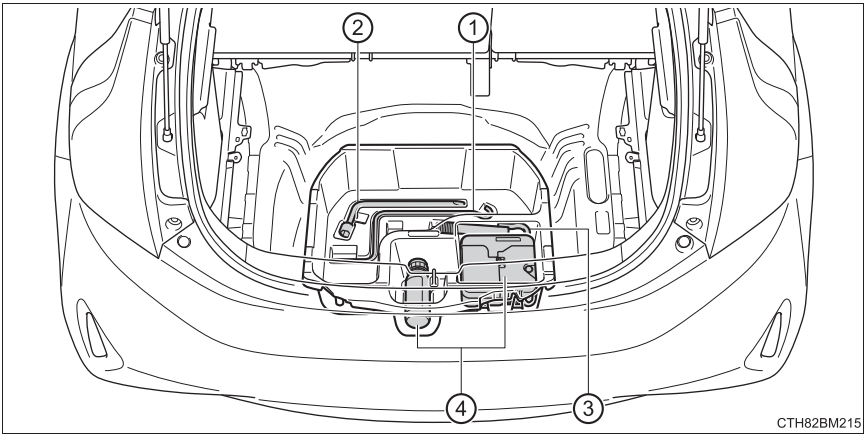
知識

■応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

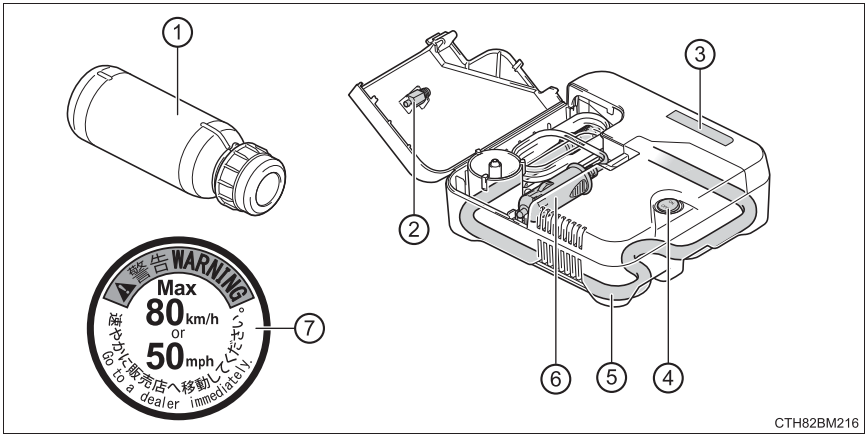
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置



① ジャッキハンドル
② ホイールナットレンチ
③ けん引フック
④ タイヤパンク応急修理キット

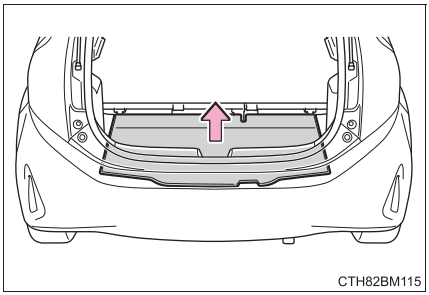
タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称



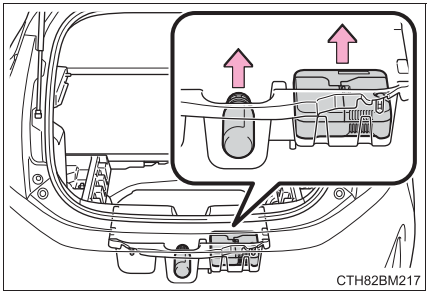
① ボトル
② 空気圧逃しキャップ
③ 空気圧計
④ 電源スイッチ
⑤ ホース
⑥ 電源プラグ
⑦ 速度制限ラベル

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 フロアボードを取りはずす



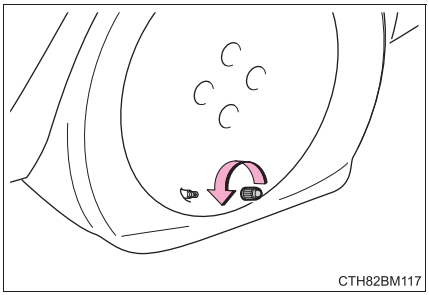
2 タイヤパンク応急修理キットを取り出す



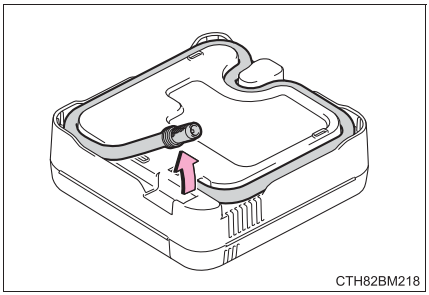
応急修理するときは

1 応急修理キットを取り出す

2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす

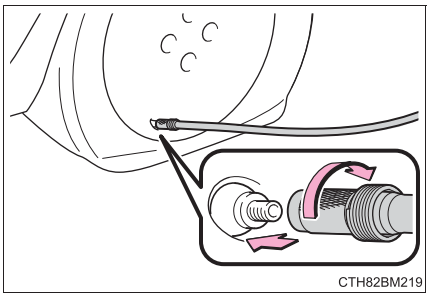

CTH82BM117

3 コンプレッサーの下面よりホースを取り出す

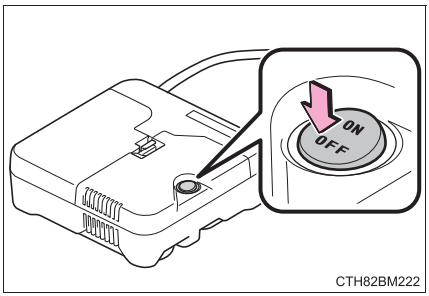

CTH82BM218

4 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして、しっかりと最後までねじ込みます。

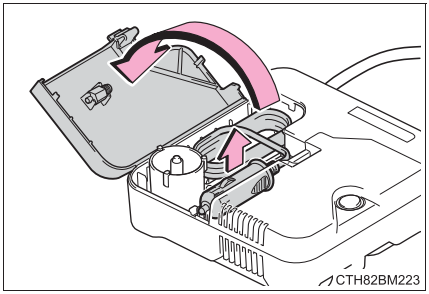

CTH82BM219

5 コンプレッサーのスイッチが“OFF”であることを確認する

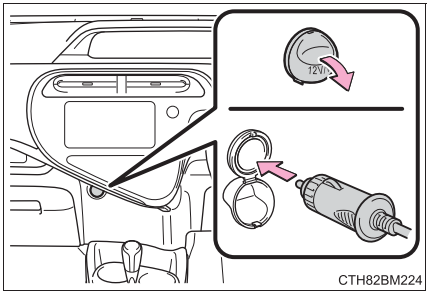


CTH82BM222

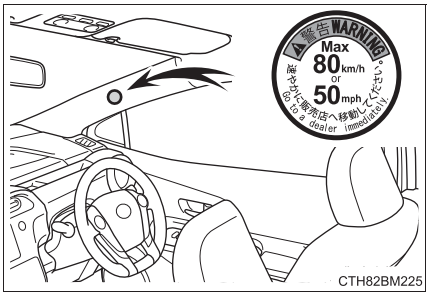
6 フタを開けてコンプレッサーの電源プラグを取り出す



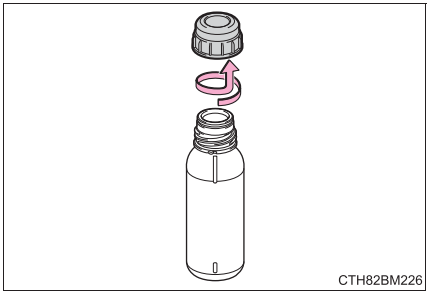
7 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→ P. 331）



8 付属のラベルを図のように貼り付ける

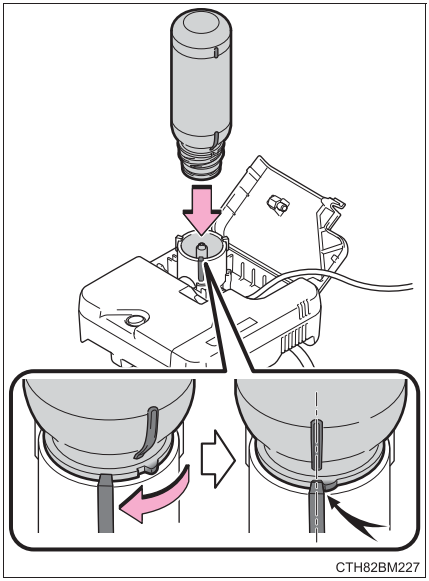


9 ボトルのキャップを外す



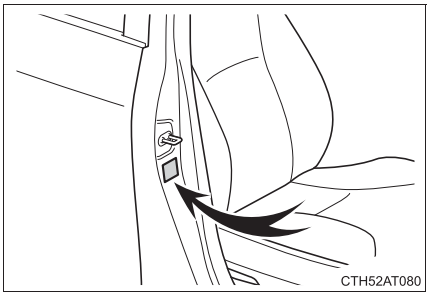
10 ボトルをコンプレッサーに接続する

右の図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入し、ボトルを時計まわりに回してストッパーに止まるまでねじ込んでください。


CTH82BM227

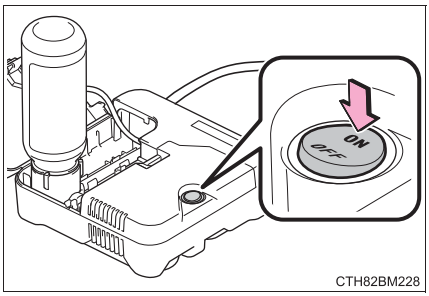
11 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→ P. 356）


CTH52AT080

12 ハイブリッドシステムを始動する

13 コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、パンク補修液と空気を充填する



CTH82BM228

14 空気圧が指定空気圧になるまで充填する

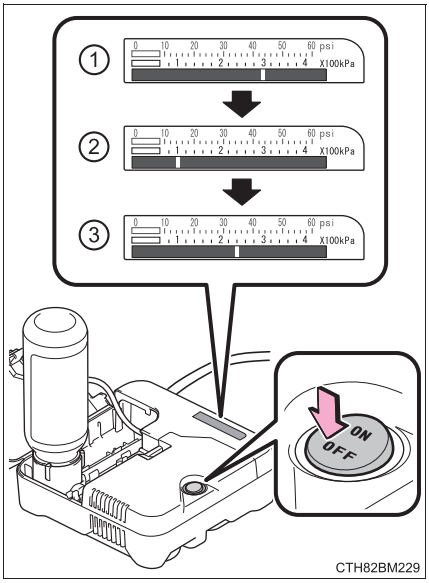
① スイッチ “ON” 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が上昇する

② 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる

③ 指定空気圧になるまで充填する

空気圧は、コンプレッサーのスイッチを “OFF” にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。



空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→ P. 434, 477）

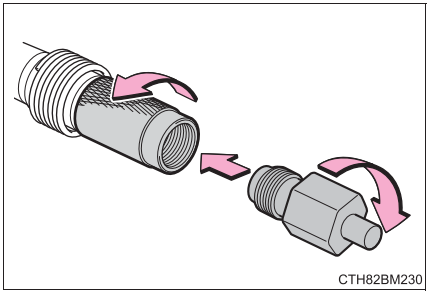
15 コンプレッサーのスイッチが “OFF” であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、バルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

17 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

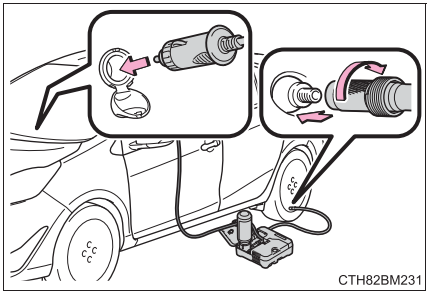
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



18 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

20 走行後、ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する

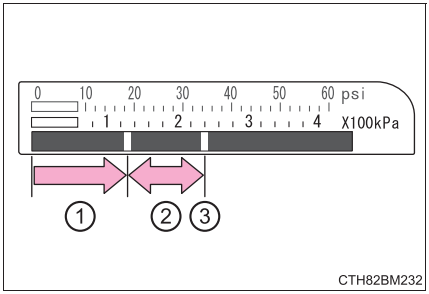


21 コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 “ON” にし、“OFF” にして空気圧を確認する

① 空気圧が 130kPa 未満の場合：応急修理できません。
トヨタ販売店にご連絡ください。

② 空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧未満の場合：手順 22 へ

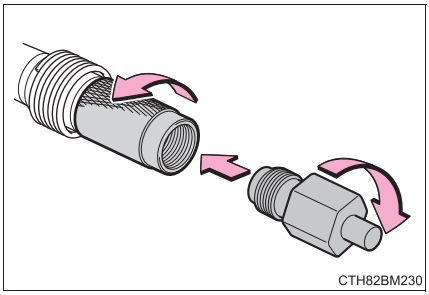
③ 空気圧が指定空気圧（→P. 477）の場合：手順 23 へ



22 コンプレッサーのスイッチを “ON” にして指定空気圧まで空気を充填し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

23 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



24 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行く

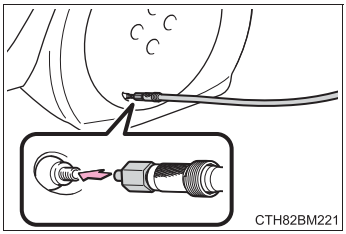
タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

■空気を入れすぎてしまったときは

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを“ON”にして数秒間経過後、スイッチを“OFF”にして空気圧計を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを“ON”にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。

有効期限はボトルに表示されています。

有効期限がきれたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

■応急修理キットについて

●応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。

●パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限がきれる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、繰り返し使用できます。

●外気温度が－ 30°C ～ 60°C のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。

●応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

警告

■**応急修理キットについて**

●応急修理キットはラゲージルームに収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

警告

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●パンク補修液注入中にホースが外れると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。

●応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
・再度空気圧を測ってください。130 kPa (1.3 kg/cm^2) 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

⚠注意

■応急修理をするときは

- タイヤに刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理を行ってください。 取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットを上下逆さまにして使用しないでください。故障の原因になります。

■応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12 V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットはラゲージルームに収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は P. 355 を参照ください）

警告

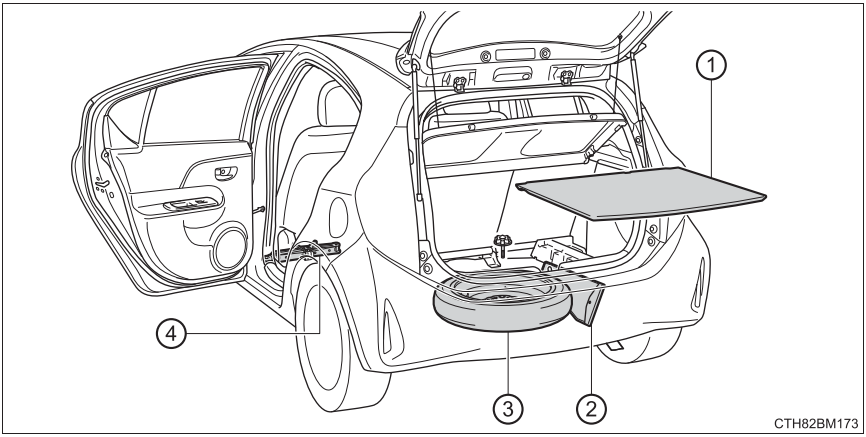
■タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ちあげる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→ P. 385）

工具とジャッキ位置



① フロアボード
② 工具袋 ※
③ 応急用タイヤ
④ ジャッキ

※ ジャッキハンドル・ホイールナットレンチ・けん引フック

警告

■**ジャッキの使用について**

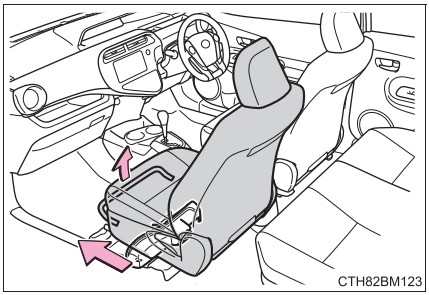
ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車両に使ったり他の車両のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ちあげない
- 車両を持ちあげるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
- 車両を持ちあげるときは、タイヤ交換できる高さ以上にあげない
- 車両の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する

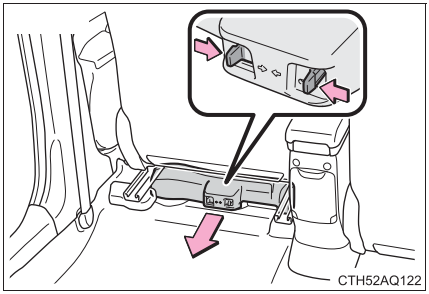
車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

ジャッキの取り出し方

1 助手席シートをいちばん前に移動する



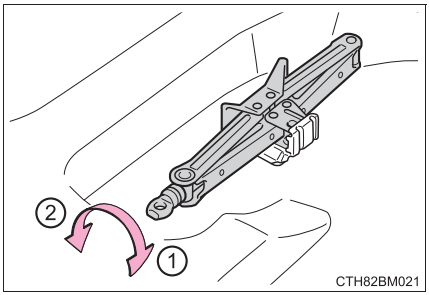
2 ツメを内側につまみ、手前に引いて、カバーを取りはずす



3 ジャッキを取り出す

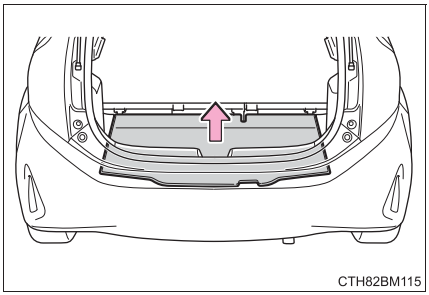
① 締まる

② ゆるむ

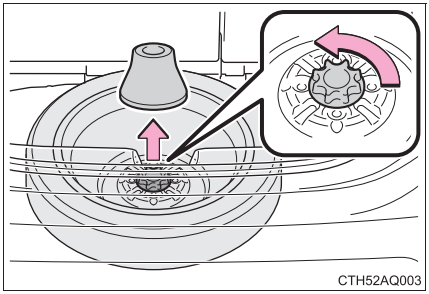


応急用タイヤの取り出し方

1 フロアボードを取りはずす


CTH82BM115

2 クッションを取りはずし、留め具を取りはずす


CTH52AQ003

警告

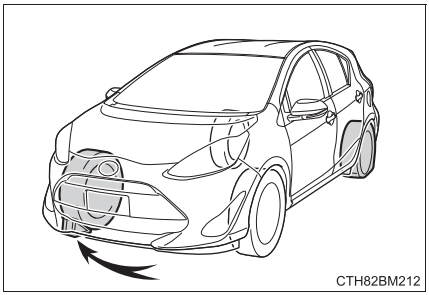
■**応急用タイヤを収納するときは**

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤの交換

1 輪止め※をする

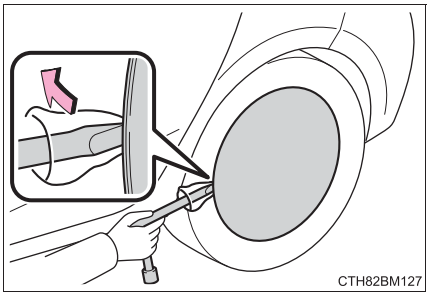
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。


CTH82BM212

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪うしろ
	右側	左側後輪うしろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

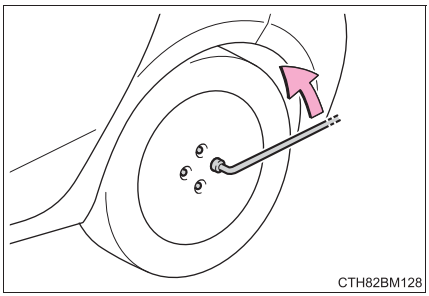
2 ホイールキャップをはずす（スチールホイールのみ）

傷が付くのを防ぐため、ホイールナットレンチの先端に布などを巻いて保護してください。

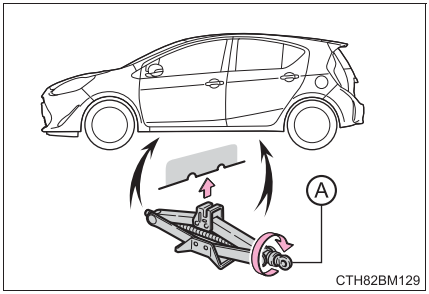

CTH82BM127

3 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

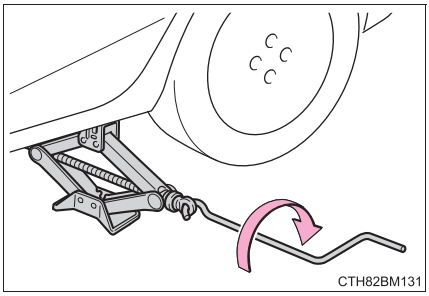
スチールホイール装着車は、ナットをゆるめる前にホイールキャップがはずれていることを確認してください。


CTH82BM128

4 ジャッキのA部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

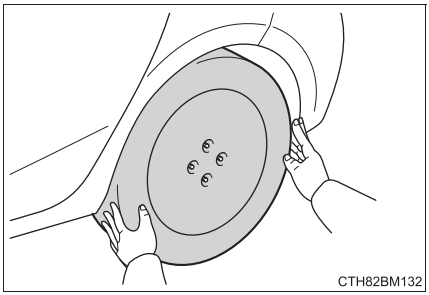


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体をあげる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



警告

■タイヤ交換について

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

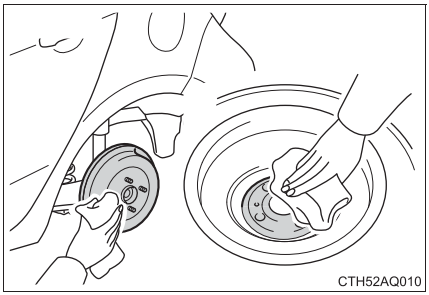
●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。
オイルやグリースがねじ部についている場合は拭き取ってください。
・ホイールの交換後は、すぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
・ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける。
（→ P. 358）

応急用タイヤの取り付け

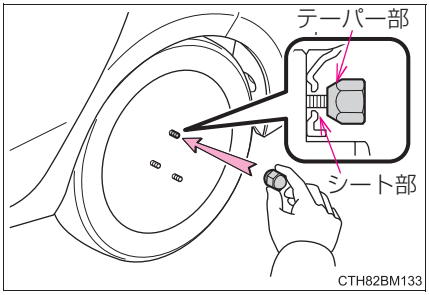
1 ホイール接触面の汚れを拭き取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

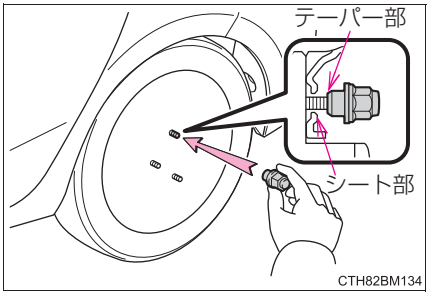


2 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

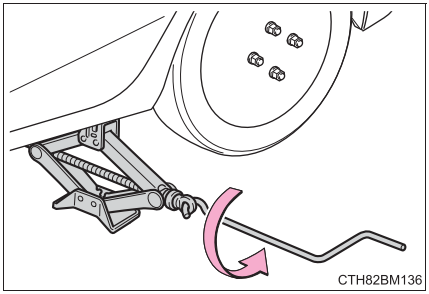
スチールホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす



アルミホイールから応急用タイヤにかえるときは、ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

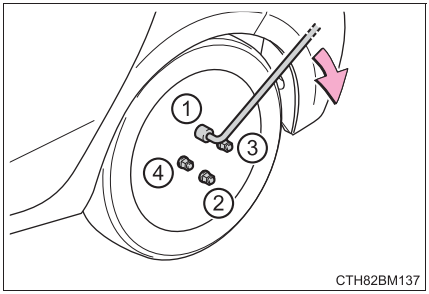


3 車体を下げる



4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103 N・m (1050 kgf・cm)



5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→ P. 477）

■応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

1 後輪を応急用タイヤと交換する

2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する

3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

・ABS
・ブレーキアシスト
・VSC
・PCS（プリクラッシュセーフティ）★
・LDA（レーンディパーチャーアラート）★
・パーキングサポートブレーキ★
・TRC
・EPS
・クルーズコントロール★
・オートマチックハイビーム★
・パノラミックビューモニター★

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、80 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。
段差を乗りこえるときは注意してください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。
次のことをご確認いただき、適切に対処してください。

正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 168, 172）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 452）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 78）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車：電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→ P. 451）

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 455）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。
  （→ P. 351）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 455）
- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
  （→ P. 351）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急始動機能（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、次の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

2 シフトレバーがＰの位置にあることを確認する

3 パワースイッチをアクセサリーモードにする

4 パワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

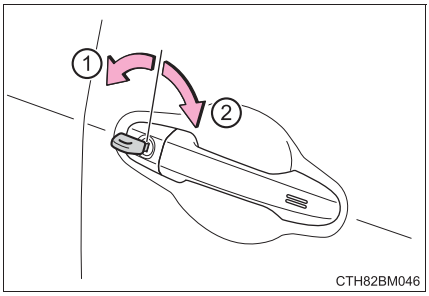
電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→ P. 131）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

メカニカルキー（→ P. 114）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

① 全ドア解錠

② 全ドア施錠



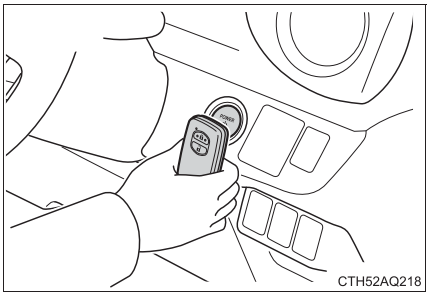
ハイブリッドシステム始動の方法

1 シフトレバーが P の状態でブレーキをしっかり踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを検知するとブザーが鳴り、ON モードへ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムをキャンセルしたときは、アクセサリーモードへ切りかわります。



▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯が緑色に点灯していることを確認する

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを短く確実に押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、シフトレバーを P にしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

ここで説明しているハイブリッドシステムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→ P. 364）

■パワースイッチのモードの切りかえ

ハイブリッドシステム始動方法の 3 で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、ハイブリッドシステムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→ P. 173）

■スマートエントリー＆スタートシステムにてドアの施錠・開錠ができないときは

メカニカルキーまたは、ワイヤレスリモコンでドアの施錠・開錠をしてください。

■電子キーが正常に働かない場合について

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
（→ P. 480）

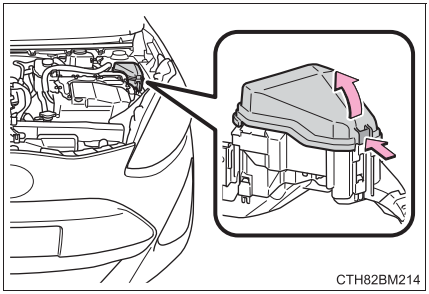
補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、ハイブリッドシステムを始動させることができます。

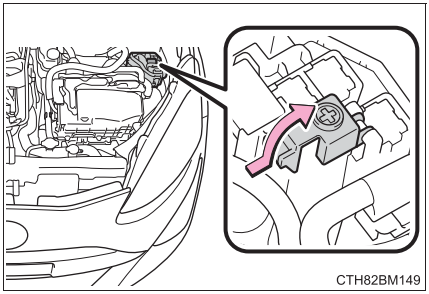
1 ボンネットを開け、ヒューズボックスのカバーをはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げてはずします。

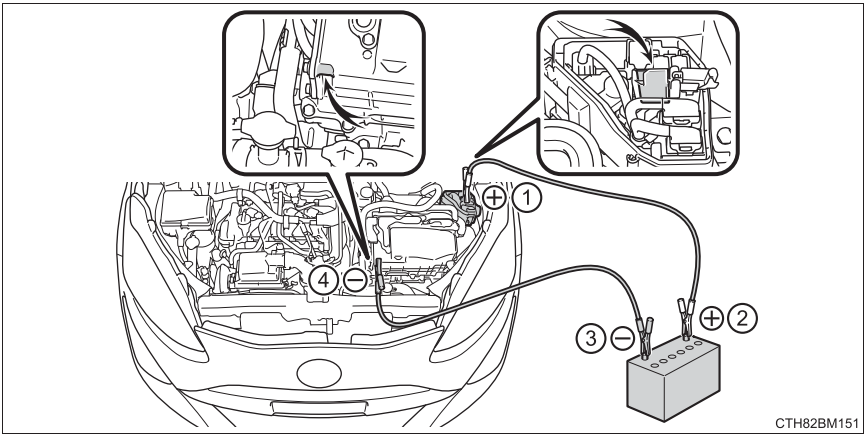


2 ヒューズボックス内の救援用端子カバーを開ける

ツメを押しながら、カバーを開けます。



3 ブースターケーブルを次の順につなぐ



① 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子につなぐ

② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ

③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ

④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

5 スマートエントリー＆スタートシステム装着車は、パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん“ON” にしてからハイブリッドシステムを始動する

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

6 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったんONモードにしてからハイブリッドシステムを始動する

7 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

8 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

9 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

ヒューズボックスのカバーは、奥にあるツメ（2箇所）を先に引っかけてから取り付けてください。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●ハイブリッドシステムが停止しているときは、ランプやエアコン、オーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーがあがったときの留意事項（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリーがあがったあとの、最初のハイブリッドシステムは始動できないことがあります。２回目以降のハイブリッドシステムは正常に始動しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、補機バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。
補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってハイブリッドシステムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーはハイブリッドシステムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

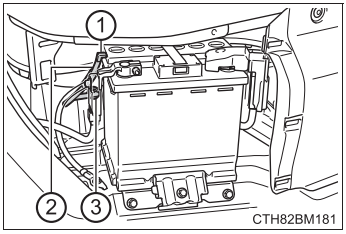
●交換前と同一のケースサイズ（LN0）、20 時間率容量（20HR）が同等（35Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（240A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、ハイブリッドシステムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。

排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。



① 排気穴

② 排気ホース

③ 車両穴部

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあとは

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

警告

■**補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■**補機バッテリーを交換するときは**

交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

■**補機バッテリーの－端子について**

ボデー側に接続された補機バッテリーの－端子をはずさないでください。誤ってはずすと＋端子と接触し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■**救援用端子について**

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

▶ マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

● 高水温警告灯が点滅または点灯：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。

● ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

● エンジンルームから蒸気が出る

▶ マルチインフォメーションディスプレイ装着車

● （→ P. 405）がマルチインフォメーションディスプレイに表示：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。

● ハイブリッドシステム過熱メッセージ（→ P. 409）がマルチインフォメーションディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

● エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ **高水温警告灯が点滅または点灯したとき（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）、または がマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）**

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、ハイブリッドシステムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

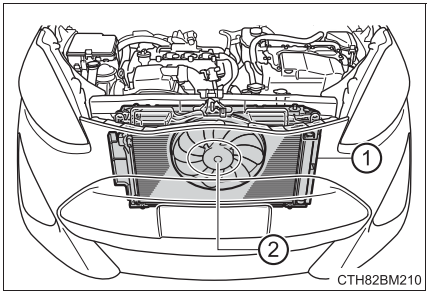
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

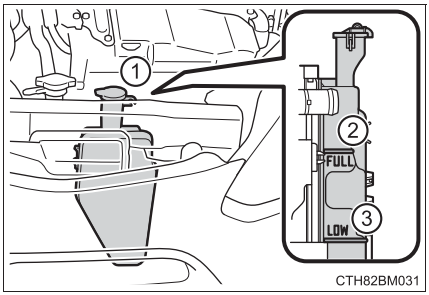


4 冷却水の量がリザーバータンクの “FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

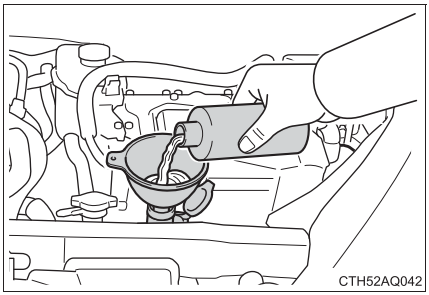
② “FULL”（上限）

③ “LOW”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

ハイブリッドシステムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。
（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

7 ファンが作動していない場合：
すぐにハイブリッドシステムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

■ **ハイブリッドシステム過熱警告灯が点灯したとき（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）、またはハイブリッドシステム過熱メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）**

1 安全な場所に停車する

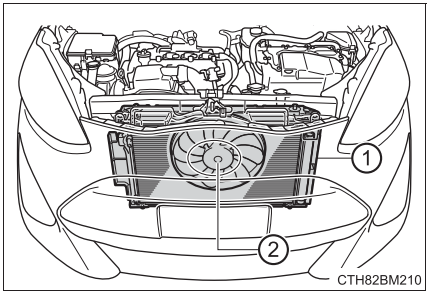
2 ハイブリッドシステムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

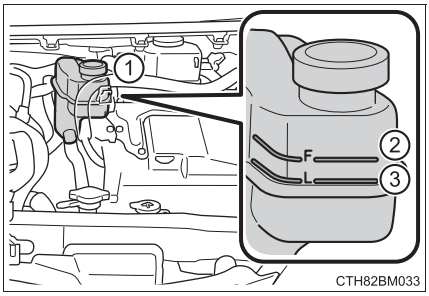


4 冷却水の量がリザーバータンクの“F”（上限）と“L”（下限）のあいだにあるかを点検する

① リザーバータンク

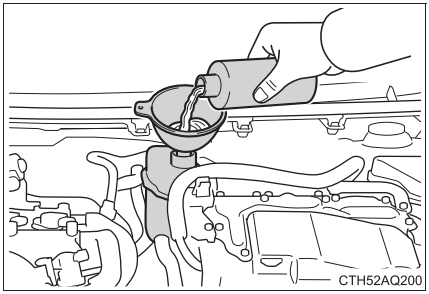
② “F”（上限）

③ “L”（下限）



5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



6 ハイブリッドシステムを始動し、メーター（マルチインフォメーションディスプレイ非装着車）またはマルチインフォメーションディスプレイ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）を確認する

表示が消えない場合：
ハイブリッドシステムを停止してトヨタ販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●マルチインフォメーションディスプレイ非装着車：
ハイブリッドシステムの停止後は、スマートエントリー＆スタートシステム表示灯と READY インジケーターが消灯していることを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装着車：
ハイブリッドシステムの停止後は、マルチインフォメーションディスプレイの 電源ON と READY インジケーターが消灯していることを確認してください。
ハイブリッドシステムが作動していると、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ハイブリッドシステムおよびラジエーター･リザーバータンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**冷却水を入れるとき**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

■**冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

1. シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけてハイブリッドシステムを停止する
2. タイヤ前後の土や雪を取り除く
3. タイヤの下に木や石などをあてがう
4. ハイブリッドシステムを再始動する
5. シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む

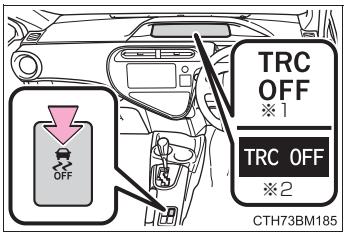
知識

■脱出しにくいとき

を押してTRCをOFFにしてください。

※1 マルチインフォメーションディスプレイ非装着車

※2 マルチインフォメーションディスプレイ装着車



警告

■脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 8

8-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）.....472
8-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧 480
初期設定が必要な項目 483

メンテナンスデータ (指定燃料、オイル量など)

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※	36

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	エンジン	容量［L］（参考値※1）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル SN 0W-16※2 (API SN/RC, SAE 0W-16) トヨタ純正モーターオイル SN PLUS 0W-20 (API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20) トヨタ純正モーターオイル SN 5W-30 (API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30)	1NZ-FXE	3.4	3.7

※1 エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンの暖機後にハイブリッドシステムを停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

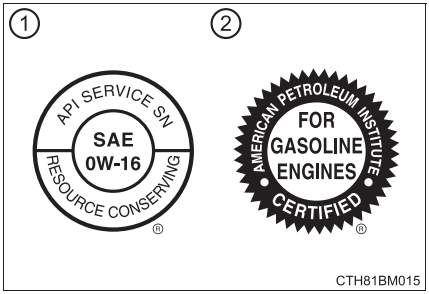
※2 0W-16 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークが付いています。

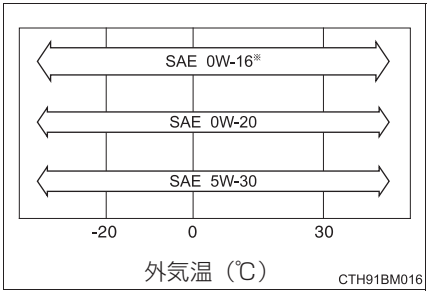
① API マーク

② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-16 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

・0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。

・0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	ガソリンエンジン	インバーター
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　－ 12°C 濃度 50%　－ 35°C	寒冷地仕様車 5.3	1.6
	寒冷地仕様車を除く 4.5	

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）
トヨタ純正オートフルード　WS	3.3

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ブレーキ

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※1	70

※1 ハイブリッドシステムが作動している状態で、294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力200 N (20 kgf) のときのノッチ ※2 数	8 ～ 11

※2 ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	
リヤワイパー非装着車	1.8
リヤワイパー装着車（“GR SPORT”を除く）	4.8
リヤワイパー装着車（“GR SPORT”）	2.3

タイヤ・ホイール

▶ 標準タイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
		前輪	後輪
185/60R15 84H	15 × 5 1/2J	タイプ A※：270（2.7） タイプ B※：240（2.4） タイプ C※：230（2.3）	
185/60R16 86H	16 × 6J	230 (2.3)	
195/50R16 84V	16 × 6J	220 (2.2)	200 (2.0)
195/45R17 81W	17 × 6 1/2J	230（2.3）	

※ タイヤの指定空気圧は、運転席側の「タイヤ空気圧」ラベルをご確認ください。（→ P. 356）

▶ スペアタイヤ

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
T125/70D16 96M	16 × 4T	420 (4.2)

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ ハロゲンヘッドランプ LED ヘッドランプ	 55 LED※1
	車幅灯（ハロゲン タイプ）	5
	車幅灯（LED タイプ）	LED※1
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	フロントフォグランプ★	LED※1
	LED イルミネーションビーム★	LED※1
	尾灯	LED※1
	制動灯	LED※1
	番号灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグランプ★	LED※1
	ハイマウントストップランプ	LED※1
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED※1
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
車内	フロントインテリアランプ／パーソナルランプ	5
	リヤインテリアランプ	8
	ラゲージルームランプ	5

※1 LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

※2 電球のみの交換はできないため、トヨタ販売店にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
NHP10	1NZ-FXE （1.5L ガソリン）	1LM	FF（前輪駆動）
NHP10H			

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

■ スマートエントリー&スタートシステム★、ワイヤレスドアロック（→ P. 119, 125, 129）

機能の内容	初期設定	変更後
作動の合図（ブザー）※	あり	なし
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし
作動の合図（ブザー音量調整）※	レベル 5	レベル 0 ～ 7
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
		120 秒
半ドア警告ブザー ※	あり	なし

※ スマートエントリー & スタートシステム装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スマートエントリー&スタートシステム★（→ P. 119, 125, 129）

機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステムの作動	あり	なし
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限

■ ワイヤレスドアロック（→ P. 119, 125）

機能の内容	初期設定	変更後
ワイヤレス機能	あり	なし

■ ランプ自動点灯・消灯システム★（→ P. 187）

機能の内容	初期設定	変更後
ライトセンサーの感度調整	標準	－2～2
暗さを検知してからランプを点灯するまでの時間	標準	長め

■ イルミネーテッドエントリーシステム（→ P. 320）

機能の内容	初期設定	変更後
消灯までの時間	15 秒	OFF
		7.5 秒
		30 秒
解錠時の作動	あり	なし
パワースイッチ “LOCK” 後の作動 ※1	あり	なし
パワースイッチ OFF 後の作動 ※2	あり	なし
検知エリア接近時の作動 ※2	あり	なし

※1 スマートエントリー&スタートシステム非装着車

※2 スマートエントリー&スタートシステム装着車

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エアコン（→ P. 306）

機能の内容	初期設定	変更後
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パノラミックビューモニター★	・バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき ・バッテリー能力低下時 ・ステアリングセンサー脱着後 ・ステアリングセンサー異常時	P. 289

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは
（症状別さくいん）.....486
車から音が鳴ったときは
（音さくいん）.....490
アルファベット順さくいん.....492
五十音順さくいん.....493

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）またはメカニカルキー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）をなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーまたはメカニカルキーを作ることができます。（→ P. 115）
- キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）または電子キー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）をなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→ P. 118）

施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？ （→ P. 364）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  パワースイッチが ON モードになっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
  （→ P. 173）
- スマートエントリー＆スタートシステム装着車
  電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→ P. 131）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→ P. 123）

故障かな？と思ったら

ハイブリッドシステムが始動できない（スマートエントリー & スタートシステム非装着車）

- シフトレバーは P になっていますか？ （→ P. 175）
- ステアリングロックされていませんか？ （→ P. 170）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？ （→ P. 455）

ハイブリッドシステムが始動できない（スマートエントリー & スタートシステム装着車）

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？ （→ P. 172）
- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 175）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 129）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 175）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法でハイブリッドシステムを始動することができます。（→ P. 453）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 455）

ブレーキペダルを踏んでいてもシフトレバーが P から動かない

- スマートエントリー & スタートシステム非装着車
  パワースイッチの位置が “ON” になっていますか？
  パワースイッチの位置が “ON” でブレーキを踏んでも解除できないときは（→ P. 183）を参照してください。
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
  パワースイッチは ON モードになっていますか？
  パワースイッチが ON モードでブレーキを踏んでも解除できないときは （→ P. 183）を参照してください。

ハイブリッドシステムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- スマートエントリー & スタートシステム非装着車
  盗難防止のため、キーをパワースイッチから抜くとロックされます。（→ P. 169）
- スマートエントリー & スタートシステム装着車
  盗難防止のため、自動的にロックされます。（→ P. 175）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
  ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→ P. 150）

パワースイッチが自動的に OFF になった（スマートエントリー & スタートシステム装着車）

- 一定時間アクセサリーモードまたはONモード（ハイブリッドシステムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 174）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 490）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージ（マルチインフォメーションディスプレイ装着車）が表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 398、405 をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
  車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 424）
- 応急用タイヤ装着車
  車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→ P. 439）

立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 469）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	シフトポジションがＰ以外になっている	P. 400, 420
	電子キーを車内に置き忘れている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 421
ハイブリッドシステムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 421
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 121, 130
	電子キーを車内に置き忘れている（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）	P. 420

走行しているとき／停止しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドアが確実に閉まっていない	P. 401, 409
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 399, 409
	運転席･助手席のシートベルトを着用していない ※	P. 401
アクセルペダルを踏んだとき	シフトポジションが N になっている	P. 182
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 162
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）★が作動した	P. 211
車線から逸脱したとき	LDA（レーンディパーチャーアラート）★を使用している	P. 223
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能★が作動した	P. 233

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....306
ABS
（アンチロックブレーキシステム）.....290, 399
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキ）.....290
ECO
（エコノミー／エコロジー）.....182
EDR
（イベントデータレコーダー）.....8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....290
EV
（エレクトリックビークル）.....178
FF
（フロントエンジンフロントドライブ）.....479
ILSAC CERTIFICATION
（イルサックサーティフィケーション）.....474
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....62
LDA
（レーンディパーチャーアラート／車線逸脱警報）.....223
LED
（ライトエミッティングダイオード）.....380, 407
PCS
（プリクラッシュセーフティ）.....211
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）.....248
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....36, 399
TRC
（トラクションコントロール）.....290
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....290

五十音順さくいん

あ

アームレスト 330
アウターミラー（ドアミラー）... 146
　操作 146
アクセサリーソケット 331
アシストグリップ 333
アンチロックブレーキ
　システム（ABS）..... 290
アンテナ（スマートエントリ&
　スマートシステム）..... 129

い

イグニッションスイッチ
　（パワースイッチ）..... 168, 172
一体可倒シート 137
イベントデータレコーダー
　（EDR）..... 8
イモビライザーシステム 78
イルミネーテッドエントリー
　システム 320
インジケーター 84
インテリアランプ 319
　ワット数 478
インナーミラー 145

う

ウインカー（方向指示灯）..... 185
　電球の交換 376, 377, 380
　方向指示レバー 185
　ワット数 478
ウインドウ 150
　ウォッシャー 194, 198
　パワーウインドウ 150
　リヤウインドウ
　　デフォッガー 309
ウインドウロックスイッチ 150
ウインドシールドデアイサー 309
ウォーニングランプ（警告灯）.... 398
ウォッシャー 194, 198
　液の補給 354
　スイッチ 194, 198
　タンク容量 476
　冬の前の準備・点検 301
運転 156
　寒冷時の運転 301
　正しい姿勢 26
　手順 156
　ハイブリッド車運転の
　　アドバイス 298

え

LED イルミネーションビーム.... 297
エアコン 306
エアバッグ 36
SRS エアバッグ警告灯 399
作動条件..... 41
配置 36
エコウォレット履歴..... 103
エコドライブモード..... 182
エネルギーモニター..... 109
エレクトリックパワー
ステアリング（EPS）..... 290
エンジン
イモビライザーシステム..... 78
エンジンがかからない..... 450
エンジン警告灯 399
オーバーヒート 463
ハイブリッドシステムの
始動方法..... 168, 172
パワー（イグニッション）
スイッチ 168, 172
ボンネット..... 350
エンジンオイル..... 473
冬の前の準備・点検 301
メンテナンスデータ 473
油圧警告灯..... 398
エンジンスイッチ
（パワースイッチ）..... 168, 172
エンジンフード（ボンネット）... 350

お

オートエアコン 306
オートマチックハイビーム.....229
オートレベリングシステム
（ヘッドランプ）..... 189
オーバーヒート 463
オープナー
給油口 203
バックドア 125
ボンネット 350
オイル（エンジンオイル）.....473
応急用タイヤ 439
空気圧 477
交換方法 439
お子さまを乗せるとき.....48
ウインドウロックスイッチ 150
お子さまの安全のために 47
子供専用シート.....48
シートベルトの着用.....32
チャイルドシートの取り付け ...61
チャイルドプロテクター 123
オドメーター 93, 96

か

カーテンシールドエアバッグ 36
外気温度表示 89
回生ブレーキ 70
外装の電球（バルブ）..... 370
　交換要領..... 370
　ワット数..... 478
買い物フック 335
カスタマイズ機能..... 480
型式..... 479
カップホルダー..... 324
カメラ
　前方カメラ..... 206
　単眼カメラ..... 206
ガラスの曇り止め
（リヤウインドウ
デフォッガー）..... 309
ガレージジャッキ..... 353
冠水路走行 165
寒冷時の運転 301

き

キー 114
　キーナンバープレート.....114
　キーの構成 114
　キーレスエントリー.....119, 125
　キーを無くした.....115, 118
　正常に働かない.....452
　施錠・解錠ができない.....452
　電子キー 114
　電池が切れた 364, 452
　ハイブリッドシステムが
　始動できない.....450
　メカニカルキー.....115
　ワイヤレスリモコン.....115
キーレスエントリー 119, 125
　スマートエントリー&
　スタートシステム.....119, 125
　ワイヤレスドアロック.....119
給油 200
　給油のしかた 200
緊急時シートベルト固定機構.....32
緊急始動機能
（ハイブリッドシステム）.....451

緊急時の対処
オーバーヒートした 463
キーの電池が切れた 452
警告灯がついた 398
警告メッセージが
表示された 405
けん引..... 391
故障したときは 384
車両を緊急停止する 388
水没したときは 390
スタックした 469
電子キーが正常に働かない.... 452
ハイブリッドシステムが
始動できない 450
発炎筒..... 386
パンクした..... 424, 439
補機バッテリーがあがった.... 455
緊急停止システム 73

く

空気圧（タイヤ）.....477
区間距離計
（トリップメーター）.....93, 96
駆動用電池.....72
充電について 70
搭載位置 72
冷却用吸入口 73
曇り取り
フロントガラス.....308
ミラーヒーター.....309
リヤウインドウ
デフォッガー.....309
クラクション（ホーン）.....143
クリアランスソナー 240
警告メッセージ.....416
操作.....240
クリアランスランプ（車幅灯）....187
スイッチ 187
電球（バルブ）の交換.....370
ワット数 478
クリップ
フロアマット 24
クルーズコントロール.....236
グローブボックス 322

け

警音器（ホーン）..... 143
計器類（メーター）..... 89
照度調整..... 96, 105
表示灯..... 87
マルチインフォメーション
ディスプレイ 99
警告灯 85
ABS ＆ブレーキアシスト..... 399
LDA
（レーンディパーチャー
アラート）..... 400
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 400
PKSB OFF 表示灯..... 400
SRS エアバッグ 399
エンジン..... 399
エンジンオイル圧力 398
オートマチック
ハイビーム 400
高水温..... 398
シートベルト非着用 401
充電 398
スリップ表示灯 399
燃料残量..... 401
パーキングブレーキ.....399
パワーステアリング.....399
半ドア 401
プリテンショナー.....399
ブレーキ 398
ブレーキアシスト.....399
ブレーキオーバーライド
システム／ドライブ
スタートコントロール 402
メンテナンス・点検.....404
警告ブザー
N レンジ.....182, 411
シートベルト非着用.....401
衝突警報 211
先行車発進告知.....233
パーキングブレーキ
未解除走行時.....398, 409
ハイブリッド
システム 399, 405
パワーステアリング.....399
半ドア 401
ブレーキ 398
ランプ消し忘れ..... 189
リバース 182
レーンディパーチャー
アラート（LDA）.....408
警告メッセージ 405
化粧ミラー（バニティミラー）....328
けん引.....391

こ

コートフック 334
交換
エアコンフィルター 362
キーの電池 364
タイヤ 439
電球 370
電子キーの電池 364
ヒューズ 367
工具（ツール）..... 426, 440
光軸調整ダイヤル 188
航続可能距離 93, 101
後退灯（バックアップランプ）
電球の交換 377
ワット数 478
高電圧部位 72
子供専用シート 48
小物入れ 323
コンライト
（自動点灯・消灯装置）..... 187

さ

サービスプラグ 72
サイドエアバッグ 36
サイド方向指示灯 185
電球の交換 380
レバー 185
ワット数 478
サイドミラー（ドアミラー）..... 146
操作 146
サンバイザー 328

し

シート 135
子供専用シート 48
正しい運転姿勢 26
調整 135
手入れ 343
ヘッドレスト 139
シートヒーター 316
シートベルト 28
お子さまの着用 32
緊急時シートベルト
固定機構 32
シートベルト
非着用警告灯 401
シートベルト
プリテンショナー 32
清掃・手入れ 346
正しい着用 28
チャイルドシートの固定 48
調整 28
妊娠中の方の着用 33
プリテンショナー警告灯 399
事故が発生したときは 76
室内灯（インテリアランプ）..... 319
始動のしかた 168
シフトポジション 182

シフトレバー 181
シフトポジションの
切りかえ 181
操作 181
リバース警告ブザー 182
シフトロックシステム 183
締め付けトルク（ホイール）..... 447
ジャッキ
ガレージジャッキ 353
車載ジャッキ 440
ジャッキハンドル 426, 440
車幅灯 187
電球の交換 375
ランプスイッチ 187
ワット数 478
車両型式 479
車両仕様（スペック）..... 472
車両接近通報装置 70
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 388
収納装備 321
手動光軸調整ダイヤル 188
瞬間燃費 92, 104

す

スイッチ
EV ドライブモード 178
LDA
（レーンディパーチャー
アラート）..... 224
PCS（プリクラッシュ
セーフティ）..... 215
アウターミラー 146
イグニッション 168, 172
ウインドウロック 150
ウインドシールド
デアイサー 309
エコドライブモード 182
シートヒーター 316
ドアロック 119
「ナノイー」..... 309
パーソナルランプ 319
ハザードランプ 385
パワーウインドウ 150
パワースイッチ 168, 172
非常点滅灯 385
フォグランプ 191
ランプ 187
リヤウインドウ
デフォッガー 309
ワイパー&
ウォッシャー 194, 198

スタック 469
ステアリングホイール
（ハンドル）..... 142
ステアリングロック 170, 175
調整 142
ストップランプ
電球の交換..... 380
ワット数..... 478
スピードメーター..... 89
スペアタイヤ（応急用タイヤ）... 439
空気圧..... 477
収納場所..... 439
スペック（車両仕様）..... 472
スマートエントリー&
スタートシステム..... 129
カスタマイズ機能 480
作動範囲..... 129
スイッチ..... 172
正常に働かない..... 452
節電機能..... 130
ドアの施錠・解錠 119
ハイブリッドシステムの
始動..... 172
バックドアの施錠・解錠..... 125

せ

清掃
外装.....338
シートベルト 346
内装.....343
制動灯
電球の交換 380
ワット数 478
積算距離計
（オドメーター）.....93, 96
節電機能.....130
先行車発進告知機能 233
洗車 338
前照灯（ヘッドランプ）
オートレベリング.....189
手動光軸調整ダイヤル 188
スイッチ 187
電球の交換 370
ライトセンサー.....189
ランプ消し忘れ警告ブザー 189
ランプ消し忘れ防止機能 189
ワット数 478
前方センサー
オートマチックハイビーム 206
先行車発進告知機能.....206
前方センサー 206
プリクラッシュ
セーフティ（PCS）.....206
レーンディパーチャー
アラート（LDA）.....206

そ

速度計（スピードメーター）..... 89

た

ターンシグナルランプ
スイッチ..... 185
電球の交換..... 376
方向指示レバー..... 185
ワット数..... 478
タイヤ
応急修理キット..... 424
応急用タイヤ..... 439
空気圧..... 360, 477
交換 439
スペアタイヤ..... 439
チェーン..... 301
点検 355
パンクした..... 424, 439
パンク修理剤..... 427
冬用タイヤ..... 301
ローテーション 355

ち

チェーン（タイヤチェーン）..... 301
チャイルドシート
ISOFIX バーでの固定..... 64
シートベルトでの固定..... 62
トップテザーアンカレッジ
を使用するときは..... 66
チャイルドプロテクター 123
駐車ブレーキ
（パーキングブレーキ）..... 186

つ

ツール（工具）.....426, 440

て

テールランプ
スイッチ 187
電球の交換 380
ワット数 478
手入れ
外装.....338
シートベルト 346
内装.....343
デッキボード.....326
デフォッガー
フロントガラス.....308
リヤウインドウ
デフォッガー.....309
電気モーター.....68
電球（バルブ）
交換.....370
ワット数 478
電子キー
作動範囲 129
正常に働かないとき.....452
節電機能 130
電池が切れた 364
電池交換 364
電子キーの電池が切れた 364

と

Toyota Safety Sense..... 205
オートマチックハイビーム.... 229
先行車発進告知機能 233
前方センサー..... 206
プリクラッシュ
セーフティ（PCS)..... 211
レーンディパーチャー
アラート（LDA)..... 223
ドア
ドアガラス..... 150
ドアミラー..... 146
ドアロック..... 119, 125, 129
半ドア警告灯..... 401
ドアガラス 150
ドアミラー
調整 146
盗難防止システム
イモビライザーシステム..... 78
時計 329
トップテザーアンカー 66
トラクションコントロール
（TRC)..... 290
トランスミッション
シフトレバーが
シフトできない 183
トランスミッション 181
トリップメーター
（区間距離計）..... 93, 96

に

荷物
積むときの注意..... 166

ね

燃費
瞬間燃費 92, 104
平均燃費 92, 103
燃料
ガソリンスタンドでの情報 508
給油.....200
残量警告灯 401
種類.....472
燃料計 89
容量.....472

は

パーキングサポートブレーキ.....248
警告灯 400
警告メッセージ.....406
操作.....250
表示灯 88
パーキングブレーキ
（駐車ブレーキ）..... 186
パーソナルランプ
スイッチ 319
ワット数 478

ハイブリッドシステム
インジケーター 97, 107
オーバーヒート 463
始動できないときは 450
始動方法..... 168, 172
ハイブリッド
システムの注意 72
ハイブリッド
システムの特徴 68
ハイブリッド車運転の
アドバイス 298
ハイマウントストップランプ
ワット数..... 478
ハザードランプ
スイッチ..... 385
電球の交換..... 376
ワット数..... 478
挟み込み防止機能
運転席ドアガラス 151
発炎筒 386
バックアップランプ（後退灯）
電球の交換..... 377
ワット数..... 478
バックドア 125
発進告知..... 233
バッテリー
冬の前の準備点検..... 301
補機バッテリーあがりを
防ぐために..... 457
補機バッテリーがあがった 455
バニティ（化粧用）ミラー..... 328
バルブ
交換..... 370
ワット数 478
パワーウインドウ 150
パワーコントロールユニット..... 72
パワースイッチ 168, 172
パンク
パンクした 424, 439
番号灯
（ライセンスプレートランプ）
スイッチ 187
電球の交換 378
ワット数 478
ハンドル
（ステアリングホイール）
ステアリングロック..... 170, 175
調整..... 142

ひ

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 211
ビークルスタビリティコントロール（VSC）..... 290
ヒーター
オートエアコン 306
非常点滅灯
スイッチ..... 385
電球の交換..... 376
ワット数..... 478
尾灯（テールランプ）
スイッチ..... 187
電球の交換..... 380
ワット数..... 478
ヒューズ 367
表示灯 84
ヒルスタートアシストコントロール..... 290

ふ

フォグランプ
スイッチ..... 191
電球の交換..... 380
ワット数..... 478
フック
買い物フック 335
緊急用フック 395
けん引フック 393
コートフック 334
輸送用フック 395
フューエルリッド（給油口）.....200
給油のしかた 203
冬用タイヤ.....301
プリクラッシュセーフティ（PCS）.....211
ブレーキ
回生ブレーキ 70
警告灯 398
パーキングブレーキ.....186
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる.....162
メンテナンスデータ.....476
ブレーキアシスト 290
フロアマット.....24
フロントアームレスト.....330
フロントシート
調整.....135
フロントシートの調整に関する警告.....135
フロントターンシグナルランプ
電球の交換 376
レバー 185
ワット数 478
フロントフォグランプ
スイッチ 191
電球の交換 380
ワット数 478
フロント方向指示灯／非常点滅灯
電球の交換 376
レバー 185
ワット数 478
分割可倒シート 136

へ

平均車速 92, 101
平均燃費 92, 103
ヘッドランプ（前照灯）
　オートレベリング 189
　手動光軸調整ダイヤル..... 188
　スイッチ..... 187
　電球の交換..... 370
　ライトセンサー 189
　ランプ消し忘れ警告ブザー.... 189
　ランプ消し忘れ防止機能..... 189
　ワット数..... 478
ヘッドレスト
　調整 139

ほ

ホーン（警音器)..... 143
ホイール 355
ホイールナットレンチ 426, 440
方向指示灯（ウインカー）
　スイッチ..... 185
　電球の交換..... 376
　方向指示レバー 185
　ワット数..... 478
補機バッテリー
　補機バッテリーが
　　あがったときは 455
　補機バッテリーについて..... 351
ボトルホルダー..... 325
ボンネット 350

ま

マルチインフォメーション
　ディスプレイ 99

み

ミラー
　アウターミラー..... 146
　インナーミラー..... 145
　ドアミラー 146
　バニティ（化粧用）ミラー 328
　ルームミラー 145

め

メーター（計器）
　表示切りかえ
　　ボタン 91, 93, 96
　マルチインフォメーション
　　ディスプレイ 99
　メーター 89
　メーター照度調整.....93, 105
メンテナンス
　メンテナンスデータ 472

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能.....480
油脂類.....472

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
スイッチ 187
電球の交換 378
ワット数 478
ライトセンサー 189
ラゲージルームランプ 126, 318
ワット数 478
ランプ
LED イルミネーションビーム 297
インテリアランプ 319
室内灯 318
電球の交換 370
パーソナルランプ 319
ハザードランプ 385
非常点滅灯 385
フォグランプ 191
ヘッドランプ 187
方向指示灯 185
ラゲージルームランプ 126, 318
ワット数 478
ランプ消し忘れ警告ブザー 189
ランプ消し忘れ防止機能 189

り

リヤウインドウデフォッガー 309
リヤシート
前倒し 136
リヤシートの調整に関する警告 138
リヤ方向指示灯／非常点滅灯
電球の交換 377
レバー 185
ワット数 478
リヤワイパー 198

る

ルームミラー 145
ルームランプ（室内灯）
スイッチ 318
ワット数 478

れ

レーンディパーチャーアラート（LDA） 223
冷却水
冬の前の準備・点検 301
容量 475
冷却装置
エンジンオーバーヒート 463

ろ

ロック
ウインドウロック 150
シフトロックシステム..... 183
ステアリングロック 170, 175
チャイルドプロテクター..... 123
ドアロック 122

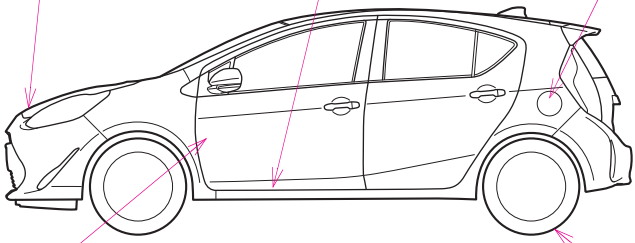
わ

ワイパー
フロント..... 194
リヤ 198
ワイパーデアイサー 309
ワイヤレスドアロック
電池交換..... 364
リモコン..... 115

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック	給油口オープナー	給油口
P. 350	P. 203	P. 200



ボンネット解除レバー	タイヤ空気圧
P. 350	P. 477

燃料の容量（参考値）	36L
燃料の種類	・無鉛レギュラーガソリン ・バイオ混合ガソリン（レギュラー）※　P. 472 ※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。
タイヤが冷えているときの空気圧	P. 477
エンジンオイル容量（参考値）	P. 473
エンジンオイルの種類	P. 473

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800-700-7700

オープン時間　365日　9:00～18:00

所在地　〒450－8711　名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jp にて掲載しております。

「リコール等情報」については、
http://toyota.jp/recall/index.html にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

ニ-82

M 52K96
01999—52K96
IC-2019年 6 月24日
2019年 7 月 1 日 初版
アクア